Cardician's Journal Special

＜第 4 巻＞

Cardician's Journal No.151 ～ No.200

加藤英夫　著

リンク映像について

当書に記載されたリンクは、サイトもしくはページにリンクしておりません。その映像がまだ存在する場合は、"Cardician's Journal" の該当号に含まれたリンクからダウンロードしてください。

© Hideo Kato 2012 年 5 月 6 日

Cardician's Journal

No.151

2010 年 11 月 5 日

演出を先に考える

10 月 30 日に小学校のクラス会があり、またマジックを依頼されました。これで 3 回目ですが、そのつど新しい見せ方を工夫して、それなりの収穫を得るようにしています。

たった 7, 8 分のカードマジックのショーではありますが、ショーであることに違いはありません。ショーを構成するとき、たいていの場合は先に演し物を決めてから、それらをどのような演出で見せようかと考えるのではないでしょうか。大勢の出演者のショーであれば、さきに出演者を決めて、それから演出を考えるというのに似ています。

しかしショーを面白くするには、演し物を決めてから演出を考えるのではなく、演出を決めて、それに合う演し物を選択するというのが、ショー構成のあり方ではないかと思い立ちました。

今回のクラス会では、観客のうちの 2 人をマジシャンに仕立て、彼らの力を借りて不思議なことを起こすという演出を採用することにしました。

「今日は、誰でもマジシャンになれることを証明してみたいと思います。とは言っても向き不向きがありますので、いままで観察してさせていただいて、尾形さんと山中さんが適しているとわかりました。お二人にお手伝いいただきます」と言って始めます。

この演出に適した演し物として、'アウトオブジスワールド'と'トライアンフ'を演じることにしました。とは言っても、ポール・カリーやダイ・バーノンの原案どおりに演じる気はさらさらありません。

途中でリーダーカードの色を替えるということだけでも、私はカリーの原案通りに演じることは、いままでの生涯で 1 回もやったことがありません。赤と黒がよく混ざったデックを二分

して、2 人の客にそれぞれを渡し、2 人が分けたパケットを表向きにスプレッドすると、赤と黒が分かれているというストレートなやり方で演じました。そして赤と黒を 2 人がうまく分けたと言って、2 人に拍手をうながします。

トライアンフはつぎのように演じます。「この間、このように選ばれたカードを当てるマジックをやったところ、カードをシャフルしてくれと言ったら、こんなやり方をされてしまいました」と言って、裏と表でシャフルし、裏表がよく混ざった状態を見せます。バーノンの原案では、混ざった状態を広げて見せることなどできません。いくらトライアンフシャフルが効果的であると言っても、20 人相手のショーにおいては、カードを広げて混ざっているのを見せる方がいいに決まっています。

「このような困った状態ではもちろんマジックが役に立ちます。まず山中さんに魔法をかけていただきましょう」と言って、山中さんにデックに対して魔法をかけてもらいます。「そうるすとこのような状態になります」と言って、デックを表向きにリボンスプレッドします。表向きにそろい、1 枚だけ裏向きのカードがあります。

裏向きのカードを抜き出し、「つぎはこのカードに尾形さんに魔法をかけてもらいます」と言って、尾形さんに魔法をかけてもらいます。このとき、二人ともその気になってすごいパワーで魔法をかけてくれました。これが観客の笑いを誘いました。

「さて、このカードが選ばれたカードであったとしたら、山中さんと尾形さんの魔法で、このマジックが成功したことになります。お選びになったカードは何でしたか」と言って、選ばれたカードを見せます。

「はいうまくいきました。山中さんと尾形さんに拍手をお願いいたします。有り難うございました」と言って、左にいる山中さんと右にいる尾形さんを示すために両手を広げて状態で、そのままバウを取り、ショーを締めくくりました。

このショーは大成功でした。これからの私のカードマジックの研究は、演出を考えるということを大切にしていきたいと思います。

補　足

よくトライアンフの見せ方で、最後にデックをスプレッドするとき、表向きがよいか裏向きがよいか、という議論がなされることがありますが、その瞬間のビジュアルインパクトは、裏向きにスプレッドして、選ばれたカードを同時に現した方が強いとは思いますが、ショーというものは、ビジュアルインパクトの強さよりも、演出の起承転結を重視

するべきことがあります。

上記の演出例は、その大切さを示す好例であると思います。20 人もいる観客相手に、デックを裏向きにスプレッドして選ばれたカードを表向きに現して、「ほらすごいでしょう」とポーズをとったところで、後の方にいる人には、そのインパクトは伝わりません。

いいえそうではありません。スプレッドした時点でインパクトを与えること自体が、演出によっては間違っていることがあるのです。今回の例のように、2 人の客に手伝ってもらうとか、しかもこのトリックでショーの終わりとしての拍手をとりたい場合には、デックを表向きにスプレッドして、それから裏向きのカードが選ばれたカードであるのを見せる、という方が適しているのです。

マジックをショーとして人に見せるとき、トリックを出発点として考え始めるのではなく、演出を出発点として考えるということの大切さ。それ以上に、そのショーをやって、その場をどのようにしたいのかという、そもそもそこでマジックをやる目的を明確にすることから、ショー構成は始めるべきだと思います。

クラス会は全員親しい友達なのですから、自分がすごいマジシャンであることを見せるよりも、いっしょに楽しむことが大事です。その点、2 人の友達をマジシャンにするという演出は、その目的にかなっていたものであることが、場の盛り上がり方を体験して、間違っていなかったと得心いたしました。

補 足 2

私が演じた ' アウトオブジスワールド ' のやり方は、私がこのクラス会で演じることをきっかけに完成させたもので、私の知るかぎりでは、最強のバージョンだと思います。クラス会が終わるまで、「あれはすごい」と何人にも言われました。演技を終わったあとの持続する反響のすごさというものを、今回体験することができました。

このバージョンは、すでに書き上がっている一部を変更してでも、″Card Magic Library″ 第 10 巻に加えるつもりでいますので、ご期待ください。

Cardician's Journal

No.152

2010 年 11 月 12 日

座禅体験

北陸を旅行しつつ、曹洞宗大本山永平寺で座禅体験してきました。私のいちばんの興味は、無の境地になれるのかどうかということでした。面白いことに説明通りの姿勢をとり、座禅状態が始まったとたん、私の心はいままでに感じたことのない状態になりました。頭が何かを考えようとしても、考えが先に進まないのです。完全に無にはならなくとも、頭の中で浮かびかけたことが、先に進まず、すぐ立ち消えてしまうのです。

始めるまえは、きっと座禅中にカードマジックをひとつぐらい思いついてしまうのではないかと思っていましたが、そんなことにもならず、頭の中にわずかに浮かびかけたことも、まったく記憶していないほど、ほんの少しは無の境地に近づけたのかもしれないと思っています。

さて座禅体験を終えたいま、自分の心と頭を空っぽにするということは、何に役立つのだろうかと考えてみました。もちろんそれは、心を冷静に保つ訓練でもありますし、心の中に余裕空間を広げるという、直接的な効果があることは明白です。

私は心の中をいったん空にするということを、積極的にカードマジック研究に応用してみたいと思いました。

心や頭の中を空にするということは、けして中にあったものを捨てるということではありません。いったんそれらを自分の外に出して、それらを客観的に見直すということではないかと思うのです。見直して、良くないものは除外し、良いものをまた自分の中に戻し、その結果、自分の中にあるもののクオリティのレベルアップをすること、これが座禅体験を終えた瞬間に、私の心の中でひらめいたことでした。

そう思いついたとき、私がその作業をすでに実行中であることに気づきました。

″Card Magic Library″を書くということは、私の中にあるものを、外に出しながら整理しているのです。ひとつのテーマに関する作品や知識をリストアップし、その中から後世に残す必要のないものを捨て去り、残すべき価値のあるものを、その価値が読む人に伝わるようにアレンジして、本という入れ物の中に並べ直しているのです。

ですから第10巻までそろったとき、それはいままで雑然と存在していたカードマジックを、加藤英夫というフィルターを通して浄化してまとめた、カードマジック体系であることになります。しかしそれだからといって、私が素晴らしい仕事をしていることになるでしょうか。その作業は、たんに良くないものを捨てて、良いものを並べ直しているだけなのです。

座禅というものは、過去の自分を整理するだけでなく、整理したあと、未来の自分がどうあるべきかということに結びつけてこそ、真の力を発揮するものだと思います。

″Card Magic Library″を完成させたあと、それらの中からとくに価値のあるものを抽出し、それらをさらにグレードアップする作業こそ、私がなすべきことなのです。それが座禅体験を通して得られた結論です。

グレードアップする方針はすでにわかっています。最近の″Cardician's Journal″でたびたび取り上げてきた、演出を優先してカードマジックを考えるという概念です。すなわち、原理や技法や仕掛でどのような現象を生み出すかという思考順序はなく、観客にどのように感じさせたいかという出発点から、原理や技法や仕掛を利用して組み立てるということです。

しかしここではたと気づきました。第10巻まで発行したとしても、私のカードマジックの研究と考案は、整理しきれないのです。おそらく第15巻ぐらいまでまとめないと、その領域には達しません。座禅体験したおかげで、たいへんなことに気づいてしまいました。やるべきことが増えてしまいました。ぐずぐずしている場合ではありません。

Cardician's Journal

No.153

2010 年 11 月 19 日

インスタンテイニャスダブルリフト

ヤコブ・ダレイの ' インスタンテイニャスダブルリフト ' は、ゲットレディでブレークを作ることなしに行うダブルリフトの代表的なやり方です。″ スターズオブマジック ″ に初めて登場しました。(″Card Magic Library″ 第 1 巻に解説いたしました)。

カードをつかむ位置

ダレイ自身は、″ スターズオブマジック ″ から引用した下図のように、右サイド中央と右下コーナーの中間あたりでリフトしていますが、現代の多くのマジシャンは、右下コーナーでリフトしています。

その理由は、なるべく下の方でリフトした方が、右上コーナーで 2 枚の間にすき間が起きにくいからだと思います。

リフトの瞬間の気配対策

ジェイ・サンキーがあるビデオでこのダブルリフトを使っていたとき、右下でリフトしたあと、2 枚の下に入れた人さし指を、2 枚の右サイド中央までずらして、そこをつか

んでターンオーバーしていました。この理由は何でしょうか。

ビベルによって少しずれた 2 枚をリフトするには、2 枚のエッジを指先で 2 枚であることを認知してから持ち上げますが、観客から見たら、そこで何かをやっている気配を感じさせる可能性があります。

サンキーはリフトの動作を、コーナーで指先をエッジに当てて、指をサイド中央までずらす間に、2 枚を認知してリフトしているのです。指先を止めてリフトすれば怪しさが目に止まりますが、動かしながらやれば目立たなくなるのです。

そのように、秘密の動作をカモフラージュするには、別の動作をオーバーラップさせるという手法があり、サンキーの方法もその一例です。しかしながら、指を右下コーナーから中央までずらすという、カバーするための動作自体が怪しく見えてしまうのでは、元も子もありません。

サンキーのそのやり方は、カードを取り上げるのにはあまりにも重く見えるので、初めからサイド中央をつかみ、しかも右上コーナーで 2 枚が開かない方法がないかと模索いたしました。そして見つけました。なぜ 2 枚の右上コーナーが開くかという論理的理由が。

人さし指で右サイド中央でリフトしようとすると、人さし指は親指よりも前に位置します。ですから、そこで 2 枚を持ち上げようとすると、親指よりも前が先に持ち上がろうとします。ですから、右上コーナーで 2 枚が開くのです。

そこで私は人さし指ではなく、中指でリフトしたらどうかと思い立ちました。’目から鱗’とはこのことです。親指よりも手前が先に持ち上がりますから、右下コーナーでは 2 枚が開いたとしても、右上コーナーでは 2 枚がしっかりくっついたままリフトされるのです。

しかも、人さし指でリフトすれば、その動作は観客側から見えます。しかし中指の動作は、人さし指が前にあることによって、観客からは見えないのです。

このようにして、いっぺんに 2 つの問題が解決してしまいました。しかも人さし指でリフトするよりも、中指でリフトする方がやりやすいのです。これにも論理的な理由があります。人さし指でやろうとすると、指先の端の方がカードに当たりますが、中指の先だと、より指先の腹に近い部分、すなわち神経がより鋭敏な位置でリフトすることになるからです。

ターンオーバー

ダレイの方法の解説では、デックの手前エンドより半インチ（約 1.2cm）も手前に突き出るように返せと書かれています。もちろんそれは、裏向きに返すときにつかみやすくするためです。しかし手前にジョグさせるのは、カードの表を観客に見せるという動作として、不自然と言わざるを得ません。

幸いなことに私たちは’アルトマントラップ’や’ヒューガードトラップ’を知っています。（″Cad Magic Library 第 1 巻）。表向きに返した 2 枚をトラップで受けて、すぐ右サイドを右手でつかんで取り上げ、まとこにナチュラルなダブルターンオーバーの完了です。

今回の研究で、それらのトラップではなく、たんに前方に少しずらして置くだけでも、表向きに返した 2 枚をスムーズに取り上げられることに気づきました。そのようにアウトジョグ状態に置くと、左人さし指の上に前端がのることになりますから、左人さし指を少し持ち上げてやれば、2 枚を浮かすことができるので、右手でつかむことができるのです。

今回はここまでとしておきましょう。私は右中指でリフルとする方法を練習する過程において、リフトという動作の必要のない、ダブルターンオーバーを発見するにいたりました。2 枚をリフトしないで表向きにするとは、はたしてどういうことでしょうか。次週説明いたします。

Cardician's Journal

No.154

2010 年 11 月 26 日

リフトしないダブルターンオーバー

先週、デックを右にビベルして、右サイド中央を右中指でリフトするやり方を説明いたしました。そのやり方を練習するうちに、リフト動作の必要ないやり方を見つけたと述べました。

右サイドを大きくビベルすると、トップの数枚が 1mm 程度ずつずれます。2 枚目と 3 枚目のずれた部分で、中指の先で境目を認知して、2 枚を持ち上げる動作が ' リフト ' です。

それを繰り返し練習するうちに、たまたま中指を持ち上げるのではなく、右にずらしたのです。すると、2 枚のカードだけが中指といっしょに右にずれました。2 枚を少しずらしてから、2 枚を左に返してやると、自然にずれがそろいながらデックのトップに着地します。

持ち上げるのが ' リフト ' であるとするなら、これは ' スライド ' と呼ぶべき動作です。

リフトとスライドを比較すると、一長一短があります。リフトでは 1 枚目と 2 枚目のずれが 1mm 以内でも可能であるのに対して、スライドさせるには 1mm では困難で、2mm 近くないとスムーズにできません。ところが 2mm 近くのずれが許されるなら、スライドの方がリフトのように動作がつっかえることなく、スムーズにできます。

″impressing singleness″ とは

私はスライドによる新しいダブルターンオーバーを発見したと思い、喜びました。ところがこの方法を鏡の前で練習を繰り返すうち、根本的な問題が浮かび上がってきました。1 ～ 2mm ずらしてスライドしたあとは、続けて表向きに返してトップにのせるしか

ないというということです。ずれた状態の 2 枚を取り上げるわけにはいかないからです。

リフトで取り上げるやり方では、右に運ぶということがないので、少しのずれは左親指のつけ根でアジャストできます。ですからリフトしたあと、2 枚を取り上げることができるのです。

右にずらした 2 枚をそのまま表向きに返すか、それともいったん取り上げてから表向きにしてトップに置くか、これはダブルターンオーバーの外観として大きな差となります。

ここに英語圏のマジシャンが表現する ″impressing singleness″ ということの重要性が浮かび上がってきます。この表現を日本語に直せば、″1 枚らしさを表現する ″ ということになります。

ダブルリフトやダブルターンオーバーとは、たんに 2 枚をそろえて取り上げたり返したりすればよいのではなく、あくまでも 1 枚を取ったように、もしくは 1 枚を返したように感じさせなければならないのです。

1 枚取ったことを強調する方法について、いままでのやり方を検証してみましょう。

ゲットレディでブレークを作って、ダブルプッシュオフしてから表向きに返すやり方は、トップカード 1 枚をはっきり押し出したように見えることが、1 枚らしさを表現しています。

バーノンのダブルリフトも、やはりトップカードをはっきり右にずらしてから取り上げています。

手前エンドを右親指でリフトして、縦にパチンと弾いて返すやり方は、ジェニングスがやってはいけないといったやり方ですが、それが物議を起こしたことは別にして、パチンと弾く行為は、1 枚らしさを表現する方法です。

リー・アッシャーのダイビングボードダブルのように、重ねた 2 枚を空中に飛ばすやり方は、1 枚らしさを表現する極端なやり方です。

フリッキングダブルターンオーバー

= 加藤英夫、2010 年 11 月 25 日 =

以上書いたこと以外に様々なことを考えましたが、思考の最終到着地点は、右サイド中央を右中指でリフトする方法に、1 枚らしさの表現を加えたものになりました。

右サイド中央で 2 枚をスライドしつつ左に 45 度ぐらい傾けて、ずれを解消します。そのとき、傾いた 2 枚の左上コーナーに左親指の先が当たっています。図 1。

そこで左親指をそのままの位置にして、2 枚の左上を弾き上げます。弾いたあとは 2 枚が水平になるようにします。「パチン」と弾ける音がします。

続けて 2 枚を左に表向きに返して、アルトマンとラップもしくはヒューガードトラップに受けます。

Cardician's Journal

No.155

2010 年 12 月 3 日

シンパセティックトライアンフ

= 加藤英夫、2010 年 11 月 19 日 =

娘の嫁ぎ先の親戚で集まりがあり、マジックを演じることになりました。今回で二度目になり、前回はトライアンフを演じましたので、今回はあえて、そのとき見せたトライアンフをパワーアップしたものを演じることにいたしました。つぎのような現象です。

「ある所で起こったのと同じことが、別の所でほとんど同時に起こるということがあります。今日はそのような一致現象をカードを使ってやってみたいと思います」と言って、赤裏のデックと青裏のデックを取り出します。赤裏のデックを表向きに広げて、全部向きがそろっていることをはっきりと見せます。そしてそろえて表向きのまま置いておきます。

青裏のデックも向きがそろっているのを見せ、その中から 1 枚選んでもらい、おぼえたらデックに返してもらい、よくシャフルします。この青裏デックを 2 組に分けて、裏と表でシャフルして、表向きと裏向きがよく混ざったことを見せます。

いま表と裏を混ぜたことが、他方のデックに影響を与えたと言って、赤裏のデックを広げると、なんと裏と表が混ざった状態になっています。またそろえてテーブルに置きます。

青裏デックに対して魔法をかけてから、両手の間に広げます。カードが表向きにそろっていて、1 枚だけ裏向きになっています。裏向きの 1 枚をアップジョグ状態にして、青裏デックをテーブルに置きます。

いま青裏デックで起こったことが赤裏デックに影響を与えたと言って、赤裏デックを広げると、カードが表向きにそろっていて、1 枚だけ裏向きになっています。ここで選ばれたカードを告げさせます。それぞれのデックの裏向きのカードを抜いて表向きにすると、どちらも選ばれたカードです。

青裏のデックで行うのは、″Card Magic Library 第 10 巻 ″ で解説しているので、ここでは説明いたしません。赤裏デックで行うことについて説明いたします

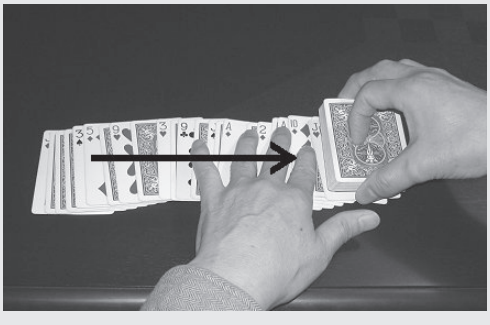
赤裏デックは ’ インビジブルデック ’ を使います。と申し上げれば、上記の現象で赤裏デックで行うことがわかると思います。インビジブルデックを裏表混ざった状態にスプレッドするのです。問題は、どうしたらそのように広げられるかということです。

セパレートスプレッド

= 加藤英夫、2010 年 11 月 19 日 =

’ インビジブルデック ’ をドリブルオフスプレッドすると、ほとんど裏面が現れます。どうしてだかわかりますか。それは、裏面にラフ加工の薬剤が塗ってあるので、微妙にカードとカードの間にすき間があくのです。ですから、裏面と裏面の間でカードが分かれやすいからです。

ドリブルオフできる状態に右手にデックを持ち、左手を右手の左側に位置させます。そしてドリブルオフしながら右に落としてスプレッドしていき、左手は右手を追いながら、落ちたカードを右に広げていくのです。これで裏表が混ざった状態に広がります。下図。



時間のかかるトライアンフ

= 加藤英夫、2010 年 12 月 2 日 =

準　備

ノーマルデックとインビジブルデックを使いますが、インビジブルデックはポケットに入れておきます。

方　法

相手に 1 枚のカードを選んでおぼえさせ、デックに返させたらボトムにコントロールします。

「今日は選ばれたカードを当てるのに、世界中のマジシャンがよく使っている、トライアンフというやり方で当てます。まず、カードを裏表でたらめに混ぜます」と言って、2 組にカットして、上半分を表向きに返し、両パケットをスプレッドして、裏と表であることを見せます。それから両パケットをリフルシャフルします。そのとき、ボトムにある選ばれたカードをグリンプスします。

「このように裏表混ぜたのに、しばらくするとカードの向きがそろってしまい、選ばれたカードだけがひっくり返っている、というのがトライアンフというマジックです。私のやり方には、長所と短所があります。長所は、このやり方が世界でいちばん不思議なやり方だということです。短所は、カードがそろうまでに時間がかかるということです。3 分近くかかるので、今日は時間がないので、あらかじめ裏表混ぜた別のカード 1 組を用意してきました」と言って、ポケットからインビジブルデックを取り出します。

インビジブルデックをケースから出して、「裏表混ぜてからだいぶたっていますから、もうそろっているはずです」と言って、選ばれたカードが裏が上になるように、セパレートスプレッドを行います。裏表混ざっているので、「あれっ、まだそろっていませんね」と言って、時計をのぞき込みます。「失礼、あと 1 分ほどかかりそうです」と言って、カードをそろえます。

「カードがそろうまで、コインマジックをお見せしましょう」と言って、適当なコインマジックをやります。それから時計を見て、「もうそろっているはずです」と言って、インビジブルデックを広げ、選ばれたカードだけ裏向きに出します。そしてそのカードをアップジョグします。

選ばれたカードを名乗らせてから、アップジョグカードを抜いて、選ばれたカードであることを見せます。

備　考

最初に使ったデックで、通常のトライアンフの操作を行っておき、「こちらの方も時間がたっているので、もううまくいっているかもしれません」と言って、相手に広げさせて、選ばれたカードがひっくり返っているのを見せる、というやり方もできます。この場合にも、″Card Magic Liberary″10 巻で解説する方法を使うと、最高の効果を発揮すると思います。

けっこう面白い作品ができたと思います。

Cardician's Journal

No.156

2010 年 12 月 10 日

トラブルシューティング

= 加藤英夫、2010 年 12 月 5 日 =

先週、インビジブルデックをセパレートスプレッドして表と裏が混ざったことを見せる手法を説明いたしました。そしてそれを応用した、インビジブルデックとノーマルデックを使う ' トライアンフ ' を説明いたしました。

今回は、インビジブルデック 1 組だけで演じられるバージョンを検討します。インビジブルデックのみを使うということは、デックを裏向きに広げて、相手に 1 枚のカードを選ばせることができないという問題と、裏向きの半分と表向きの半分をシャフルする部分を見せることができないという問題点があります。

その 2 つの問題点をハンドリング的に解決することは困難なので、演出で解決することにしました。

方　法

あらかじめ、インビジブルデックのどちらかの側のいちばん上のカード 1 枚を裏向きにしておきます。そうすると、その側には裏が外に向いたカードが 2 枚あることになります。その 2 枚はペアのカードです。その状態でデックをケースに入れておきます。

デックを裏を上にしてケースから取り出します。「先日、相手が選んだカードを当てるというマジックをやって、困った状態になりました。これが相手が選んだカードだとします」と言って、トップの 1 枚を裏向きのまま右手に取って示します。

「相手にカードを背後に運ばせ、選んだカードを 1 組の中に入れてもらいました」と言って、デックを持った左手と 1 枚を持った右手を背後にまわします。

「そのあと背後でカードをシャフルしてもらいました」と言いますが、右手のカードを表向きにしてもとの位置に戻し、デックをリフルシャフルする真似をして、いかにもリフルシャフルする音をたてます。

「カードを受け取ってテーブルに広げました」と言って、セパレートスプレッドします。「すると裏と表が混ざっていたのです。相手がわざとやったのか間違ってやったのかわかりませんが、とても困った状態になってしまいました」と言います。カードを閉じます。

「パソコンの世界では、困った状態を解決することトラブルシューティングと言いますが、マジックの世界では、困った状態を解決するには、このようなことをやります」と言って、デックに対して両手を合わせて祈ります。

「結果をお見せするまえに、相手が選んだカードが何であったかを、あなたに決めていただきます。52 枚のうち、適当な 1 枚を言ってください」と言います。

「カードがどうなっているかをお見せしましょう」と言って、デックを広げ、相手の言ったカードを裏向きに現して、アップジョグさせます。

「このカードを見せたとき、相手はたいへんビックリしました」と言って、アップジョグカードを抜いて表向きに返して見せます。「相手が選んだカードだったのです」と言って終わります。

なぜバリエーションを作るのか

インビジブルデック本来の最高の演じ方があるのに、なぜ上記のようなバリエーションを作り、しかも発表するのでしょうか。すでに傑作とみなされている作品のバリエーションは、ほとんど全部といってよいほど、原作を越えることはありません。

それはクリエーターの自己満足と指摘されればそれまでです。インビジブルデックに関しては、ノーマルデックで同じ現象を演じようなどという考えには、私も「無駄なことはやめた方がいい」と叫んでしまいます。

しかしながら今回のような演出的なバリエーションについては、私は少なくとも試して見る価値があると思います。

私は上記のやり方を思いついたおかげで、「困った状態」というのをテーマにしたマジックショーを構成することができることに気づきました。たとえばつぎのようなイントロ話でショーをスタートするのはどうでしょうか。

「マジックを長年やっていると、困った状態になることがよく起こります。たとえば、デパートの屋上でマジックを演じたことがありますが、鳩を出現させたその瞬間に強い風が吹いたのです。鳩は風に乗って飛んでいってしまいました。今日は、カードマジックで困った状態、というのをテーマにしてお見せしたいと思います 」。

まえからお話ししていますが、これからのマジックの創作は、演出を大切にして進めることにしています。言ってみれば、カードトリックは料理の材料みたいなものです。材料をどのように料理して提供するかが、演出だと思います。

カードトリックという材料に味をつけると、カードマジックという料理になり、それらをうまくつなげて演じると、フルコースのディナーとなるのです。

Cardician's Journal

No.157

2010 年 12 月 17 日

無実の証明が有罪を証明する

今日は以下の YouTube ビデオの ’トライアンフ ’ を検討します。このバージョンについては、以前にも取り上げたような記憶がありますが、以前に述べたことと重複することがあったとしてもお許しください。

http://www.youtube.com/watch?v=2DgO1letYVc

裏向きの半分と表向きの半分をリフルシャフルしたあと、上の部分を広げて、裏と表が混ざっていることを見せます。これは、リフルシャフルによって本当に裏表を混ぜたことを証明するために行っています。

そのあとデックをリボンスプレッドすると、全体が表向きになっていて、1 枚だけ裏向きに現れ、それが選ばれたカードであることが見せられます。(演技の最初の方で、選ばれたカードの表を見せていないのがご愛敬ですが)。

裏表が混ざったことを証明するために、デックの上の部分を広げたことが観客の記憶に残っているとすれば、リボンスプレッドされたときに、上の部分が広がっていないことに気づく可能性が大です。

試しに私の妻にこの映像を見せましたが、いちど目は気づきませんでしたが、「どこが怪しいかよく見てくれ」と言ってもういちど見せてときには、上の部分が広がっていないのに気づきました。

私は裏と表が混ざったのを見せるために上の部分を広げるのは、割愛した方がよいと思います。その証明が、つぎに上の部分が広がっていないことを気づかせる要因になり得るからです。それだけではありません。

リフルシャフルのまえに、裏の半分と表の半分をスプレッドして見せるのはたいへん効果的で、そのままリフルシャフルして、サイドを見せてよく混ざったのを見せたのですから、すぐにスプレッドして全体が表向きになったのを見せた方が、現象のインパクトが強いと思うのです。

上の部分が混ざったのを見せていないのですから、その部分に疑いが持たれる可能性は、広げて見せた場合よりもはるかに低いと思います。

あれは無実の証明ではない

しかしよく考えてみると、デックの上の部分を広げて見せることは、裏表が混ざったことを見せることよりも、赤裏を印象づけることの方が重要であると思われます。そうしなければ、そのあとの裏面のカラーチェンジ現象のインパクトが弱くなるからです。

どうせギャフカードを使うなら

裏面が赤から青に変化したのを見せるために、ギャフカードを使っています。下半分は初めから青裏で、上の半分のうちのその半分は、色違いの DB です。

ということは、選ばせるカードはフォースするしかありません。この演技では、「このカードが選ばれたとします」と言って、マジシャンが適当に抜き出しています。

そんなことは観客に直接見せる演技ではやりたくありませんが、それが許されるものとして、話を続けます。

どうせ DB というギャフカードを使うのなら、つぎのようなギャフカードを使うのはどうでしょうか。そんなものは販売されてはいませんが。

一面は青で、反対面は縦半分が赤裏で、残りの縦半分がカードの表面です。

そのようなカードを使えば、リフルシャフル後に、完全にデック全部をスプレッドして、裏と表が混ざったのが見せられます。シャフルまえに、裏向きの半分と表向きの半分を広げて見せるのも、全部を完全に広げて見せることができます。

どうせギャフを使うのなら、こちらの方がベターな現象となります。そもそも裏と表のパケットを左右の手で広げて、裏向きの方が全部裏向きであるように思わせるあのアイデアは無用なものとなります。

マジシャンが適当にカードを抜き出す正当性

マジシャンが適当にカードを抜き出すことを正当化できないわけではありません。それには、前号で解説した’トラブルシューティング’の演出をそのまま使えばよいのです。「先日、相手が選んだカードを当てるというマジックをやって、困った状態になりました。これが相手が選んだカードだとします」と言って、しかるべきカードを抜き出せばよいのです。

演出がハチャメチャになる

そのような演出を採用したとしたら、「相手が裏と表を混ぜてしまったのに、マジシャンはカードの向きをそろえてうまく解決した」という演出の主旨に対して、最後に裏の色が変化するということが、うまく解け合いません。

そもそも上記の映像の演技においてさえ、トライアンフ現象のあとに裏面の色が変化するということが、うまく解け合っているのでしょうか。私にはそうは思えません。

けっきょくのところ

一方のパケットが全部裏向きのように見せるあのアイデアを生かすには、結局のところギャフカードを使わずノーマルデックだけで、裏表混ぜた直後にすぐカードがそろって、選ばれたカードだけひっくり返っているという、本来のトライアンフの現象として演じるのが一番だと思います。

その方法は次回解説いたします。

Cardician's Journal

No.158

2010 年 12 月 24 日

クイックトライアンフ

= 加藤英夫、2010 年 12 月 15 日 =

先週紹介した、ケント・ガン氏のトライアンフを出発点として考えたバージョンです。

準　備

デックを裏向きにして、上下エンドを押し下げるタイプのブリッジをかけます。使用するデックがかなり使われていて、裏向きと表向きの境目がナチュラルブレークで識別できるような状態になっている場合は、ブリッジする必要はありません。以下の説明では、″ナチュラルブレークを利用して″という表現によって、境目から分けることを説明しています。

13 枚のカードを表向きにしてボトムに置きます。そのあと 1 枚の裏向きのカードをボトムに置きます。その結果、ボトムから 2 枚目～14 枚目のみ表向きとなり、他は裏向きとなります。

方　法

デックを両手の間に広げますが、表向きが出ない範囲でなるべく広く広げます。広げた状態で両手を上げて、カードの表を相手に向けて、「この中からあなたに 1 枚のカードを抜いていただきます」と言います。両手を下げて、1 枚のカードを抜かせます。

相手が抜いたカードを見ておぼえているうちに、デックを中央からカットします。なるべく正確に中央でカットするようにしてください。

右手で相手からカードを受け取り、表向きになっている部分の中央にさし入れます。表向きの 13 枚のなるべく中央近くに入れるようにします。半分さし入れたところでカードを立てて、その状態で相手のカードを完全に押し込みます。

「この間このマジックをやったとき、相手にカードを渡してシャフルしてくれと言ったら、このようなやり方をされてしまいました」と言って、デックをナチュラルブレークを利用して中央から分けて、下半分を表向きにして右、上半分をそのまま左に置きます。

「その人はカードを分けて一方を逆向きにしました。そして裏向きのカードと表向きのカードをシャフルしてしまったのです」と言って、両パケットをリフルシャフルします。なるべく細かく混ぜます。最後に表向きの 1 枚を落とします。

デックを取り上げて、ナチュラルブレークを利用して、下から 13,4 枚目ぐらいにある、相手のカードの上にブレークを作ります。「当然カードは裏表でたらめに混ざってしまいました」と言って、カードをゆっくり広げていきます。

中央あたりまで広げると、裏向きのカードがなくなって、表向きのカードが出始めます。表向きのカードが 5,6 枚続けて出たら、そのあとブレーク上のカードをプッシュオフします。きちっとそろえてプッシュオフするのではなく、全部が表向きだとわからない範囲で、なるべくずらして押し出します。すると、そのあと裏向きの 1 枚が見えます。そのあとの 3,4 枚の表向きのカードを広げたところでストップします。

以上の操作によって、42,3 枚を広げたことになります。ほとんどデック全体が裏表混ざっているように見せたことになります。カードをそろえるとき、中央あたりの裏向きと表向きの境目にブレークを作ります。

「このような困った状態では、マジシャンは本当の魔法に頼ることにしています」と言って、ダブルカットを行いますが、1 回目はナチュラルブレークを利用して、相手のカードの上で分けて上にまわし、つぎはブレークから分けて上にまわします。最初は裏向きが見えて、つぎは表向きが見えることになります。このダブルカットを行うとき、最初にまわしたパケットを上のパケットに完全にはそろえず、少し左にずれた状態にしておき、ダブルカット後にそろえるとき、そのずれのところにブレークを作ってそろえます。

「ほらよく見てください」と言って、ゆっくりとカードを両手の間に広げていきます。「カードの向きがそろっています」とセリフを続けます。13 枚ぐらいが表向きで続けて広がったあと、裏向きの 1 枚が現れます。「このカードだけ裏向きです」と言って、そのカードをアップジョグします。

「他のカードは表向きです」と言いながら、ブレークまでの表向きのカードを広げます。カードを閉じて、「あなたの選んだカードは何でしたか」とたずねます。そしてアップジョグカードを抜いてドラマチックに表向きに返します。

構成の重要ポイント

先週、″マジシャンが適当にカードを抜き出すことを正当化できないわけではありません″と書き、演出でカバーする例を示しましたが、私はそのようなやり方で演じることはないと思います。あくまでも原案通りやるよりはマシだという意味です。

そこで私は、自由に選ばれたカードで演じることを大前提にして、上記のバージョンを作りました。そしてなるべく多くの枚数が裏表混ざった状態に見えるように工夫しました。

それにはリボンスプレッドではなく、両手の間に広げるというのが解決方法であると直感しました。両手で広げるなら、下の部分が広げられなくても、その部分が目立つことはありません。

このバージョンをまとめたあとに考えてみると、ケント・ガン氏の両方のパケットを広げて見せるあの手法が面白いと思って考え始めたのに、けっきょくその手法を使う必要がないものになりました。

それには、いくつかの方法をある程度マスターしたあとでしか判断できないのです。

Cardician's Journal

No.159

2010 年 12 月 31 日

動作の結果を見る視点

今日は今年の最後の日で、最後の Cardician's Jurnal です。1 年の最後の日には、今年自分がやったことを顧みるというのも良いことだと思います。

カーディシャンが自分のやったことを顧みるときにどんなことが大切かをお話しするまえに、動作を見る視点や視界というものが重要であるということを、ボウリングの例で説明したいと思います。かなりボウリングの話が長くなりますが、そのおつもりで。

つぎの写真は、12 月 2 日～4 日に行われた、ボウリングの第 44 会全日本プロ選手権大会のニュースから引用させていただきました。(日本プロボウリング協会サイトより)。

川添選手はこの大会のまえに行われた、ジャパンオープンでも優勝し、テレビ放映のあった決勝戦で 2 回続けてパーフェクトを出し、パーフェクト賞 1000 万円と優勝賞金 500 万円を獲得しました。

川添選手は今年プロデビューしたばかりであり、アマチュア時代は日本代表のスター選手でありました。ですから、ボウリング界でこの 2 大会連続優勝は、ゴルフ界で石川 遼が登場したときのような、ものすごい話題となりました。

12 月 21 に行われた第 43 回内閣総理大臣杯 ″ 日本プロスポーツ大賞 ″ でも新人賞を受賞しました。つぎの写真はそのときの写真です。横綱白鳳、宮里 藍なども同時に表彰された名誉ある賞です。

さて、川添選手と高橋選手の投球写真を比較して、大きな違いがわかるでしょうか。

川添選手の方が体を深く沈めています。ボールの大きさがちょうど同じに写っていますから、この 2 枚の写真の差を計算すると、川添選手の頭の方が約 20cm 下にあります。ちなみに身長は、川添選手が 167cm で高橋選手が 169cm で、ほとんど違いません。

この投球フォームの違いは、最新の投げ方の両極端にある 2 つの特長を示しています。高橋選手の投げ方は、この数年でアメリカで大流行し、日本では現在最新の投げ方であるとされている、ハイレブ投法 (高速回転投法) と呼ばれているものです。(なぜか和製英語でローダウン投法と呼ばれることもあります)。

ハイレブ投法では、バックスウィングをたいへん高く取り、高橋選手の写真でわかるように、ボールが最下点にきたときにリリースします。その瞬間に、いままで曲げ気味にしていた肘と手首を一気にまっすぐ伸ばすことによって、ボールに急激な回転が与えられます。

それに対して、川添選手のリリースは、スウィングの最下点ではなく、最下点を過ぎたところでなされているのが、写真からわかるはずです。両選手の腕の角度を比較していただければ、それがわかります。(川添選手のボールはファールラインを越えていて、高橋選手の方はファールラインさえ写真に写っていません)。

このリリースの違いがボールの回転に与える違いは、手の平の向きを見てください。高橋選手のは斜め横を向いているのに対して、川添選手のは上を向いています。この違いによって、回転の角度が違ってくるのです。

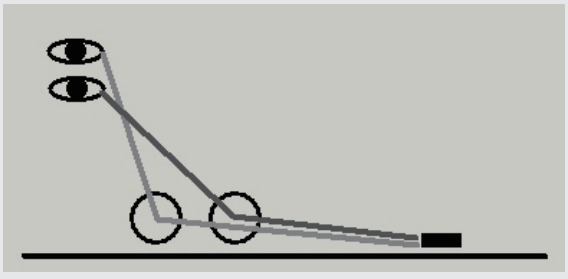
回転の角度が違うと、結果として 10 本のピンの飛ばし方にどのような違いになるのか、ということまで説明したいのですが、あまりにも専門的な話になるので、やめておきましょう。

私は川添選手の投げ方に興味を持って、自分でも試してみることにしました。最近アベレージが 200 以下で低迷していたのですが、川添選手を真似した投げ方で出場した大会 (12 月 9 日) の 4 ゲームで、217、198、258、242 というスコアを出し、

その効果にびっくりしてしまいました。スコアもびっくりですが、それ以上に、体を深く沈める投げ方が、いままでとまったく違う視界を与えてくれたことに驚嘆しました。

頭の位置が低くてボールを先でリリースするのと、頭の位置が高くてボールを手前でリリースするのを、目とボールとスパットとの位置関係を比較すると、下図のようになります。

(注) スパットとは、レーンの約 4 メートル先にある印のことです。プレイヤーは 18 メートル先にある 10 本のピンを見て投げるのではなく、スパットを目標にして、投げる方向を決めるのです。レーンは 39 枚の板が並んでいますが、5 枚ごとにスパットが印されています。



この図を見ると、頭を低くして投げた方が、スパットに向かって走っていくボールの軌道がよく見えるということがおわかりになると思います。スパットから左もしくは右に何枚目の板を通ったかがはっきりとわかります。いままでの投げ方では、何枚目の板を通ったかは漠然としかわかりませんでした。

投げるラインがより明確にとらえられるようになったので、その結果としてコントロールが劇的に改善されました。自分の投げたボールを見る視点が変わっただけで、自分のボウリングが飛躍的に向上したのです。

さて、ここからマジックの話につなげるのですが、ここから先もかなり長々と書くことになりそうです。ですから、今日はここまでといたします。

ボウリングの話だけになってしまいましたが、あくまでも来週の〝マジックにおける動作の結果を見る視点〟という話の前置きですので、ご了承ください。

Cardician's Journal

No.160

2011 年 1 月 7 日

謹賀新年

本年もカードマジックについて自由奔放に書かせていただきますので、おつきあいいただければ幸いです。″Card Magic Library″ともども、よろしくお願いいたします。

マジックにおける動作の結果を見る視点

前号では、私の趣味のボウリングについて、かなり詳しく説明いたしましたが、マジック以外のものを出発点として、マジックに必要なものを考察するというのも、視野を広げるためには必要なことであると思います。

姿勢を低くして投球すると、投げたボールの行方がよく見えるというのが、前号の主旨でありました。マジシャンが行ったことの結果を見るということは、ボウリングと違って、自分の側から見ることはけしてできません。

今回は、マジシャンの動作が観客からどのように見えるか、そのことについてどのように配慮したらよいのか、ということを考えます。

角　度

大昔から、「鏡は良き師である」と言われてきました。鏡に映った動作は、マジシャ

ンの反対側から見たものであることは事実です。ですから、鏡を見て動作を確認することは、かなり役立ちます。しかし万能ではありません。

鏡に向かって動作を確認するとき、あなたは正面を向いてだけでなく、体を左に向けたり、右に向けたりして左右からのアングルをチェックしていますか。

左右のアングルをチェックするのは多くの人がやっていることでしょう。ではあなたは、鏡からかなり離れて動作を映してしてチェックされるでしょうか。

鏡の前で立って見ると、自分と同じ高さの反対側から見ることになります。たとえ少人数に見せる場合でも、相手がそんな高い位置から見ることはまずありません。ですから、自分より低い位置からの視線に見える動作をチェックする必要があるのです。

私は等身大の鏡を利用して、それから 2m 程度離れて動作を確認することがあります。鏡から離れれば離れるほど、低い位置から見た動作を確認することができます。

視　野

観客からどのように見えるかということは、角度に注意するだけでよいわけではありません。角度の問題は、見えてはならないものが見えないかどうか確認するのが主目的です。

ある動作を見せないという配慮と同等に重要なのは、ある動作がどのように見えるか、ということをチェックすることです。つぎのアドレスにアクセスして、’ジャズエーセズ’の変則バージョンをご覧ください

http://www.youtube.com/watch?v=D8hzNHdtFBU

これは、shanla さんが YouTube に投稿して、マジックカフェで意見を求めた作品です。7 枚を 4 枚にカウントするエルムズレイカウントがリアル演技で通用するかどうかとか、ハンドリング上でのいくつかの点は別問題として、最終的にエンドクリーンに見せられるというのが素晴らしいと思います。1 回目に見たときは、その点にひっかかってびっくりしました。

ここで言及したいのは、そのアンロードの動作が、映像の中で、肘から先の動作しか見えていないということです。動作の一部しか見えないために、その動作が怪しく見えない、ということがあり得るのです。

もしも顔まで映る撮影の仕方をしていたとしたら、右腕全体の動きが見えますから、右手の動作がもっと明瞭に見えるはずです。クロースアップで撮影した映像ですから、Aを見せるという強力なカバーによって、右手先の動作はほとんど気になりません。

もしかしたらこのアンロードの手法は、リアルな演技においても通用するかもしれません。いずれにしても、手先だけ見るのと、全体を見るのとでは、見た目の感じ方が異なるということがある、ということをお話しするための例として取り上げさせていただきました。

(注) ちなみに私はマジックカフェにおいて、4 枚のAの代わりに 4 枚のKを使用し、最後に 4 枚のQを現した方が、現象に対して適切なセリフをつけられるのではないかと投稿いたしました。shanlaさんはその意見を採り入れ、さらにハンドリングを改善して、より洗練された作品に仕上げられました。

距　離

観客とマジシャンの距離が離れれば、視野も広がり、見える範囲が広がります。そのことによって、感じ方が違ってくることは前述の通りですが、距離が離れることによって、動作が曖昧になるという要素も発生します。

たとえば、ボトムプレイスメントです。この技法を行うのをクロースアップで見れば、右手の半分を左手の半分の上に重ねたことははっきりわかります。しかしながら、かなり離れたところから見た観客は、そのことがはっきりとはわかりません。

したがって、この技法は観客が大勢いる状況では不向きな技法だと思います。たとえばファンの中にカードをさし入れた方が、選ばれたカードがデックの中央に入れたことがはっきり表現されます。(もちろんどの技法を使うのがよいかは、前後の脈絡にも関係してくることではありますが)。

マジックというのは、秘密の動作を見えないようにするだけではありません。行ったことを明確に伝えるためには、観客の人数によって、やり方を考慮する必要があるということです。

フォーカス

観客が広い視野で見ているとしても、焦点をある一点に強く向けていれば、他の部分は明確に認識しにくくなります。ミスディレクションの働きです。

タマリッツは、ダブルリフトのうまいやり方のひとつとして、2 枚をリフトするときには手元に注目を集めず、リフト直後にカードに注目させるとよい、とどこかに書いていました。

この説明を読んだとき、リフトして表向きに返すまで注目を外しておくと言っていると誤解して、タマリッツの考えが間違っていると決めつけていました。表向きに返してからカードの方に注目させるのだとしたら、どんなリフトのやり方をしても同じになってしまいます。

しかしタマリッツが述べていることを、「リフトの予備動作の段階では注目を集めない」、と理解すれば、その考え方は意味をなしてきます。たとえばインスタンテイニャスダブルリフトに応用すると、つぎのようになります。

「あなたのカードは何でしたか」というセリフで、マジシャンの顔の方に注目を集めているとき、デックの右手前コーナーで 2 枚をリフトします。

相手が答えたら、視線をデックに向けて、「それではこれではありませんね」と言いながら、2 枚をターンオーバーします。

このようにすれば、観客は指先でリフトする部分は記憶に残りません。

動作と脈絡との適合性

観客のフォーカスを秘密の行為の場所から外すためのミスディレクションを使う場合、そのミスディレクションの行為自体が不自然に見えてしまうこともあります。この問題は、″マジシャンの動作が観客にどのように見えるか″という今回のテーマの最重要要素につながってきます。

たとえ技法の秘密の動作が見えなくても、たとえ観客のフォーカスが秘密の動作から外れていても、そのときの動作の見かけや姿勢が突発的であったり、前後の脈絡に溶け込まない場合、「何かをやった」という印象を与えることがあり得ます。

たとえば、右手で左の方から何かを出現させる動作のミスディレクションで、左手が体の陰で何かをスチールしたとすると、右手が左の方で動作することが不自然であれば、その動作は怪しいものとなり、左手が体の陰に隠れたことが観客の記憶に残ります。

そのようなことから、マジシャンの動作が観客にどのように見えるかということは、秘密

の動作を隠す角度の問題から始まって、動作を強調するための配慮におよび、最後にそれらの動作が演技の脈絡に適合しているかどうか、という配慮まですることによって、完成に近づくのです。

狙いはストライク！

低い姿勢で投球するようになって、確実にアベレージは 200 を越えるようになりました。ボウリングはやみくもにボールを強く投げるだけでなく、ボールとレーンコンディションとの噛み合い方を把握してプレイすることの重要性を胸に刻みました。

マジックにおいては、マジシャンの狙いと観客の感じ方が噛み合うことが、観客の心の中に見事なストライクを起こさせることにつながるのだと思います。

Cardician's Journal

No.161

2011 年 1 月 14 日

プロボウラー・高橋延明氏との会話から

またまたボウリングの話で恐縮です。前々号で川添選手と高橋選手の投球フォーム写真を紹介しましたが、じつは高橋延明プロとは、同じシチズンプラザ所属のため、よくお会いして話をさせていただいています。高橋氏は 2009 年度の賞金王であり、今日の日本のトップボウラーの 1 人です。

先日高橋氏との話の中で、YouTube でのボウラーの映像のことに話題がおよび、高橋氏は多くのアメリカボウラーの映像を見て、それらの中から色々なことを吸収していると言われました。異なるボウラーの投げ方を比較して見ることによって、そこに存在する共通の原理や、異なるピンアクションという結果の違いを検証できるというのです。

私はこの話を聞いて、同じカードマジックの異なる演技者の演技を比較して見ることによって、その作品の核にある魅力や、演出の違いによって生まれる違いに着目できると思いつきました。せっかくこれだけ多くの映像が見られる時代になったのですから、そのような見方、利用の仕方によって、学ばない手はないと思い当たったのです。

キッカーエンディングについて

ボウリングからカードマジックの話に移るポイントとして、まずつぎの映像をご覧ください。これはマジックカフェで正月の挨拶がわりに紹介されたものです。

http://www.youtube.com/watch?v=htFLbDjhJ0k

この演技では、4 枚のカードの表面にメッセージ文章が現れたあと、残りの 4 枚の裏面が変色しています。メッセージが現れるのは面白いのですが、そのあとの裏面の変色が何の意味も発信していません。

私はこの演技を見て、「どうせなら裏面が変色するよりも、その面にもメッセージ文章を現してしまったらどうですか」と投稿しました。

エンディングというのは日本語では「オチ」ということですから、いままでの現象に何らかの関連がなければならないはずです。無関係なオチは、心に響くこともなく、むしろそれまでに見せられた現象の雰囲気を破壊するのに役立つぐらいです。

異なるエンディングを比較する

つぎに同じカードマジックで、オチだけ異なるものを比較してみたいと思います。まずつぎの映像をご覧ください。

http://www.youtube.com/watch?v=tBvl1kuPLC8

この演技の現象を言葉で書くとすれば、

下に入れたハートの2が何回か上に上がってきます。「皆さんは全部同じカードだと思っているでしょう。その通り全部同じカードです。ほら、全部スペードの 10 です。でもそんなことはありません。じつはこれらは 4 枚のKなのです」。

この見せ方は、ストーリー的な意味合いはないとしても、成立していると思います。

私が演じるとすれば、あえて 2 枚のKを 4 枚のKのごとく見せるのではなく、すべてジョーカーに変化させます。「何でこのようにカードが変化するかというと、すべてジョーカーだからなのです」という、話としてのオチをつけることができるからです。

つぎのような変則的なエンディングも見つけました。いくつかのマジックをやっていますが、最後に演じているものです。

http://www.youtube.com/watch?v=JZCHpacxl4c

これは話としては説明のしようのないエンディングです。4 枚のダイヤのQが 4 枚のクラブのKに変化したあと、全部ダブルバックに変化します。あえて話をつけるとすれば、つぎのようなものになるでしょう。

「じつはこの 4 枚は、ダイヤのQでもクラブのKでも、何のカードでもありません。なぜなら、どれもカードの表面はないからです」。

無理な話かもしれませんが、少なくとも、何も言わないでダブルバックを見せるよりはマシだと思います。

エンディングとか演出というものは、演じる人のパーソナリティにも関係してきます。私のパーソナリティに合ったこのカードマジックの演じ方は、おそらくつぎのようなものでしょう。

「本当にこの 4 枚が同じカードなのか、よく見てみましょう」と言って、1 枚目の表を見せると、″同じカード″と書いてあります。つぎつぎと″同じカード″と書いてあるのを見せます。「ほら、全部同じカードです」と言って終わります。

心に訴えるものは？

マジックの現象は、ストーリーとかセリフがなくても、目には訴えるかもしれません。しかし、ストーリーとまではいかなくても、セリフによってその現象を味のあるものにすることはできます。

目に見える現象を、心の中にしみ込むようなものに味付けすることが、エンタテイメント性を高めることになると思います。Mr. マリックは、「マジックが生み出せるエンタテイメントは不思議である」という意味のことを、どこかで言っていました。

しかしながら数年まえに終息したマジックブームは、あまりにもストレートな不思議さだけを提供し続けたことによって、たんなるブームに終わってしまったような気がします。

ブームが去ったいまでも、Mr. マリックのサイキッカーとしての雰囲気、マギー司郎のそこはかとない暖かみのあるキャラクターは、テレビの中で生き続けています。

その事実は、マジックというものが不思議な現象そのものよりも、それを演じる人間の魅力こそが、人々の心をとらえるものであることを示していると思います。

Cardician's Journal

No.162

2011 年 1 月 21 日

″Card Magic Library″ 第 7 巻の編集を完了！

″Card Magic Library″ 第 7 巻の編集を完了して、印刷会社の手に渡しました。来週から第 7 巻の内容説明を開始して、そのあと印刷完成の日が確定したら、注文受付を開始させていただきます。

少しだけ、第 7 巻のことをお知らせしておきましょう。いいえ第 7 巻だけではありません。第 7 巻から第 10 巻までの 4 巻についてです。

″Card Magic Library″ の最後の 4 巻は、カーディシャンの実力をパワーアップしていただくための 4 巻です。

第 7 巻で、重要技法を正しく習得していただき、
第 8 巻で、カードマジックの中の重要現象を体系的に理解していただき、
第 9 巻で、目の技法というカードマジックの究極のテクニックを学んでいただき、
第 10 巻で、トリックカードとテクニックとの融合という、新しい境地に到達していただきます。

私が ″Card Magic Library″ は第 10 で完結すると申し上げたのは、第 6 巻まではカードマジックの知識を豊かにしていただくものであったとしたら、最後の 4 巻はカードマジックの実力とレベルを上げていただくものであるからです。

知識だけ増えても何にもなりません。知識を実力に昇華させてこそ、カーディシャンのクオリティはアップするのです。ですから、″Card Magic Library″ を皆様にお届けする私の気持ちをご理解いただいて、第 10 巻までお読みいただれば幸いです。

Cardician's Journal

No.163

2011 年 1 月 28 日

″Card Magic Library″ 第 7 巻内容紹介・その 1

″Card Magic Library 第 7 巻 ″ では、カーディシャンの基礎テクニックの根幹を占める、重要技法をまとめました。その意図するところをご理解いただくために、前書の一部をお読みください。

‘コントロール’ という用語は、“選ばれたカードを密かにトップとかボトムなど、特定の位置に運ぶ技法である” と、日本では定着しています。もちろん欧米においても、選ばれたカードをトップやボトムに運ぶことを ‘コントロール’ と呼んでいます。

しかし ‘Control’ という英語は、“運ぶ” という意味よりも、“管理する” とか “操る” という意味が本意であり、アラン・アッカーマンなどはカードマジックの技法全体を解説する DVD を “Advanced Card Control” と題しているぐらいです。

そこで私は ‘コントロール’ を 1 冊にまとめるにあたり、いままで私たちが理解していた、“選ばれたカードを密かに特定の位置に運ぶ” という表現から、“選ばれた” という言葉を取り去り、“カードを密かに特定の位置に運ぶ” という定義で、‘コントロール’ をくくることにいたしました。

選ばれたカードをコントロールするのと、4 枚のAをデックに入れてコントロールするのが、まったく別の技法であるということではありません。ハンドリング的には共通する部分があります。しかし明確な違いもあります。

選ばれたカードをコントロールする場合には、カードを選ばせて返させる、というプロセスがコントロールのまえにあるからです。したがって、選ばれたカードをコントロールするやり方については、カードを選ばせるという操作にふさわしいコントロール法を使うということがポイントとなってきます。

この前書の下線を引いた文章こそ、私がカードマジックの技法についてもっとも重視している点です。ある技法がそれ自体でいくら優れていても、その技法を行うまえの動作、技法を行ったあとの動作とうまく連携するかどうかということが、使用する技法を選択するときのキーポイントとなるのです。

前後の動作に連携する技法を使うこと

わかりやすいように例をあげましょう。

3 人の客に 1 枚ずつ選ばせたカードを、デックの中に返させてすべてをトップもしくはボトムに集めたいとします。この目的を達成するには、

1．どのように選ばせるか
2．どのように返させるか
3．どのように集めるか

という 3 つの行為を連鎖させて考えなければいけません。たとえば、デックを両手の間に広げて、3 人に 1 枚ずつ抜かせたとします。いま、3 人の客が 1 枚ずつカードを持っていて、マジシャンはデックを持っています。その状態から 3 人のカードをどのように返させて、どのように 1 カ所に集めるかを考えるとすると、なかなかうまい方法が思いつきません。

188 ページに解説されている ’ マルティプルヒンズーシャフルコントロール ’ は、見た目にはつぎのようなものです。

1 人目に対して、ヒンズーシャフルしてトップをかけさせます。左手のトップカードを取らせておぼえさせトップに戻させるか、もしくはそのカードを押し出してそのカードの表を見せるかします。そして残りのカードをその上にシャフルします。

2 人目と 3 人目に対しても、1 人目にやったのと同じやり方をします。3 人目に対してそれが終わった時点で、すでに 3 人のカードはボトムに集まっています。

すなわちこの技法では、カードを選ばせるのをヒンズーシャフルで行い、返してもらうのもヒンズーシャフルの途中に返してもらい、そして返してもらったあとヒンズーシャフルを完結するさせるときにコントロールしています。

何人にカードを選ばせても、つねにボトムに集まっていきますから、同じカードが選

ばれる心配もありません。最初にボトムにクリンプカードをセットしておけば、たとえば10 人にこの方法で選ばせたとしたら、最後にクリンプを利用してカットすれば、トップから 1 人目から 10 人目のカードが順にコントロールされることになります。

この技法は 1940 年には存在していたのですが、世に初めて現れたのは、雑誌 ″ マジック ″2006 年 5 月号においてでした。たいへん優れた方法なので、秘密がずっと隠され続けてきたのです。そのやり方を読んだとき、「こんなすごいものが埋もれていたのか」と、感動したものです。

現象が技法の怪しさをなくすことがある

1 枚のカードを見せて、それをデックの中央に入れてから、魔法の動作としてリフルパスして、トップからそのカードを現したとします。

このような動作の連係のさせ方では、リフルパスの部分に怪しさの焦点が集まり、「あのとき何かやったな」と感じさせてしまいます。

同じカードの移動のためにリフルパスを使うにしても、つぎのようなやり方は、現象が技法をカバーしてくれる顕著な例です。195 ページに解説されている、ロバート・マクファーソンの‘ディテクティヴエーセズ’はつぎのようなものです。

赤いAをトップとボトムに表向きに置き、デックをリフルしてストップをかけさせ、そこから分けて持ち上げ、右手のボトムカードをおぼえさせ、ボトムプレイスメントを行います。そしてリフルパスを行います。デックを広げて、サンドイッチ状態を見せ、選ばれたカードを現します。

ボトムプレイスメントをコンビンシングコントロールに置き換えるだけで、超一級のビジュアルマジックになります。これもまた、雑誌 ″ リンキングリング ″1962 年 7 月号に書かれていたという、埋もれていた宝物です。

その動作を行う口実があるかどうか

’ スプレッドカル ’ の章では、マイケル・クローズの解説がたいへん優れていますので、″Workers 5″ より引用しています。その中で重要な点としてつぎのように述べています。

カルという技法は、表面上の動作の陰で秘密の動作を行うという、典型的な技法です。この技法を分析するとき最初に考えなければならないことは、“表面上の動作とは何か”と

いうことです。デックを表向きに両手の間に広げることには、よく使われる 2 つの口実があります。ひとつ目は、必要なカードを抜き出すという動作です。ふたつ目は、カードがよく混ざっていることを見せる動作です。

クロースが指摘したこの点もまた、使う技法を決め、その技法をどのように行うかを決める上での重要なポイントになります。たとえば、パスという技法を行う上で、重要なポイントとは何でしょうか。もちろん正しいやり方を習得した上での話です。

パスはアングルに弱い技法なので、演じるときのアングルに配慮することが重要であることは、とうの昔から指摘されてきました。しかしそれよりも重要なことは、右手をデックの上にかけるという行為に対しての口実です。

右手をデックにかけて、パスをやってから右手をどける、などというのは論外です。右手をデックにかけたからには、それを正当化するつぎの動作が必要なのです。第 7 巻では、私が世界でいちばんパスのうまいと思う、ゲオフ・ラタのパスを取り上げて、その点について詳しく書いています。

以上のように第 7 巻では、技法の正しいやり方を解説するだけでなく、技法を前後の脈絡の中に埋め込むとい考え方、現象にもっともインパクトを与える技法の使い方など、カーディシャンとしての総合力を高めるための知識を得ていただくという観点でまとめています。

次号においては、どのような技法が解説されているか、そしてそれらを使った素晴らしい作品についてご紹介いたします。

Cardician's Journal

No.164

2011 年 2 月 4 日

″Card Magic Library″ 第 7 巻内容紹介・その 2

第 22 章 ビドルムーブ

ビドルムーブとそれを使用した作品 ’ トランセンデント ’ は、雑誌 ″ ジニー ″1947 年に登場しました。この作品では、5 枚のカードを表向きでカウントして左手に取り、その中に相手が選んだカードがあるのを見せ、選ばれたカードが消失してポケットから出てくるという現象です。

スチールしたカードをポケットからではなく、裏向きのデックの中に表向きに現すというアイデアは、リチャード・ブルースが雑誌 ″ ヒューガードマジックマンスリー ″1951 年 9 月号に発表しました。これこそが今日の人気カードマジック ’ ビドルトリック ’ の原点とも言える作品です。

その作品のバリエーションをエルマー・ビドルが ’ ビドルスルー ’ という名称で、雑誌 ″ ゼン ″1960 年 7 月号に発表しています。しかしながらどちらも今日の ’ ビドルトリック ’ とは趣が違います。それぞれの作品解説から、そのへんの違いを興味深く読んでいただけると思います。

技術的に特記されるのは、ブレークの代わりにサイドジョグを使用する、ビドルムーブのやり方が解説されていることです。ブレークを使うと左右のアングルに弱いのですが、その弱点を解決するとともに、自由自在にスチールやドロップができるという、機能強化の効果がある優れたやり方です。

ビドルムーブを発展させた技法として、’ ハマンカウント ’ があるわけですが、アードネスブレークの機能を採り入れた方法が解説されています。これは、ヴィーザーコンセプトという技法のバーノンのやり方を、私が ’ ハマンカウント ’ に応用したものです。

パケットスイッチするときにつかえたり、気配を感じさせないシームレスなカウントを実現しています。

’ビドルムーブ’の機能を究極まで使いこなすと、つぎのようなことができます。

4 枚のKを表向きに右手に持ち、デックの上に 1 枚ずつ取っていきます。4 枚カウントし終わったとき、すでにそれぞれのKの下に同じマークのQがはさまっています。それだけを演じただけで、ロイヤルペアトリック（4 枚のKと 4 枚のQを使うトリック）の見事なオープニングになります。

作品として傑出しているのが、J.K. ハートマンの’インベターオーダー’です。つぎのような現象です。

13 枚のカードのうち、相手に 3 枚を渡し、それらを残りの 10 枚の好きな位置に入れさせます。13 枚を表向きに広げると、それらはAからKまでが並んでいます。

この章の収録作品数：23 点。

第 23 章　パス

パスについては前号において、″ゲオフ・ラタが世界でいちばんうまいと思う″と書きましたが、技術的には最高レベルではあるが、もっともよくない使い方であるということを説明して、パスという技法の重要性を強調しています。

前号で指摘した、アングル、右手をデックにかける口実、という重要ポイントに加えて、さらに重要なポイントを書いています。それはパスは原則として、他の動作をオーバーラップさせて行うべき技法だということです。（アンビシャス現象など、カバーなしで行うべき場合もあります）。

以上 3 つの重要ポイントは、私が見つけたものでも現代になって確立されたものでもありません。フランス人の J.N. ポンサン著、“Magie Blanche Devoilee”（1853 年）に書かれている作品解説の中に見られるのです。

同書に解説されたものは、プロフェッサー・ホフマンによって″モダンマジック″の中に多くが引用されたと言われていますが、同書の中にも、他のどこにも書かれていなかったものを、今回の調査中に、雑誌″ジニー″1942 年 1 月号に見つけて、第 7 巻に収録いたしました。

それはポンサンが書いたものを、ジーン・ヒューガードがフランス語から英語に翻訳したもので、ヒューガードは’ポンサンリバイバル’と題して書いています。つぎのような現象です。

4 人の客に 2 枚ずつのカードを取らせます。それらがデックの中に戻されて、どこに行ったかわからない状態にされます。魔法をかけると 1 人目のカードがトップとボトムに現れると言って、デックを振ります。そしてトップカードとボトムカードを見せると、1 人目のカードです。またデックを振るとトップとボトムカードが 2 人目のカードになっています。そのようにして、つぎつぎと客のカードがトップとボトムに現れます。

デックを振るという魔法の動作、ボトムカードを見せるために右手でデックを返す動作、そしてトップとボトムからカードを現わすという現象自体が、右手をデックにかける正当性を与え、動作のカモフラージュの働きもしているのです。

なおこの作品は、客に 2 枚ずつ記憶させるというのはたいへんですから、デックの中に分散して入れた、4 枚のQと 4 枚のKを、各ペアごとに出現させるというようにアレンジすれば、今日でも十分実演価値のあるマジックとなるでしょう。私は素晴らしい作品を発見したと、大喜びしたものです。

作品的にお奨めなのは、私の’リフルエーセズ’と、フランク・ガルシア＆ジェイ・オーシの’エイペクスエーセズ’を連結した作品です。つぎのような現象です。

客が好きな数を言います。たとえば 23 が指定されたとします。客自身がその枚数だけディールします。するとそこから 4 枚のKが現れます。つぎにその 4 枚のKを表向きにデックのトップに置くと、それが 3 枚に減り、2 枚に減り、1 枚に減り、最後に 1 枚もなくなってしまいます。デックを広げると中央に表向きの 4 枚のKがあり、間に裏向きのカードが 1 枚ずつはさまっています。それらを取り出すと、4 組のKとQのペアとなっています。

この章の収録作品数：10 点。

第 24 章　スプレッドカル

この章は、マイケル・クローズの解説の見事さにつきます。コスチャ・キムラットの DVD を見てもマスターできなかった方も、クロースの要点をとらえた解説によって、目から鱗のように、マスターする手がかりを得ることができるはずです。

作品としては、若くして亡くなったクロースアップマジックの名手、片倉雄一氏の傑作

’離ればなれの探偵カード’があります。この作品は私の作品をもとに片倉氏が改案したものですが、今回、その片倉氏のやり方をさらに改案した、私の’ピンサージャックス’を解説いたしました。間違いなく私の代表作のひとつになると確信する作品です。つぎのような現象です。

選ばれたカードがデックに戻されたあと、デックを両手の間に広げ、中央より少し手前のカードを表向きに返してアップジョグさせます。さらにカードを広げ、中央より少し下のカードを表向きに返してアップジョグさせます。カードを閉じ、アップジョグカードを押し込みます。2 枚の表向きのカードは間違いなく離れた位置に入りました。間髪をおかずにデックを広げると、2 枚の表向きのカードの間に 1 枚の裏向きのカードがはさまって、それが選ばれたカードなのです。

この章の収録作品数：8 点。

第 25 章　マルティプルシフト

’マルティプルシフト’という技法は、何枚かのカードをデックに分散させてアップジョグ状態に入れて、それらをデックの中に押し込んだと見せて、1 カ所にコントロールするものです。

押し込んだあとに、カットして終わるものと、シャフルを続けて終わるやり方があります。このことについて、ロイ・ウォルトンの考え方を引用し、それについて考察しています。ウォルトンはつぎのように言いました。

“マルティプルシフトをやってカットするだけなら、そのあとヒンズーシャフルを続けるよりも、カードが分散して入れられたことが明確に伝わり、しかも疑いを起こさせません。もしもシャフルを続けたら、そのときに何かをやったと感じさせることになります”。

私はこの考え方と正反対の意見を持っています。それがどのようなものかは、第 7 巻を読んでください。この紙面だけで説明できることではありません。少なくとも、マジシャンでない人に何人かに両方のやり方を見せて、シャフルする方がよいという結論を得ています。

’マルティプルシフト’を使用した作品としては、ジャック・エイヴィスの’インプロンプチュアンリミテッド’が面白く、つぎのような珍しい現象です。

4 枚のQがデックの中に分散されて入れられます。4 枚のKのうち、相手が好きなKを指定

して、そのKをデックのトップに表向きに置いて魔法をかけます。そのKをどけてトップカードを表向きにすると、そのKと同じマークのQが出てきます。同じように、つぎも相手の指定したKをのせて魔法をかけると、そのKと同じマークのQがトップから現れます。3 枚目、4 枚目についても同様です。

この章には、私が考案した中では傑出していると自負している、’分散アップジョグ’という技法が解説されています。ボトムにある 4 枚のカードを、いかにもデックの離ればなれのところからアップジョグして出して見せる技法です。この技法をダイレクトに応用した’クローズマイアイズ’は、つぎのような現象です。

4 枚のAをデックの中にバラバラに入れ、よくシャフルします。ここで目隠しをします。その状態でカードを両手の間に広げていき、ところどころでカードをアップジョグしていきます。目隠しを外して、アップジョグした 4 枚を見せると、相手の指定した数のカードです。

この章の収録作品数：9 点。

次号において、内容紹介の続きと目次をご覧いただきます。

Cardician's Journal

No.165

2011 年 2 月 11 日

″Card Magic Library″ 第 7 巻内容紹介・その 3

第 26 章　ダブルカットコントロール

’ダブルカット’という技法は、やり方を間違えると、1 回カットしたものをもういちどカットして、元に戻しているように見えてしまいがちです。その弱点を克服し、カードを混ぜたように見せる技法としてのコツを説明しています。

’ダブルカット’を使用した作品として、私の’どこに行ったの？’が解説されていますが、この作品にもとづいて作られたマルローのバリエーションも紹介しています。ところがマルローは原案者が意図した、サッカートリックというこの作品の存在価値をまったく無視して、トンチンカンなものを作ってしまいました。

ジョン・ラッカバウマーがマルローのバリエーションを発表したときの経緯も、詳しく書いてありますので、読み物としてお楽しみいただけると思います。

この章の収録作品数：7 点。

第 27 章　特定枚数目へのコントロール

この章は技法の解説主体の章です。ゲリー・ウーレーがたいへん気にいって、彼の著書″クロースアップイリュージョンズ″に書いてくれた私の技法、’分割カウントコントロール’をはじめ、日本初登場の技法を 5 種類解説しています。

作品としては、珍しくバーノンの考案した数理的トリック’カードイズファウンド’が収録されています。これは思いがけなく、カール・ファルブズのセルフワーキングの本で見つけたものです。つぎのような現象です。

選ばれたカードがデックに戻されたあと、デックを相手に少しカットさせ、そのパケットを表向きにして、フェースに現れたカードの数だけディールします。ディールしたパケットを表向きに返し、フェースに現れた数だけディールします。ディールしたパケットを表向きに返し、フェース現れた数だけディールします。最後のパケットを表向きに返すと、選ばれたカードが現れます。

この章の収録作品数：9 点。

第 28 章　その他のコントロール

ヒンズーシャフルコントロール
ボトムプレイスメント
コンビンシングコントロール
インコンプリートファーローコントロール

この章の収録作品数：5 点。

第 29 章　ティルト

’ティルト’については、カール・ファルブズが書いたティルト誕生の話が、ミステリーを読むように楽しめます。はたしてバーノンが考案したのか、それともマルローが考案したのか。はたまた他の誰かが考案したのか。その謎に迫ります。

作品としては、ニコラス・ジョンソンの’プログレッシブアンビシャスエーセズ’が傑出しています。これはマジックカフェで私とのディスカッションを通して完成したもので、つぎのような現象です。

4 枚のAを抜き出してテーブルに置きます。1 回目は 1 枚のAをデックの中央に入れると、そのAがトップから出てきます。つぎは 2 枚のAを少し離してデックの中に入れますが、やはりトップから出てきます。3 枚のAを離していれても、やはりトップから出てきます。最後は 4 枚のAを表向きで分散して入れます。デックをリフルすると、4 枚のAがトップに現れます。

この章の収録作品数：9 点。

Cardician's Journal

No.166

2011 年 2 月 18 日

マジックの終わり方

マジックを人に見せる場合、どのような話をして始めたらよいかとか、自分と見る人とのスタンスをどのようにしたらよいか、などということについては、いままで関連した例をあげて話をしてきました。

そのように、マジックを演じ始めるまえの点については、かなりうまく対処できるようになってきたのですが、こんどはマジックが終わったとき、見る人の気持ちがうまくおさまらなかった場合、どう締めくくったらよいかということが気になり始めました。

私がいま指摘しようとしている、観客の気持ちがうまくおさまらないという状況は、出演料を得て演じる場合や、大勢のまえでマジックショーとして、それなりの舞台設定で演じる場合にはほとんど起こりません。そのような状況では観客は初めからあなたがエンタテイナーだと見ているからです。数人相手に会話の途中で見せる場合とかクラス会でのように、演じたあとも普通の会話をしなければならない場合に起こるのです。

たとえば先日、銀行の副支店長が異動になるということで、新しい副支店長ともども会うことになりました。まえの副支店長とは、以前から私がマジックをやることを話していながら、いちども見せたことがありませんでした。今回、彼への餞別と、そして新しい副支店長への自己紹介を兼ねて、カードマジックを見せることになりました。

ひとつだけカードマジックを見せる場合、’インビジブルデック’がもっとも効果的であることには、絶対的自信があります。案の定、2 人は驚嘆しました。驚き過ぎて、彼らは圧倒され、「どうしてそんなことができるんですか」とせまってきたのです。やり方が知りたいというのです。

種明かしをするわけにはいかないので、私は困りました。副支店長というえらい 2 人

をやり込めてしまったのです。「これはこの世でいちばん不思議なカードマジックなのですが、種明かししてしまってはお見せした不思議さが消えてしまいます。ですから、つぎにお会いするときまで、不思議さを心の中にしまっておいてください」と言って、その場をしのぎました。

つぎは娘の嫁ぎ先の家族の方と旅行したときの話です。″Card Magic Library″第7巻に解説されている、片倉雄一氏の’離ればなれの探偵カード’の私のバリエーション、’ピンサージャックス’をやって見せたのです。この作品については、″Cardicians Journal″ No.164で紹介いたしました。離ればなれに入れた表向きのカードがデックの中で移動し、選ばれたカードをはさんで見つける、というビジュアルサンドイッチトリックです。

トリックはうまくいき、いままで体験したことがないほど、見た人たちは驚きました。少したっても驚いたままなので、「ふつうは、ここで拍手がもらえるのですが」と言いました。そうしたら、嫁ぎ先のお母さんが何と言ったと思いますか。

「お父さん、拍手どころじゃないです。あまりに不思議すぎて」と言ったのです。

このように、相手がマジックに驚き過ぎた場合、いったいマジシャンはどのように対処したらよいのでしょうか。相手の心とプライドをナイフでグサッとさしてしまったら、どうしたらよいのでしょう。

私には、まだ決定的な対処法がわかっていません。少なくともはっきりしているのは、そのような状態になってしまったら、「私のマジックはすごいでしょう」、というような態度は絶対にとってはいけないということです。

もしかすると、相手がそのような状態になってしまったら、手遅れなのかもしれません。マジックを始めるまえに、そのような状態にならないように手を打っておくべきなのかもしれません。

もしかすると、そのような親密な雰囲気の中で、マジックを見せてはいけないのかもしれません。そう思うほど、私は悩んでいます。

マジシャンとの遅い新年会で

印刷会社の知り合いにアマチュアマジシャンの方がいて、ここ何年か1年に2回、納涼会と新年会を続けています。今回は″Card Magic Library″第7巻が完成間近

なことがあり、同書から 3 種類やって見せました。どれも彼らを驚かせましたが、前述のサンドイッチトリックを見たときには、「ありえない！」叫ばせました。

第 7 巻は技法のくくりでまとめましたが、実演価値のある素晴らしい作品が多く収録されています。

私には残念なことがあります。″Card Magic Library″ に収録されている作品の素晴らしさを伝えられないことです。せめて第 10 巻までやり終えたら、何らかの方法によって、それらの素晴らしさを皆さんにお見せする手段を講じたいものだと考えています。

今回の新年会で第 7 巻中の作品をマジシャン相手に演じて、そういうことを強く思いました。

Cardician's Journal

No.167

2011 年 2 月 25 日

心の整理

″Card Maigc Library″ 第 7 巻も完成して、最初のまとまった発送を一段落させたいま、とりあえず今日は何もしなくてよい日、と決めました。

しかしそのように心をゆるめたとたん、心の中から「何かをしなければ」という気持ちが湧き上がってくるのはどうしてでしょうか。これはきっと、いままでずっとカードマジックについて考えたり書いたりしてきた心のエンジンが、止まろうとしない習性なのだと思います。ならば今日は、心の中にあるものを整理してみようと思いたちました。

マジックを始めるまえに終わりが決まる

まずは先週号で書いたことの、現時点での私の解答を書いておきます。先週号で、つぎのように書きました。

もしかすると、相手がそのような状態になってしまったら、手遅れなのかもしれません。マジックを始めるまえに、そのような状態にならないように手を打っておくべきなのかもしれません。

これがまさに的を得ていたのです。

マジックをこちらから見せようと提案して始めるのではなく、相手に見せて欲しいと言わせてマジックを始めることが、先週のような問題が起こりにくくする最重要ポイントだと思いあたりました。

出演料を得て演じたり、ショーとしての設定の中で演じる場合も、最初から相手はマジックを見る気持ちがあってそこにいるのです。

人と会話しているときに、こちらがマジックのことを何も言わなければ、相手からマジックを見せてくれと言うことはなかなか起きません。ではどうしたら「マジックを見せてくれ」と言わすことができるか、ということになりますが、それについては今日は具体的には書きません。色々なケースがありますから、今後、考えていきたいと思います。

″Card Magic Library″ 第 10 巻のあとについて

つぎに ″Card Magic Library″ 第 10 を完成したあとのことです。第 7 巻の注文メールの中で、第 10 巻でやめないで欲しい、と書いていただいた方が 3 人いました。第 6 巻までの注文ではそのようなことはありませんでした。

おそらく皆様の心の中に、私の心の中に感じ始めたのと同じように、「もうすぐ ″Card Magic Library″ は終わる」という感覚が芽生えたからかもしれません。

このことについては、今日の段階で心を決めるつもりはありません。第 10 巻を完成させたときの私の気持ちは、いま予測できないからです。「もういいや」となるか、はたまた「まだやるぞ」となるでしょうか。ぜひ後者になるよう、元気な心と体を持ち続けたいと念じています。

はっきりわかっていることは、″Card Magic Library″ は第 10 巻で、最高の内容でクライマックスを迎えるということです。クライマックスのあとに何かを加えることは、何事もよくありません。

もうひとつわかっていることは、第 10 巻で私の書くべきことは終わっていないという事実です。第 10 巻までに含めようとしていて実現しなかった、チャールズ・ジョーダンのカードマジックについては、ほとんど原稿ができています。

ということで現時点での可能性としては、″Card Maigc Library″ 第 11 巻が生まれる確率は低くいということと、第 10 巻以降、私が書くのをやめる確率も低いということです。

演出がなければショーとしてのマジックではない

先日の Mr. マリックのテレビ番組を見て、「さすがだな」と思いました。トリック的には、ほとんどいままであったものかもしれませんが、それぞれ演出に工夫がこらされていました。

たとえば毛糸で巻いた紙幣が燃えたとき、炎が上にある玉子に向かって舞い上がり

ます。これは、現象の見せ方の演出です。ただある物が消えて、他の場所から出てくるという単純な移動現象に、幻想的な雰囲気を加えました。

プチトマトを使った’カップ＆ボール’はとても受けていました。たった1個のコップでよくもあれまで見事な手順が組めたと感心しました。プチトマトが普通のトマトの大きさになるクライマックスは、沢 浩氏のマジックを彷彿とさせました。透明なカップで演じる’カップ＆ボール’などは、マジシャン向けに受けただけだと、思いあたりました。

演出のないトリック丸出しのマジックは、たんに現象を見せるだけのものでしかありません。ホラー映画でも血なまぐさいシーンをただ羅列するだけのものは、けして恐ろしくありません。

そこで私は思いました。まえにも言った気がしますが、これからは演出を重視して研究していこうと。マリックさん、有り難うございました。

マジックへの思いの終着点

私が最近よく取り上げている、一般の人たちにマジックを見せることにおける問題点は、マジシャンにではなく、一般の人たちに見せる機会を多く持つようになったから、気づき始めたことです。

先日の新年会のときのように、離ればなれの表向きのカードが選ばれたカードをサンドイッチにするマジックは、マジシャンだったから強烈に驚いたのかもしれません。一般の人たちには、離れた2枚の表向きのカードが近づいて、選ばれたカードをはさむという二重現象よりも、たんに表向きの2枚の間に選ばれたカードが現れた方が、もっと素晴らしい現象であるかもしれません。

このようにマジックの現象は、マジックをよく知っていると人と、そうではない人では感じ方が違うものです。

今日の心の整理の終着点は、これからの私のカードマジックは、一般の人々に見てもらったときに、たんに驚かせるだけではなく、「素晴らしい」と感じてもらえるものにしたい、ということです。

Cardician's Journal

No.168

2011 年 3 月 4 日

答は何桁？

= 加藤英夫、2011 年 3 月 1 日 =

数のマジックで ’1089 トリック ’ というのがあります。(まえにも取り上げたような気がしますが)。それにもとづいたバリエーションがマジックカフェに投稿されていましたが、答の数をサイキックに当てるというものでした。

相手が自由に選んだ 3 桁の数と、それを逆順にした数を引き算して、その答をサイキックに当てるというのですから、マセマティカルなトリックをサイキックに演じるというところに、根本的な無理があります。

それを読んで、マセマティカルな面白さを生かしたやり方を思いつきました。

方　法

トップからマークに関係なく9、8、10 とセットしておき、それらをトップに保つフォールスシャフルを行います。相手に適当なところからカットさせ、上半分の上に下半分を交差させてのせます。「じつはカードをこのようにすると、計算機の働きをするのです」と言います。

相手に紙と鉛筆を渡し、あなたは後向きになります。異なる 1 桁の数を 3 つ書かせ、それらを大きい順から左から右に並べて書かせます。その 3 桁の数の下に、3 つの数を逆順にしたものを書かせます。そして上の 3 桁から下の 3 桁を引き算させます。

さらに、答の 3 桁を逆順にしたものを下に書かせ、それらを足し算させます。答は必ず1089になります。紙をふせて置かせ、前に向き直ります。

「あなたが計算した答が、すでにこちらのカードで計算されています」と言って、クロスして

いるところから分け、下のパケットのトップから 3 枚を、裏向きにあなたの左から右に向かって並べます。

「計算結果の右端の数はいくつですか」とたずねます。「9」と答えます。左端の9のカードを表向きにして、「ほら当たっています」と言います。「つぎの数はいくつですか」とたずねます。「8」と答えます。8のカードを表向きにして当たっているのを見せます。

「つぎの数はいくつですか」とたずねると、「0」と答えます。ここで戸惑った顔つきを見せて、10 のカードを持ち上げてのぞき込みます。相手には表を見せません。そして「もしかして0の左にまだ数がありますか」とたずねます。相手にその数を言わせます。「1」と言います。

「ということは、答の数は1089ですね。ご安心ください。ちゃんと当たっています」と言って、10 のカードを表向きにします。「ほら1089です」と言いますが、10 のインデックスの1と0を指さし、続けて8のインデックス、9のインデックスを指さしながら言います。

備　考

というわけで、カードが計算機の働きをする、という演出を加えたことにより、このトリックは成立すると思います。このような計算をさせて、サイキックであろうとなかろうと、ただ計算結果を当てるだけでは、マジックにも透視術にもならないと思います。

これは演出が加わって改善されたマジックの好例だと思いますが、逆に考えれば、いままでそれほどのマジックでなかったものが、演出を考えれば優秀なマジックになる可能性があるということです。’シカゴオープナー’も演出によって、駄作が傑作に変身した顕著な例だと思います。

私が最近演出重視志向になっていなければ、上記のやり方も思いつかなかったかもしれません。これからの研究がますます楽しみです。

パスを行うときのミスディレクション

マジックカフェの質問投稿に、「パスを行うときにどのようなミスディレクションを使ったらよいでしょうか」というものがありました。

″「あっゴキブリだ」と言えばよい″、″背後でやればミスディレクションは必要ない″、″「ちょっと目をつぶって」と言え″、というようなジョークが連発されるのは、毎度のこと。″パスの専門書を読んだらどうですか″という、病気に関する質問に「医者に相談し

たら」と答えるような解答もされ、いったい全体こんなやり取りをして、何のためになるのだろうと馬鹿にし始めたとき、バリー・ファーネリアスから見事な解答が寄せられました。以下に訳します。

ミスディレクションは調味料ではありません。出来上がった料理に調味料としてあとから塩をかけるかのように、トリックにあとからミスディレクションをつけ加えるというようなことをしてはいけません。

これはパスという動作を、その部分の動作だけでカモフラージュするのではなく、動作の前後の流れ、表現しようとしているコンテクストの中に溶け込ませる、という意味が含まれた、たいへん蘊蓄のある言葉です。名言として、ぜひ残したいものです。

これに関係することで、私は"Card Magic Library"第7巻の中で、つぎのように書いています。ただしこれは、近距離で行うクラシックパスについての解説での指摘です。

クラシックパスを完璧に行う第二の条件とは、右手をデックにかける正当な理由を設定するということです。

では、右手をデックにかける正当な理由とは、どんなものがあるでしょうか。たとえばデックをリフルするのは、右手をデックにかけたのがおかしく見えない動作です。しかしながら、デックをリフルすること自体が、調味料のようにあとから付け足したものであれば、かえってリフルが怪しさを発生させます。

同じリフルをカモフラージュに使うとしても、リフルした瞬間に表向きのカードがトップから現れるというように、現象に関連したものであれば、右手をデックにかける正当な理由ということになり得ます。

そうです。現象を発生させて表現するのに不可欠であり、不自然でない動作の中で行うということが、右手をデックにかける理想的な理由付けなのです。

その典型的な使い方が、1853年に書かれている'ポンサンリバイバル'という作品に見ることができます。"Card Magic Library"第7巻に解説されていますので、ぜひお読みください。150年以上まえにこんなに優れた使い方があったかと、驚かれると思います。

Cardician's Journal

No.169

2011 年 3 月 11 日

東日本大震災にて被災された皆様へ

このたびの甚大な被害をお見舞い申し上げるとともに、皆様のご無事を心よりお祈りいたします。

当号について

″Cardician's Jurnal″ の当号は、今回の地震が発生するまえにアップロードいたしましたが、甚大な災害に巻き込まれた方々の心情を思い、とてもそのまま掲載を続ける気持ちを持てません。上記のお見舞いを加えさせていただいて、再度アップロードさせていただきました。

″Card Magic Library″ 第 7 巻からの出発

今日は完成した ″Card Magic Library″ 第 7 巻を手に取り、そこから新しいアイデアを生み出す、ということに挑戦してみたいと思います。以下の説明は、第 7 巻中の該当作品を読まれたことを前提に書いています。

スクウェアキャッチ

90 ページに解説されているこの作品を見た瞬間、194 ページの ' パスザサンドイッチ ' とうまく組み合わせられることに気づきました。原稿を書いているときは、それらは別々のときに書いたものですので、考えがつながりませんでした。

' パスザサンドイッチ ' のやり方で、コンビンシングコントロールしたカードをボトムに入

れるのではなく、左手でボトムの表向きのJをバックルすることによって、そのカードをボトムから 2 枚目に入れます。それからアップジョグカードを押し込んで、’スクウェアキャッチ’のやり方に続けます。そうすると、つぎのような現象になります。

最初に表向きのJを裏向きのデックのトップとボトムに置きます。デックを両手の間に広げ、相手が指さしたカードの表を見せて、アップジョグ状態にします。それからはっきりとアップジョグカードをデックの中に押し込み、全体をそろえます。左手の指先をトップとボトムに当て、勢いよく左に引くと、表向きの 2 枚のJの間に 1 枚の裏向きのカードがはさまっていて、それが選ばれたカードです。

ミステリーナイン

70 ページの’ミステリーナイン’は、ジョン・ハマンの’ミステリックナイン’の私のバリエーションで、原案のように 9 枚のカードの表が全部黒から赤に変わるだけでなく、裏の色も全部青裏から赤裏に変わります。

私はこのやり方を読んで、裏と表が変わったことを同時に見せられないかと考えました。そしてつぎのように作り変えました。セットは 70 ページの’ミステリーナイン’とまったく同じです。

10 枚のカードをポケットもしくはウォレットから取り出し、ダイヤの9を取り、裏表が赤いことを見せて、「これだけ他のカードと違う色です。表も裏も赤です」と言います。そしてテーブルに表向きに置きます。

「残りのカードは裏も表も赤ではありません」と言って、ハマンカウントで全部青裏で、全部表が黒いカードであることを見せます。

「9という数は影響力の強いカードです」と言いながら、パケットの手前エンドを弾いて、黒い9のカードを見つけ、それを手前に抜き出します。そのとき、抜いた位置にブレークを作ります。

抜いたスペードの9の裏表を見せてからテーブルに置きます。「黒い9をどけて、裏表が赤い9を加えます」と言って、ダイヤの9を裏向きにパケットのトップに置きます。

「そうすると、他のカードも赤くなってしまいます」と言って、ブレークからカットして、下の半分を上にまわして重ねます。現在、上の 5 枚が赤裏で、下の 4 枚が青裏となっています。

ここでハマンカウントを行い、9 枚が赤裏になったことを見せます。

「もちろん表にも影響が現れます」と言って、パケットを表向きに返します。フェースに赤いカードが現れます。いちばん下のカードの上にブレークを作ります。

パケットをビドルグリップにつかみ、「1 枚」と言いながらフェースカードを左手で引いて取りますが、そのときブレーク下のカードも一緒に取ります。ずれないように注意のこと。

ここでフラシュトレーションカウントの動作に続けます。右手を返して赤裏を見せてから、右手を戻して 2 枚目の赤を左手のカードの上に取り、「2 枚」と言います。以下、4 枚まで同様に右手を返して裏を見せながらカウントしていき、5 枚目を取るときにハマンスイッチを行います。

同じ動作を繰り返して、8 枚目まで取り、最後は裏を見せてから 2 枚重なったまま、左手のカードの上に取ります。

以上で 9 枚のカードがすべて表も裏も赤になったことを見せたことになります。フラシュトレーションカウントの曖昧さは、そのまえにハマンカウントで裏面を見せていることによって、曖昧ではないものになります。

上記のトリックに使われている技法は、今回思いついたものです。’フラシュトレーションハマンカウント’とでも命名することにしましょう。

◇◇

″Card Magic Library″ 第 6 巻中の ’ プログレッシヴA、2、3、4’ の解説に間違いがありました。ご購入いただいた皆様には、誠に申し訳ございません。お手数ですが、以下のアドレスに修正解説をアップロードいたしました。以下のアドレスにアクセスしてお読みください。

http://www.magicplaza.gn.to/****/prog.pdf

″****″ の部分は、″Card Magic Library″ 第 6 巻の 93 ページ、1 行目の最初に出てくる漢字 1 文字を、アルファベット小文字、4 文字にしたものです。

Cardician's Journal

No.170

2011 年 3 月 18 日

祈りをこめて

東日本大震災の被害を目の当たりにして、「マジックのことなどを考えている場合ではない」というのが、率直な気持ちです。この気持ちは、非生産型の職業である、スポーツ選手などの心の中に強く起こっていることであり、企業としてもボウリング場やディズニーランドなどの、遊技施設などの営業にも大きな影響を与えています。

プロ野球の開幕時期について、セリーグは予定どおり 3 月 25 日、パリーグは 4 月 12 日に延期というように、両リーグによって対応が違います。どちらが適切であるのでしょうか。

野球やボウリングなどの物を生産しない仕事のうち、とくに人々の享楽に関することは、「いまやってよいのか」と思うのが当然です。私も毎日のようにやっていたボウリングを、この 1 週間とてもやる気は起こりませんでした。当分やるつもりはありません。

では、私がボウリングを再開するのはいつであるべきでしょうか。野球が開幕するのはいつが適切でしょうか。ディズニーランドが開園するのはいつが適切でしょうか。その答に関して、プロ野球阪神球団選手会長の、新井貴浩会長（阪神）のつぎの発言に感銘を受けました。

「選手会としても野球で勇気づけてあげる気持ちは選手全員が共有している。ただ、それは今の時期じゃないでしょう。被害拡大の中で開幕していいのか」。

そうです。いまはまだ大災害が起きている最中なのです。原発のことはもちろんのこと、避難している方々も、そして自分の家が壊れなかった被災地の方々さえも、ライフライン停止、物資不足という危機的な状態の中にいるのです。

″Cardician's Journal″ は？

それではこの ″Cardician's″Journal″ はどうしたらよいのでしょう。少なくともいまは、いままでどおりにカードマジックについて書く気持ではありません。次号の時点でどうなるかは、いまはわかりません。

Cardician's Journal

No.171

2011 年 3 月 25 日

私にできること

大震災の被害はまだ終息していません。避難している方々の遠方避難の問題、原発の問題、自宅待避の方々の物資が届かない問題、作物を出荷できない方々の生活の問題、学校に行けない子供たちの問題。ほかにも様々な問題がたくさんあります。

死活問題とも言えるそれらの問題を抱えている人々に対して、私が何をすべきか考えたとき、義援金もしくは物資を寄付することと、そして節電や資源の無駄遣いをおさえる努力をした上で、自分の仕事に励むことであるという、おそらく誰もが行き着くであろう結論に到達いたしました。

私の仕事は、私が研究してきたカードマジックをまとめる "Card Magic Library" の発行であり、カードマジックについて話題と論題を投げかける、この "Cardician's Journal" を続けることです。したがってすでに "Card Magic Library 第 8 巻 " の編集作業を開始いたしました。そして "Cairdician's Journal" も通常どおりに続けさせていただきます。

ビジュアルアンビシャスクライマックス

マジックカフェで、つぎのトリックが紹介されました。皆さんは何回見たらトリックを見抜けるでしょうか。

http://www.youtube.com/watch?v=wVC_ICgufdk

私は 5 回ほど見て、「たぶんこうやるのだろう」とは思ったものの、確信はありませんでした。しかしヒョンなことから、私の推量がぜんぜん間違ってたことがわかりました。

ヒョンなこととは、このビデオを紹介した考案者自身が、メールでトリックを教えてくれ

たことです。

考案者のロイド・バーンズ氏がマジックカフェに投稿したとき、この演技の最後で、上がってきたカードを最後にトップに現すやり方について、他にやり方があったら指摘してもらいたいと言っていました。私はある方法を思いつき、考案者に知らせたのです。

私のアイデアはそれなりに面白いものでしたが、最後までビジュアルに演じたい本人の希望にはそぐいませんでした。それでもアイデアを提供した御礼に、トリックのやり方を教えてくれたのです。わざわざ写真入りの説明書を作って送ってくれました。それをここで紹介できれば最高だったのですが、当分秘密にしてくれということですので、ご容赦のほどを。

Cardician's Journal

No.172

2011 年 4 月 1 日

YouTube を無音で見ると見えてくるもの

YouTube で演技者本人はほぼバーノンの原案どおり演じているという、’ツイスティングエーセズ’を見ました。音を消して見ていたら、最初にスペードのAを見せながら、他の 2 枚のAを密かにリバースする部分が、とても怪しく見えました。今日はその部分についてだけの話ですから、以下で、その部分だけ見てください。

http://www.youtube.com/watch?v=lt4Yk2xn6mI

バーノンの原案のこの部分は、セリフと連携されて、この YouTube のやり方とは重要な違いがあります。″More Inner Secrets of Card Magic″(1960 年) の解説では、その部分はつぎのように解説されています。

「あまり知られていませんが、スペードのAというのはとても扱いにくいカードなんです。そのことをお見せいたしましょう」とって、裏向きに持っているパケットで、バックルしてトップの 3 枚を表向きに返します。

左手を手前に傾けながら、右手でスペードのAを取り、続けて左手を返しきってダイヤのAが上を向くようにして、スペードのAでダイヤのAをたたいて、「他のAはとても扱いやすいんです」と言います。

ところがどうでしょう。YouTube の演技では、トリプルターンオーバーして、左手を返してからスペードのAを取っています。これでは、スペードのAでダイヤのAをたたいて示すという、その部分の外観的カモフラージュが成立しません。

原案に書かれている重要な部分を無視して、ハンドリングを自分なりに変えると、往々にしてこのようなことになります。

ところでこの演技者が用いたリバース手法は、バーノンのやり方と原理的に同じですが、この原理はバーノンが考えたものではありません。少なくとも、雑誌“ジンクス”No.80（1940年2月17日）に書かれている、セオダー・アンネマンの’ホイッスル’というカードマジックで使われています。

アンネマンがどのように使用したかとか、そのやり方を出発点とした様々なアイデアの発展を、次号において書いてみたいと思います。

″Card Magic Library″ 第7巻の修正点

Card Magic Library 第7巻中の182ページに書かれている、’4つの手がかり’の解説の中に、理解しにくい表現がありましたので、以下に補足させていただきます。

14枚のカードのセットは、本文どおりですが、説明の関係で、トップから2枚、4枚、4枚、4枚ごとに以下のようにグループ名をつけます。

9-2	aグループ	2-5、9-Q	bグループ
4-8、7-J	cグループ	6-7、J-10	dグループ

第1回目にaグループの2枚のうち小さい方が選ばれたら、つぎのbグルー プのうち、大きい方のペアから選ばせます。大きい方が選ばれたらbグループの小さい方のペアから選ばせます。ですから、それらのペアがトップにくるようにカットしてください。

第2回目にbグループから選ばれた数が小さければ、つぎはcグループの大きい方のペア、大きければ、つぎはcグループの小さい方のペアから選ばせます。それらのペアがトップにくるようにカットしてください。

第3回目も同様です。あとは第7巻の説明どおりです。

理論的には以上のとおりですが、実際のハンドリングでは、カットする位置を判断するのがけっこうたいへんです。以下のようにやってください。

相手に決めさせるペアを取るときに、つぎにカットする可能性のある2カ所を、少し広げておき、それを目安にして選ばれなかったカードをのせると きに、しかるべきずれの方でブレークを作りながら閉じてカットします。

また、119ページの文章に1文字間違いがありました。下から2行目の″上にすべり込ませ″は、″下にすべり込ませ″です。

Cardician's Journal

No.173

2011 年 4 月 8 日

ホイッスル

= セオダー・アンネマン、雑誌 “ジンクス No.80”、1940 年 2 月 17 日 =

前号で言及したリバース手法が使われたアンネマンのトリックです。

＊方　法＊

2 人にカードを選ばせ、トップにコントロールします。そのあとリフルシャフルして、2 枚の間に1枚のカードをはさみます。

ダブルターンオーバーして 2 枚目を表向きにトップに置きます。「2 人のカードは上にはありませんね」と言います。左手を返してボトムカードのフェースを見せ、「下にもありませんね」と言います。トップから 1 枚抜き出して、ひっくり返してトップ (バック) に戻します。

デックを裏向きにして、1 回カットします。スプレッドして、中央に 1 人目のカードが表向きに出てきたのを見せます。そのカードがトップにくるようにカットします。

トップの 2 枚をダブルリフトして右手に取り、左手でデックを表向きにして、中央に右手の 2 枚を入れます。デックを裏向きにスプレッドします。2 人目のカードが表向きに現れます。

バーティカルリバース

上記のアンネマンの解説を見ると、前号で紹介したビデオ演技で使われていたのがアンネマンのハンドリングであったことがわかります。

バーノンの ’ ツイスティングエーセズ ’ に書かれていた方法のが、ビデオ演技のやり方よりも優れているとするならば、アンネマンのトリックにおいてもバーノンの返し方を

使った方がよいことになります。

私のハンドリングは以下のとおりです。とりあえずバーティカルリバースと名づけます。

ダブルターンオーバーして、表向きになった 2 枚をデックよりほんの 2cm 程度前にずらして置きます。そしてそのカードについて何かを言います。

右手を 2 枚の前エンドにかけて、左手を手前に傾けながら、上の 1 枚だけを裏返し、下の 1 枚は左人さし指で押してデックにそろえ、その上に右手で返したカードを重ねます。

このやり方をダイレクトに使うと、つぎのようなマジックになります。

上から出てくるカード

選ばれたカードをトップにコントロールしたあと、「あなたのカードは上にはありません」と言って、ダブルターンオーバーします。少し前にずらして置きます。そして上記の方法で上の 1 枚を裏向きにします。選ばれたカードはトップから 2 枚目に表向きになっています。

「このようにすると上から出てきます」と言って、アードネス／フーディニチェンジを行って、トップに表向きの選ばれたカードを現します。

バーティカルリバーススイッチ

似たようなハンドリングで、カードをすり替えるのを同時に行うと、実現できる現象の幅が広がります。

バーティカルリバースで上の表向きのカードを裏返すのを、下のカードの方を裏返すのです。上の表向きのカードは右親指でずらしてデックのトップにそろえます。そしてその上に裏向きにしたカードを重ねます。もちろん、デックを少し手前に傾けて、表向きのカードが見えないようにする必要があります。

この技法を使うと、つぎのような現象が実現できます。

カードのひっくり返し方

「カードのひっくり返し方には色々あります。まずこのように横向きに返すやり方です」と言って、横方向にダブルターンオーバーします。少し前にずらして置きます。

「つぎにこのように縦に変えするやり方もあります」と言って、縦方向に返しますが，バーティカルリバーススイッチを行います。

「そして横にも縦にも返さずにひっくり返すやり方があります」と言って、アードネス／フーディニチェンジを行って、トップに表向きのカードを現します。

さらなる発展

アイデアというものは、連鎖されて出てくるものです。この続きは次号にて。

Cardician's Journal

No.174

2011 年 4 月 15 日

プッシュインリバース

前号で説明した ' カードのひっくり返し方 ' は、デックのトップにあるカードを手でこすると、そのカードがひっくり返えるという現象でした。同じ原理を使用しても、現象の現し方の違いで、ずいぶん違う味の現象になることがあります。

ダブルターンオーバーでカードを見せます。ハートのAを見せたとします。返した 2 枚は少し前にずらして置きます。続けて前号で説明したバーティカルリバーススイッチを行います。その結果、表向きのハートのAはトップから 2 枚目にリバースされます。

なお、裏返したカードをトップにのせるとき、ハートのAの下にブレークを作り、しかも、ブレーク上の 2 枚を右親指で少し前にずらします。

右手の甲を上に向けて、前にずれている 2 枚の左上にコーナー近くをつかんで取り上げます。左親指でデックの左サイドをリフルして、中央近くで止めて、そこに右手をカードをさし入れます。半分ぐらい入れたところで右手の位置を変えます。すなわち、全部の指を伸ばして、親指はデックの手前エンド、他の指は突き出ているカードの前エンドに当てるのです。

そして突き出ているカードを勢いよく押し込み、押し込んだらすぐデックを両手の間に広げて、ハートのAが表向きにひっくり返ったという現象を見せます。

プッシュインチェンジの併用

ダブルで重ねたままの 2 枚をアップジョグ状態にしておくというのは、たいへん危険です。相手はそのカードに注目を集めていて、それらの 2 枚はよく目立つ位置にあるからです。そこで有効に働くのがプッシュインチェンジです。ご存じない方のため

に説明しておきます。

右手が 2 枚をデックの中に半分ぐらい入れたとき、右中指で 2 枚のうちの下のカードを右にずらします。ずれた部分を左人さし指で押して、下のカードをデックの中に完全に押し込んでしまいます。

以上の動作は、右手がカードをさし入れるという動作のうちに完結させます。

このようにしたあとは、カードを突き出させたまま、適切なセリフを言って間をとることができます。それから突き出たカードを押し込んで、カードを広げてリバースを表現した方が、演技としてドラマチックになります。

スードデュプリケートカードの併用

入れたカードを突き出させた状態で、左手を返してカードの表を見せられたら、当然ながら変化現象のインパクトは強化されます。デュプリケートカードを使えば実現できますが、このトリックに関しては、似ているカードで実現できます。

なぜなら、プッシュインチェンジの形でカードを押し込んで、右手がカードを押さえたままで両手を返して表を見せれば、右手がちょうどインデックス部分を押さえているから、偽物だということがわからないからです。

そのようにノーマルデックの中で使える代用デュプリケートカードのことを、スードデュプリケートカードと呼ぶ人もいます。7のカードと8のカードとか、6と7とか、使える組合せはかなりあります。このトリックでは、クラブのJとスペードのJを使うとよいと思います。

それら 2 枚をトップに置いておいて、上記の通りに進め、プッシュインチェンジを行った直後に、両手を返してさし入れたカードの表を見せます。マークとインデックス部分を右手が押さえています。

そしてカードを裏向きに戻し、突き出たカードを押し込み、そしてデックを広げて結果を見せます。

複数現象への方向転換

見せたカードがひっくり返るというのは、たしかに瞬間的に起こる強烈な現象ではありますが、あまりにも瞬間的過ぎるために、「ただそれだけ」という感じがしがちです。それはダブルリフトで見せたカードをデック中央に入れて、トップから現すというアン

ビシャス現象を 1 回だけ見せるのに似ています。

もちろんそのような単発現象を見せるのが適切な場合もあります。演じる時間が少ししかない場合とか、他のマジックの枕として、瞬間的なインパクトを与えたい場合などです。

単発現象を面白くするには、’アンビシャスカード’のように、同じ現象を繰り替えというやり方もあります。それに対して、単発現象が起こったあと、その現象をつぎの異なる現象につなげるというやり方もあります。カードがリバースして、そのカードが選ばれたカードを見つけるというような現象の連鎖です。

ここでは、バーティカルリバーススイッチを使って、リバース現象をカード当てにつなげることを考えてみましょう。

相手に選ばせたカードがスペードのJの上にくっつくような返させ方をします。相手のカードを見つけるのに探偵としてスペードのJを使うと言って、表を自分に向けて広げ、相手のカードがトップにいくようにカットして、デックをそろえて裏向きにします。

ダブルリフトしてスペードのJを見せ、バーティカルリバースを行います。スペードのJが表向きで 2 枚目で、トップが選ばれたカードとなります。

トップの 2 枚をダブルで右手に取り、左親指でデックの左サイドをゆっくりリフルして、相手にストップをかけさせ、そこへ右手のカードを入れます。押し込んでそろえます。

「いまスペードのJは他のカードと同じ方向を向いています。これでは他のカードの表を見ることはできません。ですから、スペードのJを反対向きにします」と言って、デックに魔法をかけます。

「これでスペードのJはあなたのカードを見つけられます」と言って、デックに対して魔法をかけてから、リボンスプレッドします。表向きのスペードのJとその右隣りのカードを抜き出し、相手のカードを名乗らせてから、そのカードを表向きにします。

アイデアは無限につながります

上記のやり方で 2 人が選んだカードを当てることもできます。結果的にトップと 3 枚目が選ばれたカード、2 枚目がスペードのJになるようにして、スペードのJを見せてバーティカルリバースしたあと、トリプルで取り上げて上記と同じようにやればよいのです。

トップから 4 枚目にクラブのJがくるようにしておけば、4 枚リフトして取り上げれば、カードをさし入れたあと、表をちらっと見せることもできます。しかしそれが良いかどうかはわかりません。

まだまだアイデアは思いついていますが、すべてを書いたら、エドワード・マルロー状態になってしまいます。今日はここまでということで。

Cardician's Journal

No.175

2011 年 4 月 12 日

重複現象について

4 月 9 日にテレビでマジック番組がありました。番組名は忘れましたが、石井竜也がホストを努める番組でした。その中で、小さいリング状のピルのようなものを口に入れ、かみ砕いて飲み込み、そしてそれを糸もしくは針金のようなものを首に貫通させ、取り出すという演技がありました。私は現象が起こった瞬間、何が起こったのかわかりませんでした。

もちろん 1，2 秒たったときには、かみ砕いたピルがもとに戻り、喉を貫通して出てきたのだということをマジシャンが表現しようとしていたのだとわかりました。これは、糸が喉を通った現象、ピルが復元した現象、糸がピルの輪に通った現象、という三重現象であります。

このように、いくつもの現象を同時に発生させると、見る者は直感的に現象を感じにくいということがあります。もしもピルをかみ砕かずに、飲んでそれが喉につかえたという演技をしたあとに、あのように取り出せば、ひとつ現象が減って、喉から糸に通して取り出したという現象として、もっと明確に伝わるのではないかと思いました。

現象を重複させることについては、必ずしも良いとか悪いということではありません。トライアンフのように、デック全体の向きがそろって、相手のカードだけひっくり返っているのを二重現象だとして、わざわざツーステップに分ける人もいますが、それは現象を分けることによって、インパクトを低下させてしまうことにつながりかねません。

そのようなトライアンフの演じ方は、消失と再現のイリュージョンにおいて、いちどまえの衣装のまま再現させて、それからまた箱に入り、衣装を替えて現すようなものです。

重複現象は、重複させて効果を上げる場合と、その逆の場合があるようです。

オプティカルイリュージョン

面白い目の錯覚のサイトを見つけましたので、紹介させていただきます。以下にアクセスしてください。

http://www.youtube.com/watch?v=xl1lLze5ZpM&feature=player_embedded

ひとつの菱形を濃い菱形、中ぐらいの濃さの菱形、明るい菱形の上に運ぶと、下にある菱形の色の濃さと同じになってしまいます。じつは 3 つの濃さの菱形は、どれも同じ濃さなのです。私は画面をデジカメで撮影して、プリントして実際にやって見ました。どうしてそのような錯覚が起きるかという、原理については今回は説明いたしません。マジックを見せてすぐ種明かしするようなものだからです。ご自分で考えてください。

さて、この錯覚の原理をマジックに使うことはできないでしょうか。カードマジックに応用するのは思いつきませんでしたが、つぎのようなマジックを思いつきました。

濃さのインスピレーション

= 加藤英夫、2011 年 4 月 21 日 =

下図のようにプリントされた 1 枚の紙と、菱形をひとつひとつに切ったものを 7 個作ります。

演技の初めでは、ひとつひとつの菱形は裏面を上に向けておきます。紙にプリントされている図を見せて、3 種類の濃さの菱形が並んでいることを説明します。それからひとつひとつの菱形を、裏向きのまま紙の図の菱形の上に自由に置かせます。

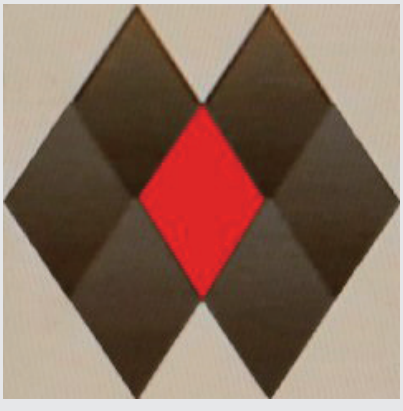
すべての菱形が置かれたら、それらをひっくり返して、相手が濃さの一致した菱形を上に置いたことを見せます。

レッドダイヤモンド

= 加藤英夫、2011 年 4 月 21 日 =

上記のままでは、相手が目の錯覚だと気づいたらお終いです。錯覚だと気づかれにくくし、しかも錯覚だと気づかれても成立するようにするために、もうひとつのアイデアを加えるとつぎのようなマジックとなります。

下図のように中央の菱形だけ赤くしておきます。そしてひとつひとつの菱形のうち、ひとつだけを赤くしておきます。



パテオフォースを使って、ひとつひとつ選ばれた菱形を相手に赤以外の菱形に置かせます。最後の赤い菱形を中央の菱形に置かせます。そしてまわりの菱形を表向きに返してから、最後に赤い菱形を表向きにします。

補　足

上記のように演じると、6 回もパテオフォースを行うことになります。とても実用的ではありません。その対策としては、最初に中央に置く 1 枚を決めるのにパテオフォースを使い、残りの 6 枚は自由に置かせることにすればよいのです。

Cardician's Journal

No.176

2011 年 4 月 29 日

由布院で見た夢

一泊旅行で行ってきた由布院。由布院と書くべきか湯布院と書くべきか、迷ってしまいます。由布院町と湯平町が統合されたときに、両方の町の文字がダブって湯布院という新しい表記が生まれたとのこと。表現するものによって、つぎのように使い分けなければなりません。

由布市　　由布駅　　湯布院町　　湯布インターチェンジ
由布院温泉／湯布院温泉（これはどちらもあり）

このように観光客を惑わせる表記の不統一は、まるで観客の都合や感情を度外視した、マジシャンの演技を思い起こさせます。

さて、その夜見た夢が恐ろしいものでした。ドラクエ6には、現実の世界と夢の世界があり、そして夢と現実の狭間の世界がありました。私が由布院で見たのは、まさに夢と現実と、そして狭間の世界でのことでした。

夢の中で私は、あるマジックコンベンションにいます。舞台では世界各国の著名なマジシャンが、代わる代わる挨拶をしています。そしてつぎは日本の番で、国際的にも有名なあの方がスピーチされます。その人がいきなり言いました。

「この会場に加藤英夫さんがいますが、彼はカードマジックの本を書いていて、その中で、選ばれたカードを現すときは、必ず〝あなたのカードは何でしたか〟と言って、相手に名乗らせてから選ばれたカードを見せることが重要だ〟というようなことを書いています。加藤さんそうですよね」。

そう問いかけられて、夢の中の私はしゃべり出します。

「はいそうです。カードを表向きに現してから、″これがあなたのカードですね″などというよりも、そのようにした方が、表向きにしたときのインパクトが強まるからです。そんな当たり前のことは、ここにいるすてべのマジシャンの方はご存じです。私がそんなことを今さら言わなくても、タマリッツやバーノンやもっと昔でも、マスケリンなどによって重要なことが書かれてきました」。

そこまでが、私が夢の中で言ったことです。ここから私は夢から覚め始めます。でも完全に覚めきった状態ではなく、まさに夢と現実の狭間にいる状態で、私はつぎのように言ったのです。

「そのように重要なことは、タマリッツやオルティスが書いた本を買って読むレベルの人だけが読むのではなく、マジックを始めたばかりの人たちに伝える努力をしないと、いけないと思うのです。私自身が書いている本は、7840 円も出して購入してくれる、そういうことが重要であるとすでにわかっている人々によって読まれています。それも大切な仕事ではありますが、今後はマジックをこれから学んでいこうという人々を、望ましい方向に導くのに助けになるような仕事をしていかないといけないと思うのです」。

ここで私は目を開けました。まだ 4 時少しまえのことでした。そのときの私の頭は、夢とその覚めかけのときの自分の発言に衝撃を受けていました。夢の中で、私は私に今後やるべきことを示唆しているのです。しかもいまの仕事よりももっと重大な仕事を。

目がすっかり覚めても、私は夢から続く思いに束縛されていました。インターネットではびこる低レベルの演技や種明かし、これらがマジックの向上の足枷になっているのではないかと思いつくと、″ならばインターネットを通して、マジックの素晴らしさを啓蒙するような活動をすべきだろうか″などと、私の頭は考えることをやめませんでした。

いつしかまた眠りに引き込まれ、そしてつぎに起きたとき、朝靄に包まれた由布岳と、そしてその裾野に広がる温泉街の風景にデジカメのシャッターを押し続けたのでした。

Cardician's Journal

No.177

2011 年 5 月 6 日

商品名が仕掛けを教えてくれる

以下にアクセスして、'Extractor' という商品のデモ映像を見てください。"Watch the Video" というボタンをクリックすると見ることができます。

http://www.wizardcraft.com/card_effects.htm

デックから相手が 1 枚のカードを自由に選び、そのカードをケースの中のデックの中央に入れて、デックをポケットにしまいます。別のポケットから封筒を出し、それを破ると、中から客の選んだカードが出てきます。

というのが現象ですが、この演技ではやっていませんが、選ばれたカードにサインをさせてもかまいません。本当に相手が選んだカードを封筒から現せるのです。

インターネット時代になって、マジック用品の広告もデモ映像を見せるものが多くなってきました。もちろんそのやり方は販売数を増やすのに役立っているはずですが、商品そのもの、またその実演のやり方などによっては、見る者にトリックがわかってしまい、広告としては逆効果になってしまうものもあるようです。

さて、上記の商品はいかがでしょうか。以下のポイントからトリックの想像がつきます。

1. カードを他の客に見せさせるとき、ケースを持ったまま後向きになる。
2. 選ばれたカードをケースの中のデックの中に入れさせる。
3. ケースを左内ポケットにしまったあと、右手を見せずに封筒を取り出す。

映像を見終わった瞬間は、やり方を正確に見抜けたわけではありませんが、この商品のタイトルを見たとき、すぐ確信が持てました。"Extractor" とは、' 抜き出し器具 '

というような意味です。デックの中に入れられたカードを抜き出す仕掛け、という意味です。商品名が仕掛けの機能を示しているのです。

あとはどのようにしたら、内ポケットの中でケースの中のデックから、選ばれたカードを抜き出せるかを考えればよいのです。デックはあとで見せないのですから、選ばれたカードを入れるときだけ、前エンドが正常に見えていればよいのですから、かなり大胆な仕掛けでもよいのです。

これ以上書くと種明かしになってしまい、営業妨害になってしまいますのでやめておきましょう。

ちなみにポケットの中でカードを封筒に入れる方法は、アンネマン時代に発明された方法です。ただしこの映像では、長い封筒を 2 つに折って使用しているので、原案よりも仕掛けが想像しにくくなっていると思います。

それではこの広告映像が、トリックがわかってしまうからといって失敗でしょうか。おそらく失敗ではないと思います。あのようにデックの中に入れたカードを抜き出させるということ自体が、いままでにない機能であり、面白い現象に利用できるポテンシャルがあるために、カーディシャンにとっては持っていたい道具だと感じると思います。

広告効果についてはここまでとしましょう。さて、このデモ映像で、カードを他の客に見せさせるときに、マジシャンが後向きになったことがたいへん気になりました。それが観客に怪しいと感じられたとしたら、そのあとずっとその怪しさが尾を引きます。

私はデックをケースの中に入れて、そのままそのケースの中のデックに選ばれたカードを入れさせる方法を思いつきました。相手にデックを渡して選ばせることはできませんが、これはカード当てではなく飛行現象です。選んだカードにサインさせて演じれば、デックの上半分から抜かせて行っても、それほど効果が落ちるとは思えません。

インターネット時代とは、クリエーターにとって本当に良い時代です。画面を見ているだけで刺激を受け、ときにはトリック知ることができ、そして新しいアイデアを思いつくこともあるのですから。

節電について

大震災の影響による電力不足に対処するため、企業の節電に対しては政府、行政からも指示や通達があるようですが、一般家庭に対しては、節電方法についての情

報は流れているものの、節電実施を強制する指示はありません。

電力消費の多くは一般家庭が占めています。企業が節電すれば、それだけ生産量や企業実績に影響します。経済に大きな影響を与えるのです。一般家庭が節電しても、そのようなデメリットはありません。ですから、私たちが節電に具体的に努力することが、困難な状況にある日本を復興させる大きな力となるはずです。

私はすぐ電灯を LED 電球に替えました。無駄な電灯はつけないということにも注意しましたが、その結果、3 月 15 日から 1 ヶ月の電気使用量が前年の 75% になりました。これはほとんど日本全国の夏期に不足する分に該当する節電となりました。

LED 電球はまだ高価ですが、1 年も使用すれば元は取れ、そのあとはずっと電気代が節約できるのですから、早く交換すればするほど、得になるということです。ぜひ皆さんにも実施していただきたいと思います。

スイッチ不要のエクストラクター

エクストラクターの映像を見るかぎり、後ろを向いたときにケースごとスイッチしていると思われます。そのことは、ケースに大胆な仕掛があるかもしれないこと、カード自体に大胆な仕掛があるかもしれないことを意味しています。私はケースもデックもスイッチ不要な方法を考えました。ストリッパーデックを使用するのです。

図 1 のようにケース下部の両側に穴をあけます。底板の一端を切って、デックが抜け落ちるようにします。

選ばれたカードが他のカードと方向違いにされたデックを、選ばれたカードの幅の広い方をケースの下部に向けて入れ、図 2 のようにケースを持ってポケットに入れるのです。カードの重みでケースと他のカードはポケットの中に落ち、選ばれたカードだけが右手に残ります。それをパームすれば、原案と同じようなことができます。

Cardician's Journal

No.178

2011 年 5 月 13 日

ポケットエクストラクション

前号でポケットに入れたデックからカードを抜き取る方法について書いたので、これから書くことを思い出しました。

右手にクラシックパームしているカードをポケットから出現させるとき、右手全体をポケットにさし込まないで、親指と人さし指だけをさし入れて取り出すやり方があります。ロベルト・ジョッビは〝カードカレッジ〟第 3 巻で、'ポケットエクストラクション'と呼んでいます。

マジックカフェにおいて、この技法が誰の考案になるものか、ということが質問投稿されました。ちょっとそのやり取りを見てみましょう。

Alel
それってホートンのポケットロードのことじゃないですか。ダーウィン・オルティスがいくつかの本やビデオで触れているので、調べ直したらどうですか。

Joseph O'Mally
それはノーマン・ホートンのテクニックで、〝カードカレッジに書かれているはずです。何巻かはおぼえていませんが。

Ian Kendall
それはゴードンの技法です。雑誌〝エピローグ〟に初めて解説されました。

Daegs
有名なのはゴードン・ブルースのやり方ですが、バリー・リチャードソンも〝アクトツー〟で面白いやり方を書いていますよ。

landmark(質問投稿者)
″ カードカレッジ ″ のことご指摘有り難うございました。原案者はノーマン・ホートンだったのですね。

Ian Kendall
ホートンじゃなくて、ゴードン・ブルースです。

このようなやり取りを読むと、いったい誰が考案者かわからなくなるだけです。私は以下のように投稿しました。

加藤英夫
ノーマン・ホートンがいつ何に発表したか。
ゴードン・ブルースがいつ何に発表したか。
それが問題です。
ホートンは、'Production of a Palmed Card from the Shirt Pocket' として、雑誌 ″ イビデム ″1957 年 12 月号に発表しました。
ブルースは、'Pocket Palm' として、雑誌 ″ エピローグ ″1973 年 3 月号に発表しました。

両方のやり方を比較すると、基本的な原理は同じもので、ホートンは胸ポケットから取り出すものとして書いていて、ブルースはズボンの右ポケットから取り出すものとして書いています。ゴードンが独自に考案したものだとしても、16 年もまえにホートンがこの技法の原理を見つけていたことは否定できません。

投稿のやり取りは以上です。前述の ″ イビデム ″ から、ホートンのやり方の説明を翻訳しておきます。

カードをクラシックパームしている右手を胸ポケットの方に運び、ポケットの入口のやや上にきたとき、小指で押さえているコーナーを外し、そのコーナーをポケットの中に入れつつ親指と人さし指の先をポケットの中に入れ、指先を下に向けて下げてやると、カードがポケットの中に入り込みます。カードのエッジを親指と人さし指の先でつかみ、カードをポケットから抜き出して見せます。

それほど難しくないので、ぜひやってみてください。この技法は研究の余地があります。私はすでに面白いトリックを思いついていますが、それはいつかまたの機会にということで。

フライングサンドイッチ

= 加藤英夫、2011 年 5 月 11 日 =

方　法

デックを表向きに広げて、2 枚の黒いJをアップジョグします。アップジョグさせたまま裏向きに返し、2 枚のJを抜いて表向きにトップに置きます。そのときトップの裏向きのカードの下にブレークを作ります。

2 枚のJを広げて見せ、そろえるときて閉じるとき、ブレーク上の 1 枚をアディションし、上のJを引いてデックの上に取り、2 枚のJを見せながら、「この 2 枚のJは罠です」と言います。そしてそれらをそろえるとき、下の 2 枚のデックの上にドロップして、上の 1 枚だけをいかにも 2 枚のJであるかのように取ります。2 枚のJをポケットに入れておきます」と言って、胸ポケットに入れます。

トップから 2 枚目の表向きのJが見えないようにデックを広げて、相手に 1 枚のカードを指ささせます。そのカードを右手で抜いて表を相手に見せるとき、左手はトップカードの下にブレークを作ります。そして選ばれたカードをティルトによって、トップから 2 枚目に入れます。選ばれたカードの上にブレークを作り、ダブルカットを行います。

トップの 2 枚を右手にパームしてスチールし、左親指でデックの左上コーナーを強くリフルして音をたて、それから右手を胸ポケットに運んで、パームしている 2 枚をポケットの中のJの手前に入れて、それら 3 枚を取り出します。そのとき左手はデックをテーブルに置きます。

取り出した 3 枚を、Jの表が相手に向くように広げます。中央に 1 枚の裏向きのカードがはさまっているのを見せます。選ばれたカードを名乗らせてから、そのカードの表を見せます。

Cardician's Journal

No.179

2011 年 5 月 20 日

ポケットからのエスケープ

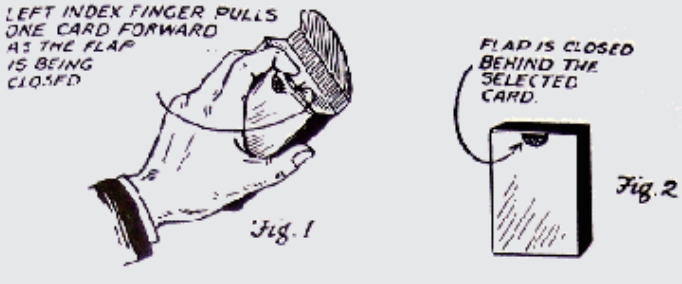
前号、前々号と、ポケットからカードを抜き出すマジックについて考察したので、今回もポケットからカードを取り出すマジックを取り上げます。ときには同じようなテーマで考えることもクリエーターにとっては、アイデアを連鎖的に思いつく手法なのです。

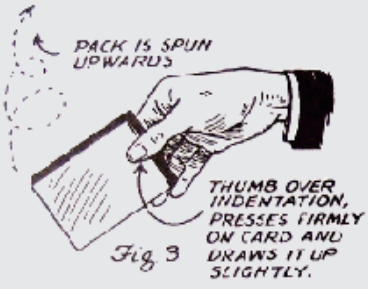
つぎのリンクから YouTube の映像を見てください。見るのは最初の現象だけで、後半はたんにスベンガリデックの働きによって、輪ゴムをかけたケースの中から、選ばれたカードを取り出すだけです。

http://www.youtube.com/watch?v=rbMnQaxyWF4&feature=related

最初のはデックをケースに入れてフタをするときに、トップカードの下にフタを入れることにより、あとから抜き出せるようにしたものです。スベンガリデックを使わなくても、選ばれたカードをトップにコントロールすれば、あの現象がノーマルデックでできます。

フタをトップカードの下に入れて閉じるというアイデアは、60 年以上まえに存在していました。そのことを知らず私は独自に考案し、″まじっくすくーる″1964 年 12 月号に、’フラリッシュエスケープ’として書きました。ところが私のやり方とまったく同じやり方が、雑誌″ヒューガードマジックマンスリー″1948 年 8 月号に、ミルボーン・クリストファが書いているのをあとから見つけました。以下の図は同誌からの引用です。





さて、上記のクリストファの解説に、バリエーションとしてつぎのような方法が書かれています。2 人の選んだカードをトップにコントロールして、デックをケースにしまうときに、2 枚をフタの外にして閉じます。そのデックをズボンのポケットに入れます。客のカードを 1 人ずつ名乗らせ、手をポケットに入れて、その客のカードを抜き出して見せます。

したがって、上記の映像の演技の原形は、すでに 1948 年に存在していたのです。でもひとつだけ重要な違いがあります。ズボンのポケットを使うと、手を完全にポケットの中に入れなければカードを取り出すことはできません。胸ポケットからならば、指先だけを入れて取り出せますから、よりビジュアルな現象になります。

いま私は「指先で取り出せますから」と書きました。その文章を書いた瞬間にひらめきが起こりました。すなわち、今の今、アイデアが浮かんだのです。

指先で取り出せるのなら、指の替わりの物を使って取り出したら面白いのではないか、という考えです。すぐにピンセットを思いつきました。ケースを胸ポケットに入れるとき、選ばれたカードをポケットの外にはみ出ない範囲で、ケースから引き出しておく必要があります。その部分をピンセットでつまんで引き出せばよいのです。

ピンセット以外に何が使えるかと思ったとき、つぎのトリックを考案するにいたりました。

ペンはマジシャン

= 加藤英夫、2011 年 5 月 19 日 =

方　法

選ばれたカードをトップにコントロールし、それをフタの外に出してデックをケースにしまいます。ケースの裏表をよく見せてから、選ばれたカードのある側を外に向けて、デックを胸ポケットに入れますが、人さし指で三日月部分を押さえたままケースを落とすと、選ばれたカードの上部が上に出ます。もちろん、ポケットの外に露見させてはいけません。

いったん手をポケットから離し、ここでペンを取り出してよく見せます。左手でポケットの縁を押さえますが、飛び出ているカードとポケットの外側を押さえ、選ばれたカードが動かないようにして、右手でペンをさし込みます。ケースとポケットの外側との間に入れて、ペンのクリップを選ばれたカードにはさみます。ペンの頭がポケットの上に少し出ているはずです。

魔法をかけてから、カードがはさまったペンを取り出します。そのときカードの裏面が相手の方を向いています。選ばれたカードを名乗らせてから、ペンの下部を持ってくるっとまわし、選ばれたカードを見せます。

Cardician's Journal

No.180

2011 年 5 月 27 日

ポケットスチール

ポケットを使うことに関してもうひとつ思い出しました。かなりまえにマジックカフェに投稿されたことです。2002 年 12 月 15 日にイギリスのユーアン・ギンガムがつぎのように投稿しました。

ノーマルデックを使っていくつか演じたあと、つぎのマジックとして、ドック・イーソンの ' アニバーサリーワルツ ' をやるのですが、密かにダブルフェースカードをデックに加えなくてはなりません。どのような方法があるでしょうか。

この投稿に対して、

スチールして加える。
ケースにいったんデックをしまい、出してくるときに加えて出す。
スリービングを使う。
ひとつまえのマジックでジョーカーを使うマジックをやり、ジョーカーをケースから取るときに、ダブルフェースもいっしょに取ってくる。

などの案が投稿されましたが、私はつぎのようなアイデアを投稿しました。

' アニバーサリーワルツ ' では、カードにサインさせるのにペンを使います。ペンをシャツの胸ポケット入れてクリップをとめておき、ポケットの外のクリップにカードを横向きにはさんでおきます。ペンを取るために右手を上着の中に入れ、カードをパームの位置にして右手を下げてスチールし、ペンを指先につかみ外に出します。ペンを左手で取って、相手に渡しつつ、パームした右手でテーブルからデックを取るときに、パームしているカードを加えます。

この投稿からヒントを得て、香港のアレックス・ホイが、素晴らしいやり方を投稿しました。

パームレススチール

= アレックス・ホイ、2002 年 12 月 18 日 =

ペンのクリップに加えるカードを縦向きにはさみ、ペンをシャツのポケットに入れておきます。デックを持った左手で上着の左襟をつかみ、右手を上着の中に入れて、ペンの先をつかみます。ペンを出しながら、はさまっているカードをデックにロードします。

というわけでポケットにこだわって 4 回お届けしました。クリエーターの頭脳というものは、ひとつのテーマについて考えると、関連したことを色々と思い出したり、それらから刺激を受けて新しいアイデアを思いついたりするものなのです。

Cardician's Journal

No.181

2011 年 6 月 3 日

アイデアの連鎖

4 回連続して、ポケットを使うカードマジックを書いてきましたが、これには明確な目的がありました。カードマジックをクリエイトするには、テーマに徹底的にこだわって考える、ということが重要であるということをお伝えしたかったのです。

なぜかというと、アイデアというものは考えの連鎖の中で引き出されるものだからです。何も考えていないのに突然ひらめく、などということはほとんどありません。それは考え始めてから答が見つかるまでの時間が極端に短いだけのことです。

今回は ' エクストラクター ' という、「ケース入りデックから選ばれたカードをポケットの中でスチールする方法」から思考が始まりました。それに関連して、「パームしているカードをポケットから出す方法」、「仕掛けのないケースに入れたデックから選ばれたカードを抜き出す方法」、「ポケットにセットしてあるカードを密かにスチール方法」、というようにアイデアの連鎖によって、思い出したり、思いついたりしてきました。

このように同じテーマで考えているうちに、突然アイデアとアイデアが結びついて、いままでにないアイデアが頭の中に浮かぶことがあります。同じテーマでなるべく多くのアイデアを頭の中に浮かべた方が、そのような結びつきが起こる確率が高いのです。

さて、今回もそのようなアイデアとアイデアの結合が、最後の最後、この号を書こうとしたときに起こりました。' ペンはマジシャン ' で使ったケースから出すアイデアと、そもそも今回の話の発端である、仕掛けを使ってケースからカードをスチールするマジックが結びいたのです。

すなわち、ノーマルなケースから抜き出す方法を、' ペンはマジシャン ' のようにリビレーションの目的に使うのではなく、' エクストラクター ' のように、カードをスチールする

目的に使うというアイデアが浮かんだのです。相手にデックの中に入れさせるということはできませんが、’エクストラクター’とほぼ同じ現象を、仕掛けを使わずに演じられるということです。

そこでアイデアの爆発が起こりました。1 枚のカードだけではなく、そのアイデアによって、「複数のカードを現すことができる」、と思いついたのです。

つぎのような現象のマジックがほんの数秒でまとまりました。

4 人の客が 1 枚ずつ選び、サインします。それらがデックに戻されてシャフルされたあと、マジシャンはデックをケースにしまい、内ポケットにしまいます。

マジシャンはそれぞれのカードを違うポケットから現すと宣言して、両手が完全に空であるのを見せてから、1 枚目は左内ポケットから現します。2 枚目は右内ポケットから現します。3 枚目はズボンの右ポケットから現します。

最後は左手が完全に空であるのを見せてから、ズボンの左ポケットに手を入れて取り出すと、左手にはケースが持たれています。ケースごと飛行してしまったと説明し、ケースからデックを取り出します。そして裏向きに広げると、4 人目のカードが表向きになって現れます。もちろん、4 枚とも客のサインが書かれています。

すごいアイデアを思いついた喜びに、すぐ妻にやってみせました。ただし 4 枚目を上記通りに現すにはある仕掛けが必要なので、3 枚目を取り出したのと同じ、右ポケットから取り出しました。そして 4 人にカードを選ばせる代わりに、妻の指定した数のフォーオブアカインドの 4 枚で演じました。妻の驚きようは近来まれに見るほどでした。

さて、″Card Magic Library″8 巻には、トランスポジションの章があります。ですから上記のアイデア練り込んで完成させ、その章に含めたらどうか、ということも考えられなくはありませんが、なんと第 8 巻の印刷原稿は、昨日印刷会社に手渡してしまいました。

そういうことで、次号から第 8 巻の紹介が始まります。

ここでトリックとは別のアイデアが浮かびました。第 8 巻を購入していただいた方に、上記の現象のやり方を解説したものを提供したらどうかというアイデアです。「うん、これはいいアイデアだ」。

ウルトラベラーズ

= 加藤英夫、2011 年 6 月 2 日 =

準　備

ズボンの右ポケットから左ポケットに通じるトンネルを用意します。重さでうまく落ちるように、高い位置に入口を作り、低い位置に出口を作ります。

方　法

相手が指定した数の 4 枚、もしくは 4 人の客が選んだカードを飛行させますが、サインさせて演じてもよいですし、サインなしで演じてもかまいません。

いずれにしてもそれらをデックの中に入れて、それらのうちの 1 枚がデックの中央で逆向きにして、他の 3 枚をトップにコントロールするところまでは解説いたしません。得意な方法で進めてください。

デックをケースに入れるとき、トップの 3 枚をフラップの外に出すようにします。「カードを内ポケットにしまっておきます」と言って、右手でデックを左内ポケットに入れる真似をしますが、右親指の先をフラップ部分で露出しているカードに当てて、ケース入りデックを左袖の中に落とします。親指を当てているカードが右手に残ります。それをシャツのポケットに入れて、右手を外に出します。

「いまから 4 枚のカードが別々のポケットから出てきます」と言います。「1 枚目はここから出します」と言って、右手を上着の左内側に入れ、シャツのポケットからカードを取り、それを出して観客に見せます。左の客の方に見せるとき、左手を下げて袖からデックをスチールします。

左の客の方に体を向けたまま、右手で右襟をつかみ、デックをパームしている左手を上着の右内側に入れつつ、体を正面に向けます。そしてデックを右袖に落としますが、フラップ部分のつぎのカードを左手指先に残します。そしてそれを現し、観客に見せます。そのカードを右の方の客に見せるとき、右手を下げてデックをスチールます。

まだ体を右に向けているときに右手をズボンの右ポケット近くに運び、体を正面に向けたときには、右手を右ポケットに入れます。そしてデックをトンネルに落としますが、フラップ部分のカードを右手に残します。それを取り出して観客に見せます。

「最後はこちらのポケットから出てきます」と、ズボンの左ポケットを指さして言います。そして左手をそのポケットに入れ、ケースを取り出して、自分が驚く表情をして、「あれっ、ケースごと飛行してしまいました」と言います。

ケースからデックを取り出し、表を相手に向けて広げ、反対向きのカードをアップジョグします。「最後のカードは〇〇の××でした」と言ってから、そのカードの表を観客に見せます。

Cardician's Journal

No.182

2011 年 6 月 10 日

″Card Magic Library″ は大団円を迎えます！

第 8 巻の内容について詳細をお知らせするまえに、第 8 巻～第 10 巻までの各巻のテーマについて説明しておきます。

第 8 巻は、メジャーな現象をテーマにしています。たとえば ' アウトオブジスワールド ' 系の赤と黒の分離現象について、様々な様式での赤黒分離現象の作品を収録しています。第 8 巻については、次号において詳しく説明いたします。

第 9 巻は、手以外によるテクニックを集大成したものです。エスティメーション、グリンプス、サイレントカウントのように目を使うテクニック、記憶力や計算力を使う頭脳のテクニック、そしてイクウィヴォークのように口 (トーキング) によるテクニックなどです。

第 10 巻は、ショートカード、シックカード、クリンプカード、ダブルバック / フェースカード、スタックデック、ストリッパーデックなど、仕掛のあるカードを使用するマジックを収録いたしました。

原理が不思議を生む中核であるとすれば、技法はそれを実現する方法であり、仕掛は不思議を強化する影武者です。原理、技法、仕掛それらをすべて駆使したとき、マジックはミラクルになるのです。

以上のように ″Card Magic Library″ は、第 8 巻で実戦的なレパートリーを習得し、第 9 巻で手以外の高度テクニックで武装し、第 10 巻で仕掛という秘密兵器を手に入れるという、パフォーマーとして仕上げをしていただくまとめ方になっています。

各巻の発行時期については、第 8 巻は 7 月 1 日、第 9 巻は年内の早い時期、そして第 10 巻は来年早々を予定しております。

全巻おそろえいただくために

いままですべての巻をご購入いただいている方はご心配ありませんが、飛び飛びにご購入いただいている方へのお知らせです。

当分はどの巻も在庫の心配はないと思われますが、数年後には売り切れとなる巻が出てくるのは確実です。全巻をご購入される予定の方は、第 5 巻までの未購入分について優先しておそろえいただきたいと思います。

第 8 巻にご期待ください

いよいよ来週は、第 8 巻の全貌が明らかになります。傑作と呼ばれるメジャーな作品について、その現象の誕生、発展の推移を知ることは、カードマジックが多くのマジシャンの英知によって磨き上げられてきた、その歴史絵巻を見ることであり、私たちの愛するものが崇高なものであると確信できる内容となっています。

そして、それらの傑作の効果を最大限発揮できる演じ方を学んでいただくことは、パフォーマーとして大切な財産となることでしょう。

Cardician's Journal

No.183

2011 年 6 月 17 日

″Card Magic Library″ 第 8 巻のご案内

第 8 巻は 7 月 1 日発送開始と決定いたしました。この号で紹介するとともに、ご注文の受付も開始させていただきます。まずは内容の概要を見ていただくために、序文をお読みください。なお序文の日付が 2010 年 4 月 28 日になっていますが、第 8 巻に取りかかった日付です。

序 文

第 8 巻からのお奨めカードマジック

エイトカードブレーンウェーブ　By ニック・トロスト＆ダン・ハーラン

これは原案通りでも傑作に違いありませんが、ダン・ハーランがマジックカフェで発表した、この 2 回繰り返しバージョンは、不思議さもエンタテイメント性もパワーアップしています。

8 枚のカードから相手が 1 枚選びますが、選ばれたカードだけ裏の色が他と違います。2 回目は違うカードが選ばれますが、予期せぬ結果が起こります。

パーフェクトプリディクション　by バノコール＆加藤英夫

あらかじめカードの名前が書かれた予言の紙を 1 人の客に渡しておきます。そして 2 人目の客がまったく自由に 1 枚のカードを選びます。1 人目の客が予言に書かれたカードを取り出すと、まさしく 2 人目の選んだカードです。

マッチングドゥーアズアイドゥー　by 長谷和幸

1組のデックで演ずる’ドゥーアズアイドゥー’は、アル・ベイカーの時代からありました。しかしながらベイカーのやり方では、2人が選んだカードとして、必ずしも同色同数のカードを現すことができませんでした。長谷氏のアイデアはそれを見事に解決いたしました。その結果、つぎのようなセリフを言ってクライマックスとすることができます。

「あなたと私の相性がどのぐらいか見てみましょう。あなたのカードを見せてください」。「ハートの8ですね。もしも私のカードが黒ではなくて、赤いカードなら、どちらかというと相性がよい方だということになります。もしも私のカードがハートだとしたら、かなり相性がよいということになります」。

「よかったハートですよ。あとは数ですね。数が近ければ近いほどよいのです。最高の結果が出ました」。2人のカードは、同じ色で同じ数のカードです。

ミックスアップ　by アーサー・バックレイ＆加藤英夫

ダイ・バーノンの’トライアンフ’が発表された1946年、アーサー・バックレイが現象がまったく同じ作品を発表していたのを見つけました。バーノンはトライアンフシャフルを使用しましたが、バックレイはレッド＆ブラックシャフルを使用しています。

このシャフルはトライアンフシャフルのように、シャフル後にプルアウト（引き抜き）をやりません。ですから裏と表をリフルシャフルして、そのままカードをそろえるのです。しかしながら、そのシャフル自体にひとつの問題点がありました。それゆえにバーノン作品より優れているとは認められず、歴史の中に埋もれたのだと思います。

今回、私がその問題点を解決する方法を発見し、裏と表をリフルシャフルしてそのままカードをそろえて、プルアウト不要のやり方として完成させました。

部屋のやりくり　by ピーター・ダフィ

左から右に向かって、A1枚、2のカード2枚、3のカード3枚、4のカード4枚、を置きます。それがホテルの1人用から4人用の部屋に入った客だと説明します。ところが案内係が間違えて反対に入れてしまったので、客の中にいたマジシャンが、魔法で4組の客を入れ替えると話します。魔法をかけると、左から、4枚の4、3枚の3、2枚の2、1枚のAとなります。

いつもながらダフィのユニークなアイデアは、読んでも面白く、演じても面白いです。とくにこの作品のように、トリックの構造とストーリーの流れがマッチしていると、エンタ

テイメントとしての実演価値があります。

インタレースミックス　by 加藤英夫

赤いカード 3 枚を少し広げた状態で表向きにテーブルに置きます。その上に少し広げた状態の表向きの黒い 3 枚をのせます。それらを取り上げて、ポール・ハリスの ' インタレースバニッシュ ' のような広げ方で広げた瞬間、赤と黒が交互に混ざっています。

まだまだ紹介したい作品がたくさんありますが、このぐらいにしておきましょう。まちがいなく第 8 巻は、実演価値のある作品の観点からは、いままでの巻の中でベストです。目次をご覧ください。

目　次

″Card Magic Library 第 8 巻 ″ の注文受付を開始いたします

価格、申し込み方法など、従来と同じです。注文方法をご確認ください。

発送開始日：2011 年 7 月 1 日

注文方法

ご注文をお待ちしております。

″Card Magic Library″ の在庫について

各巻につきまして、在庫数にかなりバラツキが出てきております。全巻おそろえいただく予定の方は、未購入巻のお買い漏らしなきようお願いいたします。とくに第 1 巻～第 5 巻を優先されることをお奨めいたします。

Cardician's Journal

No.184

2011 年 6 月 14 日

″Card Magic Library″ 第 8 巻完成後の日々

″Car Magic Library″ 第 8 巻を完成させて、完成直後はたいていの場合、気力放電状態となり、カードマジックのことを考えない日々が多くなるのですが、なぜか今回は違います。

それには理由があります。これまでは原稿を書くことと編集をすることがつながっていましたが、第 8 巻から第 10 巻までは、かなり以前に原稿書きは済んでいたので、今回は編集作業に専念したのです。ですから発売時期もいままでより 2 ヶ月も早くなったのです。

書くのと編集するのを同時期に行うと、それだけ労力を使い、作業を終わった時点では、仕事を終了した疲労感と達成感が充満し、その結果として脱力感が発生することになります。

ところが今回はの編集作業においては、すでに書けている原稿を読みましたから、私は自分の書いたものを楽しみながら読むことができました。本当に第 8 巻は素晴らしい作品が満載です。

それらを読んだ結果、読みながらアイデアが出てくるということが、いままでの巻の編集時より多く起こりました。ですから編集が終わったいまでも、カードマジックのアイデアを考えることに対して、脳が活発状態にあるというわけです。

そのようなわけで、今回の編集作業中および編集後に、第 8 巻に書かれたことから刺激されて、いくつものアイデアを思いつきました。そこでそれらの中から 3 つの面白いアイデアを、次号から順次、記録していこうと思い立ちました。どのようなことを書こうとしているか、リストアップしておきます。

エイトカードブレーンウェーブ

第 8 巻 7 ページに、’エイトカードブレーンウェーブ’の 2 回繰り返しバージョンが書かれています。このトリックは、赤裏カード 4 枚と青裏カード 4 枚を使いますので、ノーマルデック 1 組しかないときには演じられません。かなり以前のことですが、どこかにカードのバックについてではなく、フェイス面でこの現象を行うことを書いたことがありますが、カードの選ばせ方に問題がありました。

今回、カードの選ばせ方のうまいやり方を思いつきましたので、それを解説いたします。

スリーバイスリーマトリックス

第 8 巻 17 ページに解説されている’スリーバイスリーマトリックス’は、先日 NHK のお昼の番組で、ステージバージョンとして演じられていました。カードを3＊3のマトリックス状に置き、最初に指さしたカードから、指示回数だけ移動して、到着したカードを除外していくということを、最後に 1 枚残るまで続けると、すべての人が同じカードに到着するというトリックです。

このトリックはもともと、最初に奇数位置が選ばれたか、それとも偶数位置が選ばれたかによって、2 つの予言で対応しなければなりません。マーチン・ガードナーが解説した原案では、封筒に入った紙片の表面を見せるか、裏面を見せるかによって対応していました。

NHK の番組では、それをじつにうまい方法で対処して、1 つの予言だけで演じられるようにしていました。そのアイデアをパクらせていただいて、ステージバージョンではなく、クロースアップでのカードマジックに応用するやり方を解説いたします。

オーエーセズ

第 8 巻 22 ページの、スチュワート・ジュダの’オーエーセズ’は、4 枚の赤裏のAと 4 枚の青裏のAの、合計 8 枚を使い、その中から選ばれたカードの裏の色とAの名前が予言に書かれている、というマジックです。現象が面白いだけでなく、原理がたいへん面白く、私は解説を読んでいたく感激したものです。

しかしながらこの傑作の原案もまた、表面と裏面を使い分ける予言の仕方を採用しています。私が第 8 巻に解説したのは、表と裏という 2 面性を感じさせず、予言はひとつしかないように感じさせられる方法です。

私は原稿を印刷会社に渡したあとに、そのやり方をさらに改良した方法を思いつきました。このやり方によって不思議さだけでなく、エンタテイメント性もパワーアップいたしました。

第 8 巻を読んで以上のようなアイデアを思いついたということは、他の巻をもういちど読めば、さらに多くのアイデアを出せるに違いありません。″Card Magic Library″ が第 10 巻までそろったとき、それはいままでのカードマジックの集大成であるだけでなく、これからのカードマジックの新たな出発点になるのかもしれません。

そうです。″Card Magic Library″ は私が書いたというよりも、多くのマジシャンが残してくれた財産を、私が 1 カ所にまとめたものです。これは今日のマジシャンの財産でもあり、そして未来に登場するマジシャンたちの財産にもなるということです。

その仕事が、あと 1 年もしないで完結いたします。「もうすぐ 10 巻が出て、終わってしまうのが嬉しいような、寂しいような気がします」と、メールを送ってくれた方がいらっしゃいました。

ご安心ください。第 10 巻が完成したときは、新たな扉を開くつもりです。

Cardician's Journal

No.185

2011 年 7 月 1 日

″Card Magic Library″ 第 8 巻発送開始いたしました！

予定通りの発送開始となりました。レパートリーに加えたい優秀作品が満載です。それぞれの章の冒頭には、それぞれのジャンルについてのヒストリーが書かれていますから、読み物としても楽しんでいただけると思います。

″Card Magic Library″ 第 8 巻からの発展

前号でお知らせしたように、″Car Magic Library 第 8 巻″ 掲載作品に関連したアイデアを、数回にわたって記録していきます。7 月 1 日発送開始ですから、まだお手元にないかもしれませんが、届いたら照らし合わせてお読みください。

以下の説明でページが書かれている場合は、当然ながら第 8 巻のそのページのことを意味します。

エイトカードブレーンウェーブ・フェースバージョン

7 ページ解説の ’ エイトカードブレーンウェーブ ’ では、赤裏と青裏のカードを交互セットしますが、このバージョンでは裏の色はすべて同じで、表が赤のカードと黒のカードを使います。ですから、ノーマルデック 1 組しかないときにも演じられます。

原案と同じように赤と黒を交互にセットして行うと、オルラムサトルティすると、つねに左手の方に同じカードが見えてしまいます。そのことを改善するためには、JCS 教科書高校コースに解説されている、オタックカウントを使います。

このカウントを使うには、赤黒交互セットではできません。赤と黒が上下に分離していなければなりません。ですから、そのようなセットでトップからボトムにカードをまわし

てストップをかけさせる、という選ばせ方は使えないのです。そこでつぎのように行います。セットは赤と黒が4枚ずつ上下にあれば、どちらが上でもかまいません。予言は、「色違いのカードが選ばれる」とします。紙に書かないで、セリフで宣言してもかまいません。

8枚を裏向きに持ち、「1枚ずつゆっくりカードを置いていきますので、好きなカードを置いたときにストップをかけてください。すぐでもあとの方でもかまいません」と言って、ゆっくりディールしていきます。

4枚目までにストップがかかったら、ストップがかかったカードを前に置きます。そしてディールしたカードを手元のカードの上に戻します。

5枚目以降にストップがかかったら、ストップがかかったカードを前に置き、手元の残りをディールしたカードの上に重ね、全体を取り上げます。

そしてオタックカウントを行って、全部同一の色のように見せます。オタックカウントを簡単に説明しておきます。

7枚のパケットを裏向きに左手に持ちますが、8ページ図1と同様に、やや上にずらして持ちます。右手でボトムから1枚抜いて取り、8ページの図2のように両手を返して、右手のカードの表と、左手のボトムカードの表を見せます。図2は裏面が見えていますが、ここでは表面が見えることになります。

そして両手を戻して、右手の1枚と左手のトップカードをテーブルに落とします。8ページの図3のように同じ山にではなく、左と右の別の山に落としていきます。

つぎも右手でボトムカード取り、同じように両手を返して表を見せ、両手を戻して、右手のカードと左手のトップカードを落とします。

もういちど同じことをやります。残りの1枚を右手に取り、右手を返して表を見せ、そして右手を戻してそれを右の山に落とします。

以上で7枚のカードが同じ色であるかのように見せられます。予言を見せてから、前に置いてあるカードを表向きにします。

カードを集めてひとつのパイルに戻しますが、上下が分かれた状態にすれば、繰り返しバージョンが演じられます。繰り返し方については、第8巻のやり方を踏襲してください。

比重が同じ水と油

= 加藤英夫、考案日不明 =

ついでといったは恐縮ですが、オタックカウントを使うと、オイル＆ウォーターの逆現象がじつに見事に実現できるので、解説しておきます。

表向きで、5 枚の赤いカードの上に 5 枚の黒いカードをのせます。それらを広げて見せたあと、閉じるときに下から 3 枚目の赤の上にブレークを作り、右手はブレークより上の 7 枚を取り上げます。左手のカードを裏返し、その上に右手のカードを裏返して重ねます。

ここで油と水が比重の関係で、混ぜてもすぐ分離することを話します。そして「もしも油と水の比重が同じだったら、どんなことが起こるか見せましょう」と言います。

順番が変わらないように上から 5 枚取ってテーブルに置きます。それらは黒の 5 枚と思われています。

手に残っている 5 枚でオタックカウントを行って、全部赤であるように見せます。ただし両手のカードは、第 8 巻に解説のやり方通り、ひとつのパイルに重ねていきます。

続いて黒と思われている 5 枚を取り上げ、同じやり方で全部黒のように見せながら、テーブル上のパイルに重ねていきます。

以上ですでに赤と黒が交互になっていますので、適切なやり方で赤と黒が混ざっていることを見せてください。

補　足

’比重が同じ水と油’について、パワーアップバージョンを考案いたしましたが、今後発行していく、″Card Magic Magazine″の中に’エイトカードブレーンウェーブ’のシリーズを掲載する予定ですので、そちらの方で解説することにいたしました。たいへん魅力的なパケットトリックですので、お楽しみに。

Cardician's Journal

No.186

2011 年 7 月 8 日

スリーバイスリーマトリックス

″Card Magic Library″ 第 8 巻、17 ページに解説の ' スリーバイスリーマトリックス ' が NHK で演じられたとき、最初に必ず奇数ポジションが選ばれる方法はつぎの通りです。

最初に異なる駅名のカンバンを持った人が 5 人登場します。観客のそれぞれはその中から好きな駅名を選びます。もっと駅名を増やそうと言って、あと 4 人が登場し、すでに並んでいる 5 人の中に割って入り込み、その 4 人は偶数ポジションに位置します。最初の 5 人は移動することなく、自然に奇数ポジションに位置することになります。

あとは ' スリーバイスリーマトリックス ' の奇数スタートのやり方で進めます。その結果、全員の最終到着駅が、NHK のある渋谷となりました。

これをカードマジックに応用するには、最初に 5 枚のカードを奇数ポジションに飛び飛びに置いて、それらのどれかにグラスをのせさせたあと、偶数ポジションに 4 枚を加えて進めます。

表と裏の予言

24 ページ解説の ' 表と裏の予言 ' をパワーアップする方法です。パワーアップすると同時に、エンタテイメント性も加えています。

24 ページの図 1 の「赤裏の」代わりに、「赤裏のカードです」と書きます。そしてその下に小さな文字で「紙を開いてください」と書きます。反対面は 24 ページの図 2 の通りで、開いた面は図 3 の通りです。

封筒から予言を取り出すとき、「紙を開いてください」の部分を手で隠し、「赤裏のカードです」の部分だけが見えるように取り出します。そして「ほら予言が当たっています」

と言います。「裏の色が当たっただけでは面白くないですね。ほらここに何か書いてありますよ」と言って、隠している部分をどけて、相手に「紙を開いてください」を読ませます。

そして選ばれたカードによって紙を開き、予言されたカードの名前を見せます。

″Cardician's Journal″ 特別版のお知らせ

″Card Magic Library″ が第 10 巻まで完成したら、新しい扉を開くと申し上げましたが、いま考えている構想のうち、ひとつのことが確定いたしました。それはいままで発行された ″Cardician's Journal″ の特別版を補筆、編集することです。

″Cardician's Journal″ の解説は、比較的簡単な説明であったり、ある部分を意図的に書かなかったこともあります。たとえば No.001 において劉謙氏の演技を取り上げましたが、その時点では使用されているデックの秘密については書きませんでした。

そのようなものについて書くのみならず、詳しい情報を加えたり、関連したカードマジックを解説したりしていきます。No.001 に関して見本を作りましたので、以下をアクセスしてご覧ください。

http://www.magicplaza.gn.to/journal/special.pdf

″Cardician's Journal″ 特別版 (pdf ファイル) の提供の仕方はつぎの通りです。

第 1 号は ″Cardician's Journal″、No.001 ～ No.050 までをまとめたものです。これについては、″Card Magic Library″ 第 10 巻発送開始以降 2 ヶ月間を、完成記念期間として、期間内に第 10 巻を購入していただいた方に、無償で提供いたします。

第 2 号以降は順次発行次第、第 10 巻完成記念期間までに全巻 (第 1 巻～第 10 巻) ご購入いただいた方に、無償で提供いたします。発行は 2012 年内に完了する予定です。

″Cardician's Journal″ のすべてについて完了すると、おそらく約 1000 ページになり、貴重な資料になると思います。

なお、″Cardician's Journal″ の中には、ビデオ映像のリンクを張ったものもあります。そのうちのいくつかは削除されていますが、いまのうちに可能な限りの映像をダウン

ロードして、何号で紹介されたものかわかるように保存しておいてください。

映像ダウンロードについては、リアルプレイヤーで映像を右クリックしてダウンロードできることがわかっています。ただし、そのようなダウンロードは、ご自分で見るだけなら問題ありませんが、他人に譲渡したり販売したりすることは違法です。

Cardician's Journal

No.187

2011 年 7 月 15 日

″Card Magic Library″ 第 8 巻のクレジット訂正

第 8 巻、85 ページに ' が解説されている ' パドルリバース ' は、加藤考案と記されていますが間違いです。私もほぼ同等のやり方を考案いたしましたが、高木重郎氏が先に考案されていました。そのことは、″Cardician's Journal No.044″ にて報告しているにもかかわらず、加藤の考案と書いてしまいました。申し訳ありません。なお ″Cardician's Journal No.044″ には、高木氏と加藤のやり方の重要な違いが説明されています。

トライアンフシャフルの補足

第 8 巻、76 ページのトライアンフシャフル解説で、私はつぎのように書きました。

それほど ‘トライアンフシャフル’ は強力な効果を発揮します。プルスルーシャフルが完璧にできるとしても、そこそこのレベルのトライアンフシャフルで演ずる方が、この作品にかぎっては、強い不思議さを生み出します。

よくザローシャフルで代用する人もいます。しかしザローシャフルというものは、やるところをじっくり見せてやる技法ではありません。あくまでもゲームプレイヤーがやるリフルシャフルに極力似せて行うものです。

それに対ししてトライアンフシャフルは、シャフルするところに注目させて行う技法です。言い換えれば、秘密の動作を隠してやるザローシャフルのような技法ではなく、嘘の動作を本当の動作と勘違いさせる技法なのです。

マジックカフェにつぎのような投稿がなされました。

いままで私はトライアンフを演ずるのに、ザローシャフルを使っていましたが、シャフル後

に半分を引き抜くやり方があるとききました。それは何という名前の技法でしょうか。

すぐにそれが ' プルスルーシャフル ' であるという指摘とともに、それを実演しているYouTube 映像へのリンクが紹介されました。そのつぎに投稿したのは私でした。

プルスルーシャフルとかザローシャフルは、' トライアンフ ' を演ずる場合にはトライアンフシャフルより効果的ではありません。" スターズオブマジック " に書かれている通りにやることをお奨めします。

このあと、ダイ・バーノン自身はトライアンフをプルスルーシャフルでやっていたとの指摘とともに、つぎのように指摘されました。

トライアンフシャフルは、初心者向けのプルスルーシャフルの代替え品のようなものです。目的は達成しますが、見た目におかしいやり方です。普通の人がシャフルするやり方からは逸脱しています。誰がシャフル後に手の平でカードを押し込んでそろえるでしょうか。

私はこの投稿を読んで、このことについて第 8 巻に書いたよりも、もっと詳しく書いておく必要があると思い、いま書こうとしているのです。

マジックにおいてではなく、カードゲーム中に行うとしたら、上記の投稿はまことに的を得ています。ゲームにおいては、やっていることを相手に注目を集めないことが、絶対的な原則です。もちろんマジックにおいてもそのような原則にもとづいて行うべきものがあります。パームやトップチェンジなどです。

ところがダブルリフトとか、トライアンフにおけるシャフルにおいては、注目を集めて行うべきものです。トライアンフシャフルの動作には、「裏と表を混ぜます。ほら、完全にそろえてしまいますよ」という気持ちが込められているのです。

そのような動作の理由付けの点以外に、動作の連続性の問題があります。トライアンフシャフルでは、シャフルして手の平で押し込んだときに外観上の動作が完結しています。カードを抜き出すのは、つぎにランニングカットする前動作として行われます。

ところがプルスルーシャフルでは、シャフルのあとにすぐプルアウトが続きますから、その連続した動作のイメージが観客に伝わります、

シャフルしてすぐプルアウトするのと、カットするまえにプルアウトするのとどちらがよいでしょうか。

はたしてダイ・バーノンはトライアンフシャフルを考案したあとも、プルスルーシャフルでトライアンフを演じていたのでしょうか。天国でバーノンに会ったらきいてみることにいたします。

第 53 回テンヨーマジックフェスティバル

毎年恒例の三越劇場のこの大会、9 月 25 日開催の今年の大会は、いままでよりエンタテイメント性をパワーアップしたものとなるようです。題して「The 53rd Tenyo Magic Festival マジックテイメント」。

第一線で活躍中の日本プロマジシャンを中心に、韓国と台湾から異色のマジシャンもゲスト出演とのこと。そして司会者があのケン・正木師です。盛り上がりが期待できます。(株) テンヨーのサイトにアクセスし、「マジックショーのご案内」のバナーをクリックして、詳細、チケット購入方法などをご確認ください。

http://www.tenyo.co.jp/

私も楽しみにしています。会場でお会いいたしましょう。

Cardician's Journal

No.188

2011 年 7 月 22 日

″Card Magic Video Lesson″ について

″Card Magic Library″ 第 10 巻完成以降、全巻購入いただいた方への無償アフタサービスとして、″Card Magic Video Lesson″ を開始いたします。これは、インターネット上で公開されたビデオ映像を題材として、以下の観点から考察・解説していくものです。

1．素晴らしい作品を見ていただき、その作品がなぜ優れているか、マジック構築上の重要ポイントを解説します。

2．ビデオ映像を見ながら、演技上の重要ポイントを考察していきます。

以上の 2 つのポイント、不思議さを生み出すための戦略構築と、観客をまえにしての実戦的戦法というものは、文章のみで説明することは困難であり、また映像だけでも十分に伝えにくいものです。ビデオ映像を見ていただきながら、文章で説明するという方法を採用することによって、より深く伝えられると考えています。

私は ″Card Magic Library″ においても、その 2 つのポイントに関して可能なかぎり説明してきたつもりではありますが、ビデオ映像＋文章解説の効果を発揮させて、より明確に表現していくことを考えています。

また、ビデオ演技をもとにして、優秀なバリエーションを考案できたときは、作品として解説いたします。すでにそのようなものを生み出しつつあります。 映像をいまからダウンロード保存しておいてください

″Card Magic Video Lesson″ の開始は、来年前半の ″Card Magic Library″ 第 10 巻完成直後からです。それまでに題材とするビデオをピックアップしていきます。それらの映像はレッスン開始時点で削除されている可能性もありますので、私が紹介したものを、なるべく早急

にダウンロードしておいてください。ダウンロードしておかないと、″カードマジックビデオレッスン″は利用できません。

ダウンロードするには、リアルプレイヤーを搭載したWIndowsパソコンであれば、映像を表示した状態で、右クリックもしくは、画面上に出てくるダウンロードアイコンをクリックすることによって可能です。

なお、ダウンロードしたものを他人に提供したり販売することは法的な問題が発生すると思われます。当然ながら、ダウンロードし忘れたものが削除された場合、当方から提供することはできません。

リンクアドレスのあとの括弧内に、4桁の番号を記しておきますので、セーブするときは(その番号＋そのビデオファイルの拡張子)という名前でセーブしてください。拡張子を変更すると、映像が見られません。

たとえば以下の最初のリンクで使われているビデオは、flvですので、0001.flvという名前で保存することになります。

今回は以下の13点をダウンロードしておいてください

http://www.youtube.com/watch?v=xxLRGkwoXgM（0001）

この映像をもとにして、赤黒分離現象用のシャフルについて解説いたします。

http://vimeo.com/22548777（0002）

’オープントラベラーズ’を利用して、メッセージを表現することを考えます。

http://www.youtube.com/watch?v=Lxb6abW4KDU（0003）

演技の問題点と、トリックの問題点を指摘し、両方を改善することを考えます。

http://www.magicvideodepot.com/main/viewVideo.php?video_id=9930&title=Plunger_Sandwich（0004）

このプランジャーサンドイッチをパワーアップするバリエーションを解説します。

http://www.vimeo.com/3844650（0005.flv）

ホフジンサーエースプロブレムについて語ります。

http://www.youtube.com/watch?v=thOwOoCu0ys（0006）

オープンプリディクションについて語ります。

http://www.marklewisentertainment.com/html/tradeshow.html（0007）

このページの Click here to see Mark do a card trick を右クリックして、対象をファイルに保存してください。スベンガリデックをオーバーハンドシャフルする方法を解説します。

http://www.youtube.com/watch?v=YxYV0BXckCE&feature=related（0008）

ビデオを見ただけでは気づきにくいポイントを指摘いたします。

http://www.youtube.com/watch?v=wynH_t9FTrs&feature=related（0009）

この演技で弱い部分を強化する方法を説明します。

http://www.youtube.com/watch?v=vfujjcJK3EY（0010）

デヴィッド・エーサーバージョンの考察。

http://johngmagic.blogspot.com/（0011）

このページの 'Resettled' の映像を保存してください。'リセット' におけるカードケースの働きについて。

http://www.youtube.com/user/unmungo#p/u/28/UnkMk12Suj8（0012）

この 'ジャズエーセズ・オーヘンリーエンディング' において、1 カ所おかしな点を指摘します。

http://www.youtube.com/watch?v=9SLANOOVUSw&feature=related（0013）

この映像をもとにして、さらに洗練されたブレークの作り方を解説いたします。

私は "Card Magic Video Lesson" が、たんに方法を説明するだけではなく、カーディシャンの実力を向上させるのに役立つものになると期待しています。

Cardician's Journal

No.189

2011 年 7 月 29 日

″Card Magic Video Lesson″ ダウンロードファイル

前号に続き、以下のサイトの映像をダウンロードしておいてください。ファイル名のつけ方は前号に説明した通りです。今回以降は、ファイル名につける番号を先頭に示します。(″Card Magic Library″ を全巻購入予定の方は、必ずダウンロード保存を早めにやっておいてください。YouTube 映像はいつ削除されるかわかりませんので)。

0014 http://www.youtube.com/watch?v=ftVb2koinJ8

ギルブレスプリンシプルによるトリックですが、このように赤と黒を別のパイルに分けて見せるというやり方は記憶にありません。読んだのに忘れているのかもしれませんが。さてこのトリックにおいて、ひとつ無駄なハンドリングがあります。どうしたらその無駄を省けるでしょうか。

0015 http://www.youtube.com/watch?v=BYv3XVy9v7w

ポール・ハリスの名作、’ビザーツイスト’のバリエーションですが、最後がちょっと残念ですね。それは何のことでしょう。

0016 http://www.thetrickery.com/?nd=showvideo&key=8551

このページ内の Click Here を右クリックしてセーブ。これについては演技について論評するのではなく、このトリックデックの経緯と、私のバリエーションを説明します。

0017 http://www.youtube.com/watch?v=lgGOWK8-I0s

この演技においては、スロップシャフルについてでもなく、トライアンフとしての現象

についてでもなく、クリス・ケナーがさり気なく行った、あるひとつの動作について言及します。それはどの動作だと思いますか。

0018 http://www.youtube.com/watch?v=SMQmCo6n7Co

すでにリンクを紹介した、0009と0010のタマリッツの演ずるピップトリックと比較して論評します。

0019 http://www.fark.com/cgi/vidplayer.pl?IDLink=4615837

これはショーン・ファーカーの素晴らしい演技を紹介することが目的であり、フラリッシュをマジックに取り入れることについて論評します。

0020 http://www.youtube.com/watch?v=l2nAoKePdbM

タマリッツが演ずるエルムズレイの'1002番目フォーA'です。名手が演ずるのを見ると、このトリックが素晴らしいものだと再確認できます。ところでタマリッツは、通常のフォーエースアセンブリーと違うハンドリングをしている部分があります。その違いで雰囲気がずいぶん違っています。これを確認できたことは大きな収穫でした。どのハンドリングのことだと思いますか。

0021 http://www.youtube.com/watch?v=IszNGD79-rM

これについても、フラリッシュとマジックの関係を考えます。この演技には大きな問題があります。

0022 http://www.youtube.com/watch?v=q3aGR1Fv3N4

このフリッパント使用のチェンジについては、「どうしてそんなことするの」というようなことを書きます。

0023 http://www.youtube.com/watch?v=w_m-MTqDZAQ

ハーブ・ザロウ自身がやっているザロウシャフルを初めて見ました。見て驚きました。ロベルト・ジョッビが解説しているものと大きくことなる点があります。そのことに気づいたおかけで、本来スピーディにやるザロウシャフルを、ゆっくりやる方法を思いつきました。それも解説いたします。

0024 http://www.theory11.com/tricks/zarrow-shuffle-jason-england.php

このジェィソン・イングランドのザロウシャフルが、いままで私のイメージの中にあるやり方でした。ザロウのやり方と比較してみてください。

0025 http://www.thinklikeaconjurer.com/rbinaction/rbbottomplacementx.rm

右クリックして保存。’ボトムプレイスメント’もここまでできる、というすごさを見ていただきます。そして、このやり方の重要ポイントを説明します。

0026 http://www.youtube.com/watch?v=7PwDQCWREa4

″Card Magic Library″ 第 1 巻 115 ページに解説の、’MC ダブルリフト’と、同第 1 巻の 56 ページに解説の、’天海アディション’を融合したような技法です。この演技を見ると、カルしたカードをアップジョグカードの下にそろえるのに、上のパケットを前に動かして後に戻す動作でやっています。天海アディションでは前に動かすだけ、’MC ダブルリフト’では手前に引く動作だけでそえろています。往復の動作が決定的な怪しさを発生する例です。この例をもとして、少し違うやり方を考えつきました。

0027 http://www.youtube.com/watch?v=3UhzS8wpHkA&feature=related

このザロウシャフルがよくない点はどこでしょう。

0028 http://www.youtube.com/watch?v=UxSeo59MCJQ

ハンドリングは素晴らしいと思いますが、とんでもない間違いがあります。

0029 http://www.youtube.com/watch?v=BNbh4p3uZ84&feature=related

’タップアラック’の考案者自身による素晴らしい演技です。このトリックは ″Card Magic Library″ 第 10 巻に解説されています。ただひとつ、なぜポール・カミンズはあることをやらなかったのか、という疑問点があります。それは何でしょうか。

0030 http://www.youtube.com/watch?v=JeIi5So5vwc

ダローが演ずる’シカゴオープナー’、さすが見事ですね。でもほんの小さな傷があります。気にしなければどうということではありませんが、傷であることに違いはありません。

0031　http://www.youtube.com/watch?v=Q8kPJ63r_zs

’シカゴオープナー’にもこんな見せ方があったのか、という面白作品。これを日本語でやる場合の文言と、最後の部分の改善点を説明します。

0032　http://store.dananddave.com/cartier-david-jade.html

これはやり方を販売しているものですが、宣伝用の映像を見ればやり方がわかってしまうというものです。これを見てわからなければ、つぎの映像を見てください。

0033　http://www.youtube.com/watch?v=-bgkHK2VVXk

このように、何人かのやり方を見ると、やり方がよくわかるという例です。

0034　http://www.youtube.com/watch?v=u6JqHAVLHLY&feature=player_embedded

0009 や 0010 で取り上げたピップトリックの、見せ方のバリエーションです。原始的なトリックも、見せ方次第では味が変わるという例です。

0035　http://www.youtube.com/watch?v=jmfTj_dEfbY

’トライアンフ’は考えようによっては二重現象です。これは三重現象の’トライアンフ’です。いっぺんに 3 つの現象が起こるというのは、とても観客には理解しにくいとは思いますが、マジックカフェでもすごく評判になったように、マジシャンに対してはインパクトのあるやり方だと思います。これを一般の観客に見せるやり方を考察します。

キャロルリプレイスメントについて

″Card Magic Library″ 第 1 巻に解説した、’キャロルリプレイスメント’について、ホセ・キャロルの原著に書かれたやり方と違う点があることが、京都の岡田浩之氏からご指摘がありました。

″Card Magic Library″ 第 1 巻では、表向きの 2 枚の右上をつかんで縦に返し、いったん 2 枚をデックに置いて、すぐ続けて、左上コーナーを弾きながら上の 1 枚を取り上げる、というように書いてあります。

私がこのように書いてしまったのは、原著の説明を読んで練習しているうちに、その

やり方が身についてしまい、原著のやり方を再度確認せずに書いてしまったことによる間違いです。申し訳けありませんでした。

ホセ・キャロルのやり方で重要なことは、2 枚をデックの上にのせるのではなく、原著の Fig. 3 のように、右手のカードがデックの対角線に沿った位置にきたときに、左親指を左上のコーナーに当て、そこを弾くと同時に右指先で下のカードを押してやり、Fig. 4 のようにデックの上にアンロードするというのです。

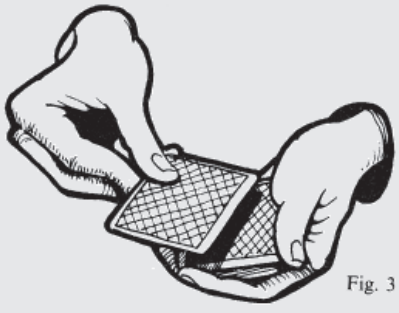


Fig. 3

Fig. 4

Fig. 3 の状態で、右手は左手から 2cm ぐらい離している、と書かれていますが、上下に 2cm なのか、左右に 2cm なのかはわかりません。おそらく上下であると思います。

なおこのやり方は、ホセ・キャロルが ' エコノミカルダブルリフト ' と呼んでいるものの、リプレイスメント部分を解説したものです。そのダブルリフト全体は、トップ 2 枚の下にゲットレディした状態から始まり、右上コーナーをつかんで縦に表向きに返して、右にずらしておき、それから上記のように裏返してリプレイスメントするものです。

表向きに返してから、デックの上に置くという部分を省いたところから、' エコノミカルダブルリフト ' と命名したとのことです。

"Card Magic Library" 第 1 巻に書いたやり方の説明についても、不十分でありました。けして 2 枚をデックの上に置くのではありません。デックの上にぴったり触れたときに下の 1 枚をアンロードして、上の 1 枚を弾くのです。

以上のように、間違いを訂正させていただきます。

Cardician's Journal

No.190

2011 年 8 月 5 日

″Card Magic Video Lesson″ に期待が高まります！

″Card Magic Video Lesson″ に使う映像へのリンクを紹介し始めて、今回で 3 週目ですが、使用する映像を見つければ見つけるほど、来年からのレッスン開始への期待が高まってきました。題材として活用できる映像が無尽蔵と言えるほどに見つかるのです。今回も多数紹介いたしますので、必ず早急にダウンロード保存してください。

リンクアドレスを紹介しただけでは、その映像をいま見てもあまり面白くないので、その映像でどのようなことを私が書こうとしているか、コメントを加えることにいたしました。私がどんなことを論評するか、推測しながら見ていただくのもよろしいかと思います。

″Card Magic Video Lesson″ ダウンロードリンク

0036 http://www.youtube.com/watch?v=yje-5U3BCVk&feature=related

オイル＆クイーンの典型的なセリフですが、これでよいでしょうか。

0037 http://biggeekdaddy.com/humorpages/Humor/BestCardTrick.html

’サムザベルホップ’にこんな素晴らしい見せ方があったのか、と驚いたもの。

0038 http://www.youtube.com/watch?v=GErpOl3KG_w

ビル・マローンの’サムザベルホップ’。0037 と比較すると、問題になる部分を含んでいると思いますが、それはどんな点だと思いますか。

0039 http://www.youtube.com/watch?v=hwBWhbgUbFQ&feature=autoplay&list=UL

GBat4-5aMyo&index=5&playnext=1

このプッシュスルーシャフルの問題点は何でしょうか。

0040 http://www.youtube.com/watch?v=wixfb-AdxbA

これは、サンドイッチ現象としてのセリフではなく、Eメールをテーマとしたことに新鮮味を感じました。

0041 http://www.youtube.com/watch?v=ph0xUQCPuOc

面白い演出として紹介。

0042 http://www.youtube.com/watch?v=GyZODy1fIdY

このトリックの最大の弱点は、デックを表向きに広げて見せることができないことです。それを解決することを検討いたします。

0043 http://www.youtube.com/watch?v=k2rk_rtSdOE

最後にノーマルカードであることを証明する行為が、トリックを教えてしまっている例。それをやらなければ、私はこのトリックのやり方がわかりませんでした。

0044 http://www.youtube.com/watch?v=CRw_AqIbL0g

何とも大胆な ' スペクテイターカットジエーセズ ' ではありますが、案外使えるような気がします。これをもとに、4 枚のKと 4 枚のQを現すバリエーションを考案したので、解説いたします。

0045 http://davidsolomon.net/previews.html#gpm1_5

' カードアクロス ' のじつに見事なバージョンです。この演技がなぜ現象をクリアにしているか、その要点を指摘します。そして、12 枚を 10 枚としてディールする方法が優れていますので、ソロモンのやり方とは違うかもしれませんが、私が思いついたやり方を説明します。

0046 http://www.youtube.com/watch?v=x0WxmZs6u6o

落ち着かないエンディングの例。このトリックについて、エンディングというものを考えます。

0047 http://www.youtube.com/watch?v=6KTesEG2vBE

この演技のごく一部を見て、とてつもなく面白いカードマジックを考案してしまいました。どの部分から思いついたのでしょうか。おそらくわからないと思います。こんなたわいもないことから新しいトリックを思いついたのか、というようなことです。

″Cardician's Journal No.189″ 修正版をアップロードいたしました

″Cardician's Journal″ No.189 は、リンク紹介にコメントを加えた修正版をアップロードいたしましたので、見ていない方はもういちどご覧になってください。

また、″Cardician's Journal″ No.188 においては、0033 が抜けていましたので、0033 を加えた修正版をアップロードいたしました。

Cardician's Journal

No.191

2011 年 8 月 12 日

マインドパワー

久しぶりにインターネット上で演じるカードマジックの新しい傑作を見つけました。つぎのアドレスで見ることができます。

http://wheelof.com/mindpower/

表示されているカードのうち好きなカードを選びます。それから任意の 4 文字の英語の単語を選びます。たとえばそれが DOWN であるとします。ハンドルをつかんで、その単語の最初の文字「D」と選んだカードとを合わせます。それから中央の赤ボタンを押します。

つぎは単語の 2 文字目「O」を選んだカードに合わせ、赤ボタンを押します。これを 3 文字目と 4 文字目でも行います。そうすると、選んだカードと選んだ言葉が当たります。

"Card Magic Video Lesson" ダウンロードリンク

0048 http://www.youtube.com/watch?v=Ovjt-aq2ZpY

とかく 2 枚の交換現象は、現象がわかりにくいですが、このトリックでは交換現象が明確に表現されています。その理由を説明します。そして、もっと印象的なエンディングを提案します。

0049 http://www.youtube.com/watch?v=DldZS38kBWc

リフルシャフルでの 3 枚の現し方が面白い。どこかに解説があったような気もしますが、これを見てやり方を思いつきました。それを説明します。

0050 http://www.youtube.com/watch?v=V0Ky00FNsaU&feature=related

シャフルされたデックで行う ' サムザベルホップ '。これは本当にすごいです。日本語化しにくいのが残念！

0051 http://www.youtube.com/watch?v=v-EiHtd8UxY

ノーマルカード使用版。

0052 http://www.youtube.com/watch?v=KQbUvXmwVOw

ギャフカード使用版。上記との比較。

0053 http://www.youtube.com/watch?v=tic6CNlP3P4

この技法を見て、原理はすぐわかりますが、実際にやってみるとすごく難しいです。スムーズにやれる方法を探ります。

0054 http://www.youtube.com/watch?v=_qJB8VyUMIU&NR=1

上記技法を応用したトリック。デック中央から現すのは種明かしになっているのでは。私のバリエーションを解説いたします。

0055 http://www.youtube.com/watch?v=uJWgO1BW_Xw

これはたんに、パームのやり方をデモしたもの。シャフルデモンストレーションが存在するように、もしかするとパームデモンストレーションというものもエンタテイメント価値があるかもしれません。そのためのアイデアを掘り起こします。

0056 http://www.youtube.com/watch?v=_bPOIslzqBM

インビジブルパームにおいて、右手で取ったように見せたあとの、扱い方について、私はかねがね疑問を持ち続けてきました。この演技では、取ったカードを握りつぶして消失させていますから、それをテーブルのカードの上に置いてずらして現すのは変なのです。握りつぶして消失させたら、どのように現したらよいでしょうか。

0057 http://www.youtube.com/watch?v=Ai5-Vz0FqL8

デュプリケートカード使用のアセンブリー現象について。

0058 http://player.youku.com/player.php/sid/XNTg5ODAwOTI=/v.swf

ティルトのコンビンサー手法が面白い。

Cardician's Journal

No.192

2011 年 8 月 19 日

「真珠物語」

マジックカフェにおいて、沢 浩氏の「真珠物語」に関してのスレッドがありました。そのスレッドには私も投稿していて、42 年まえの感動的な日のことを思い出しました。カードマジックとは直接は関係ありませんが、カードマジックの演技を構築する上でも参考になると思われますので、いくつかの投稿を紹介いたします。まずは沢氏の演技をご覧ください。

http://www.youtube.com/watch?v=YqfhJIt4tJc

Bill
YouTube を渡り見ているうちに、ドクター沢の演技に遭遇しました。素晴らしい。なんとエレガントで流麗なマジシャンでしょう。彼のことはよく知りませんが、私は彼のマジックの虜になりました。

Magic_Steve
本当ですね。まさに美しいマジックとはこのことです。見ていて心がなごみます。

加藤英夫
1969 年にダイ・バーノンとラリー・ジェニングスがレクチャーで来日して、沢氏のこの「真珠物語」を見たとき、二人は感動してともに涙を流しました。そのとき私は沢氏の演技の通訳をさせていただきました。忘れることのできない日でした。

Curtis Kam
この演技のいたるところに、沢氏のマジックが傑出していることが見られます。私は何年もまえに、幸運にも沢氏の演技を直接見ることができました。リチャード・カウフマンが計画していた、"Sawa Library of Magic" が完結されていないのは、まことに残念です。

加藤英夫
沢氏の演技の映像はあまりないと思います。上記の映像は、日本のマジシャンに取ってもたいへん貴重なものです。

Mito
私は昨年 11 月、東京で沢氏の演技を見ましたが、彼がマジックで生み出す心地よい雰囲気が素敵でした。

MagicClyde
おかしなことに、このスレッドの投稿の中で、沢氏のことについて述べる人はすべて現在形で書いているのに、"Sawa Library of Magic" について投稿している人はすべて過去形で書いています。はたして沢氏は存命なのでしょうか。そうであるとしたら、彼のマジックがこれから出版されるという、未来形の話がされる可能性はないのでしょうか。

加藤英夫
沢氏はお元気で、歯科医としての仕事を続けられていて、趣味としてマジックの創作も活発に続けられています。未来のことについてですが、沢氏は活発に作品を発表するお気持ちはないと思います。あるマジシャンにとっては、創作することが重要であり、それを発表することは重要でない、ということがあるのです。

Ustaad
美しいマジックの秘密が失われるのはよくありません。素晴らしい作品を発表することは、マジックを発展させ、活性化させるものです。誰かが沢氏に、作品をもっと発表して、指導ビデオも出すように説得するべきではないでしょうか。そのようにすることによって、沢氏は天才として、未来永劫、名を残すことになるでしょう。

加藤英夫
Ustaad さんの気持ちはよくわかります。と同時に、それは沢氏がけして望んでいることでないことを知っています。そもそも彼は天才として名を残そうなどとは考えていません。彼はマジックを愛するゆえにマジックを創造しているのです。マジックを考案することは彼の人生において喜びなのです。そのことを理解されたとしたら、皆さんは彼のマジックの方法を知ることよりも、もっと大きなものを知ることになると思います。

私は多くの沢氏のマジックの方法を知っています。なぜなら私は彼の作品集を書いたことがあるからです。私はいまその本のページをめくってみて、作品そのものからはあまり大きく感じるものはありません。私は方法を知るよりも、彼の演技を見て、その演技からの方がより多くを学ぶことができると思います。

私は沢氏のマジックの方法を知りたいとは思いません。なぜなら私は沢氏のマジックをその通りに演じても意味がないからです。私は沢氏の演技から、演技のタッチ、演技するときの愛情などを感じました。それで十分なのです。

Ustaad
親愛なる加藤さん、私の投稿に対して回答いただきまして、有り難うございます。加藤さんの指摘されたことに同感いたします。心に響いて、生涯心に残るのは、けして方法ではなく、彼の演技なのですね。

加藤英夫
Ustaad さん、私とあなたが沢氏のマジックについて、同じ思いを持っていることが嬉しいです。

(沢氏のマジックの素晴らしさについてのスレッドは、これでうまく完結したかと思ったら、蛇足のような投稿がありました)。

Charlie the Tuna
沢氏のマジックの素晴らしさが私たちの注目を引くのは、方法よりもむしろ、彼のプレゼンテーションにあると思います。それについて彼が書いてくれるとしたら、たいへん価値があると思います。もしも沢氏がこのスレッドをお読みななっているとしたら、方法とプレゼンテーションを説明するビデオを作られることを強く奨めたいものです。

この演技の映像を見て、沢氏のプレゼンテーションを学べないとしたら、ビデオの説明を見たとしても学べないと思います。彼のプレゼンテーションの核心は、言葉で説明できるプレゼンテーション技術ではないからです。それは心で感じるしかないのです。

私は沢氏の演技からだけでなく、二人の客の反応、顔の表情からも学ぶことができました。ダグ・ヘニングが、「私はマジックで人々をファシネイト (魅了) したい」と述べたことがありますが、まさに二人の表情は、ファシネイトされたものでした。

"Card Maigc Video Lesson" ダウンロードリンク

カードマジックビデオレッスンについては、"Cardician's Journal"No.188 と No.189 にダウンロードについての説明がされていますので、その通りに保存してください。映像が削除されても、当方から提供することはできませんので、紹介されたものについては、なるべく早急にダウンロード保存しておいてください。

0059 http://www.youtube.com/watch?v=7eCpDlaLEcw&feature=related

Nivala（フィンランド）2006 年、FISM ストックホルム大会　クロースアップ部門第 2 位の演技。晴らしいので紹介。最後にカードを選んだ客 1 人 1 人をさし示す動作で終わるのが素敵です。

0060　http://www.youtube.com/watch?v=t1956K8-4E0&feature=player_embedded#at=21

参考までにこれは、FISM 北京大会での Christian Nivala です。カード部門で、ショーン・ファーカーに続いて第 2 位となりました。0059 と比較すると、カメラと演技者の距離によって、あるひとつのことがわかってきます。はたしてどんなことだと思いますか。

0061　http://www.youtube.com/watch?v=0_yVLkLWTlk

ルイス・デ・マトスによる、トリプルファンタジアと題する演技。このマジックに関するミニヒストリーと、原点になった作品を解説いたします。

0062　http://www.youtube.com/watch?v=_0ocB85CiHA

枚数の違うカードの交換現象は、あまり多く存在しません。とくにこの演技のようにビジュアルで実現するものは、記憶にありません。このマジックを磨き上げるポイントを指摘いたします。

0063　http://www.youtube.com/watch?v=5rN2VZBbq_I

オイル＆ウォーターの裏表 / 赤黒バージョン。これを見たら、頭がくらくらしました。「ここまでやるか」、この執念こそ、クリエーターの根源にあるべきものかもしれません。マジシャンの〝やり過ぎ〟の問題を検討します。

0064　http://www.youtube.com/watch?v=9Rd30ARmGts

テーブルの上にたたきつけた方が効果的なのに、なぜアッシャーはデックの上にたたきつけたのでしょうか。その理由を説明いたします。

0065　http://www.youtube.com/watch?v=a0ztHj1D8RU

この演技に関しては、とくにコメントすることはありませんが、彼の演技の中のいくつかの点が私に刺激を与えて、ひとつのマジックを思いつかせてくれました。それを解説いたします。

0066 http://www.youtube.com/watch?v=4kwiepW8NQU&NR=1

このジャン・ジャック・サンベールのプルスルーシャフルを考察いたします。

0067 http://www.youtube.com/watch?v=bpPu7YnBQTQ

台湾のチャールズ・スー氏による、片倉雄一氏の代表作 ' ダブルショック ' の模範的な演技。スイッチの方法が片倉氏と微妙に違います。

0068 http://www.youtube.com/watch?v=wP6-QirpMJU&feature=related

もうひとつの ' ダブルショック ' の演技。片倉氏のやり方に近いスイッチのやり方がされています。この 2 つの演技を見ていただいたあと、このトリックの土台となったと言われている、私の作品 ' 幻覚 ' を、カードマジック研究第 3 巻から引用して解説いたします。

0069 http://www.youtube.com/watch?v=n7XAr87PmDg

ルー・チェンの ' ダブルショック ' の演技。最後のポーズについて、マジックカフェで多くのメンバーが指摘した点を紹介します。私も彼の演技について、かなりまえから気になっいた点です。

面白ビデオ

ビデオレッスンに使える映像を探すうちに、カードマジックにかぎらず、面白い映像がたくさん見つかります。今日は、テレビのコメディドラマの中でカードマジックが頻繁に登場するものを紹介します。以下のアドレスにアクセスすると、いくつかの同番組のクリップがリストされます。ものすごく笑えますので、ぜひご覧になってください。

http://www.youtube.com/watch?v=KYvA7aAqnYo&feature=related

Cardician's Journal

No.193

2011 年 8 月 26 日

"Card Maigc Video Lesson" ダウンロードリンク

"Card Magic Video Lesson" については、"Cardician's Journal"No.188 と No.189 にダウンロードについての説明がされていますので、その通りに保存してください。映像が削除されても、当方から提供することはできませんので、紹介されたものについては、なるべく早急にダウンロード保存しておいてください。

0070 http://www.youtube.com/watch?v=KxQ2nGjsq0I&feature=related

レッド＆ブラック分離現象のストリッパーデックバージョン。

0071 http://www.youtube.com/watch?v=Mk1xjbA-ISE

マルコ・テンペストによる、日本語でも演じられるサムザベルホップタイプのディスプレイトリック。

0072 http://www.youtube.com/watch?v=8A8I5eVYvQ0&feature=player_embedded

バラリノのサンドイッチトリック。'モンキーインザミドル'の原理との類似性について。

0073 http://www.youtube.com/watch?v=6xZt4mirw14

ビドルトリックにおけるカードの消失表現について。このように意図的に飛行させると、たんなる飛行現象になってしまうということ。ビドルトリックの良さがなくなっています。

0074 http://doubledeal.wordpress.com/2009/12/07/the-genius-of-roy-walton-guest-post-by-joe-mckay/

このページ中の 'SmokeScreen' の映像を右クリックでダウンロード保存してください。この作品を" コンプリートウォルトン" (1981 年) で読んだとき、ハンドリングの煩雑さを感じて、途中で投げ出してしまいました。今回演技を見て、操作の煩雑さのことよりも、もっと重要なことを見つけました。それは、ツイスティング現象が終わったあと、カードをまとめてケースの中に入れることです。どうしてでしょうか。

0075 http://www.youtube.com/watch?v=ztBZcfAIqXM

サムザベルホップタイプのトリックで、カードの現し方に魅力を出しているもの。ただし、デック全部で行わず、最後は残りのカードを飛ばして、カードケースの名称のダジャレで終わっています。

0076 http://www.youtube.com/watch?v=RR2E6BShmjo

抜き出した 4 枚のAを見せるところでたいへんもたついていますが、このもたつきをなくすにはどうしたらよいでしょうか。それを説明いたします。

0078 http://www.youtube.com/watch?v=cijBBxgcXgk

タマリッツでもこんなことをするのかと、あっけにとられたパケットスイッチ。

0079 http://www.youtube.com/watch?v=k9VfHI6r7yk

マクドナルドエーセズをパケットトリックにしてしまったのは、面白い考え方ですね。この作品を洗練させることを考えます。

"Card Magic Video Lesson"No.001 をアップロードいたしました！

本格的な発行は来年になってからですが、"Card Magic Video Lesson" がどのようなものになるかお伝えするために、No.001 を作成し、アップロードいたしました。以下をクリックしてください。

CMVL No.001

Cardician's Journal

No.194

2011 年 9 月 2 日

″Card Maigc Video Lesson″ ダウンロードリンク

″Card Magic Video Lesson″ については、″Cardician's Journal″No.188 と No.189 にダウンロードについての説明がされていますので、その通りに保存してください。映像が削除されても、当方から提供することはできませんので、紹介されたものについては、なるべく早急にダウンロード保存しておいてください。

映像ファイルではなく、各号の HTML ファイルにつきましては、ファイル名のつけ方について、″Card Magic Video Lesson″No.001 を参照してください。

0080 http://www.youtube.com/watch?v=KyxeFVO4ZUE

' シカゴオープナー ' の演出の変種。このトリックを洗練させることを考えます。

0081 http://www.myspace.com/video/vid/5286338

選ばれたAが、2 枚のJとともにデックの中に分散されたあと、2 枚のJの間にはさまると言いますが、予想に反して、デックの中にいれなかった方の 3 枚が選ばれたAがJの間にはさまった状態になっています。はたして、デックの中に入れたカードを見せないというこの終わり方はよいのでしょうか。

0082 http://www.youtube.com/watch?v=jz6lCxtm9CM

これはフリッパントムーブのの下手な見本ですこれを見て無理にひとつのマジックを作ってしまいました。下手な演技もヒントになるという例です。

0083 http://www.youtube.com/watch?v=cPxIahP1aE0&feature=related

これは記録に残る最古のカードトリックである、”How to deliver out four Aces, and to convert them into four Knaves’（レジナルド・スコット著 ”The Discoverie of Witchcraft”, 1584 年刊）と同じ現象を、原案におけるグライドをダブルリフトやチェンジに置き換えて、フラリッシュ的な見せ方を加えて演じたものです。“Card Magic Library” 第 10 巻に解説されているトリックのアイデアを流用したバージョンを解説いたします。

0084 http://www.youtube.com/watch?v=a_xgjh7DSS8#t=5m15s

これは 0083 との関連で取り上げました。

0085 http://www.youtube.com/watch?v=CoySbicVpz4

映像 0004 とコンビンシングコントロールの比較のため。

0086 http://www.youtube.com/watch?v=E1Z_gBW1DVo&feature=related

映像 0004 の関連作品として。

0087 http://www.youtube.com/watch?v=bKWL9-O3LTA

インターネットでよく見られる、演技上望ましくない点を指摘いたします。

0088 http://www.youtube.com/watch?v=p92oQX00IY0

素晴らしいので紹介いたしました。

0089 http://www.creationsbystar.com/page28cardlevitator.html

このページの View Film Clip を右クリックして保存してください。このギミックは古くからありましが、実際に使われているは初めて見ました。たいへん素晴らしい現象なので紹介いたしました。

″Card Magic Video Lesson″No.002 をアップロードいたしました！

″Card Magic Video Lesson″No.002 をアップロードいたしました。以下をクリックしてください。″Card Magci Library″ 第 10 巻が完成した以降、本格的にスタートするまでは、どなたにでも見られる状態にアップロードいたします。

CMVL No.002

Cardician's Journal

No.195

2011 年 9 月 9 日

″Card Maigc Video Lesson″ ダウンロードリンク

″Card Magic Video Lesson″ については、″Cardician's Journal″No.188 と No.189 にダウンロードについての説明がされていますので、その通りに保存してください。映像が削除されても、当方から提供することはできませんので、紹介されたものについては、なるべく早急にダウンロード保存しておいてください。

映像ファイルではなく、各号の HTML ファイルにつきましては、ファイル名のつけ方について、″Card Magic Video Lesson″No.001 を参照してください。

0077 http://www.youtube.com/watch?v=Q3YW2xFs02I&feature=player_embedded

エンドクリーンについて考えます。

0090 http://dailycardtrick.blogspot.com/2011/08/3-card-catch-by-reinhard-muller.html

スリーカードキャッチ。

0091 http://www.youtube.com/watch?v=Lemy01UJWYo

スベンガリデックでオーバーハンドシャフルする方法。開始後 145 秒から行うシャフルについてです。他の部分はほとんど参考になりません。

0092 http://www.youtube.com/watch?v=F2xpe8Fwyos

セカンドディールにおけるグリップについて考察いたします。

0093 http://www.youtube.com/watch?v=aCbs46-UFg4

″Card Magic Library″ 第 1 巻に解説されている、’タマリッツリプレイスメント’の重要ポイントを指摘いたします。

0094 http://www.mrhypnotist.org/video/glennbishopontheflytriumph.wmv

右クリックで保存してください。この演技のトライアンフシャフルの問題点を考察いたします。トライアンフシャフルの正しいやり方は、″Card Magic Library 第 8 巻″に解説されています。

0095 http://www.youtube.com/watch?v=OEzD0ypWuok

アマーのレイジーマンズカードトリックの演技。これはほとんど”クロースアップカードマジックに解説”されている、アル・コランの’レイジーマンズカードトリック’に忠実に演じられています。これに関して、マジックカフェでハリー・ローレインが演出を考えたととの、問題発言について詳細に報告いたします。

0096 http://www.youtube.com/watch?v=2KrdBUFeFtY

素晴らしい’シカゴオープナー’の演技ではありますが、ただひとつだけ指摘したい点があります。

0097 http://www.youtube.com/watch?v=UYY8TfhXPME

映像 0001 の赤黒分離シャフルで指摘した、オーバーハンドシャフルでのやり方。

″Card Magic Video Lesson″No.003 をアップロードいたしました！

″Card Magic Video Lesson″No.003 をアップロードいたしました。以下をクリックしてください。″Card Magci Library″ 第 10 巻が完成した以降、本格的にスタートするまでは、どなたにでも見られる状態にアップロードいたします。

CMVL No.003

Cardician's Journal

No.196

2011 年 9 月 16 日

″Card Maigc Video Lesson″ ダウンロードリンク

″Card Magic Video Lesson″ については、″Cardician's Journal″No.188 と No.189 にダウンロードについての説明がされていますので、その通りに保存してください。映像が削除されても、当方から提供することはできませんので、紹介されたものについては、なるべく早急にダウンロード保存しておいてください。

映像ファイルではなく、各号の HTML ファイルにつきましては、ファイル名のつけ方について、″Card Magic Video Lesson″No.001 を参照してください。

0098 http://www.the-doppler-effect.com/arthur/videos.html

このページの The Offbeat Shrinking Deck をクリックして、表示されたビデオ画面からダウンロード保存してください。以下、0101 までこのページからダウンロードします。カードマジックのオープニング現象の好例として紹介。

0099 http://www.the-doppler-effect.com/arthur/videos.html

0098 と同じページの The Relativity Change をクリックして、表示されたビデオ画面からダウンロード保存してください。これは、見てもすぐにはやり方がわからないものを、論理的に分析して見抜く方法を説明します。

0100 http://www.the-doppler-effect.com/arthur/videos.html

0098 と同じページの Spatial Exchange をクリックして、表示されたビデオ画面からダウンロード保存してください。前述の推測は、この応用マジックを見て確実なものとなりました。

0101 http://www.the-doppler-effect.com/arthur/videos.html

0098と同じページの180をクリックして、表示されたビデオ画面からダウンロード保存してください。同じ技法を応用した作品です。

0102 http://www.youtube.com/watch?v=0AOcTvHPBQQ

’シカゴオープナー’の異なる演出についてお話いたします。

0103 http://www.youtube.com/watch?v=QTY1ZNkB3aE

この映像は、上質な手順構成と、上質な演技のあり方の参考になると思います。

0104 http://www.youtube.com/watch?v=OEzD0ypWuok

アマーのレイジーマンズカードトリックの演技。

0105 http://yourmagic.com/media/BWave.mov

このアドレスを右クリックして、「対象をファイルに保存」を選択してダウンロード保存します。

0106 http://www.youtube.com/watch?v=GuEk1IQPDe0

0107 http://www.youtube.com/watch?v=oB4hCMQTofQ

以上、’B’Wavw’のバリエーションを比較検討いたします。

″Card Magic Video Lesson″No.004をアップロードいたしました！

″Card Magic Video Lesson″No.004をアップロードいたしました。以下をクリックしてください。″Card Magci Library″第10巻が完成した以降、本格的にスタートするまでは、どなたにでも見られる状態にアップロードいたします。

CMVL No.004

Cardician's Journal

No.197

2011 年 9 月 23 日

"Card Magic Video Lesson" ダウンロードリンク

0108 http://www.youtube.com/watch?v=L4kTB0P8Q1Q

この作品で良い点と修正したい点を指摘します。この作品にもとづいて考えたトリックも解説します。

0109 http://www.youtube.com/watch?v=ijtroCfJeM8

晴らしい作品ですが、ほんの少し変えた方がぐっとよくなると思われる点を指摘いたします。

0110 http://www.youtube.com/watch?v=NVtR7Y0zPiM&feature=related

アセンブリーではないアセンブリートリックの例。

0111 http://www.youtube.com/watch?v=cZ76kif04HM&feature=player_embedded

日本人向きではないこの傑作マジックのセリフを、日本人向きに変えることを考えます。

0112 http://mymagic.com/bannon.htm

前作と比較検証いたします。

0113 http://www.youtube.com/watch?v=lLTt03q2ZWs&mode=related&search=

面白いので紹介いたしました。

0114 http://www.youtube.com/watch?v=TjE_nn9p1pk

ホール・ハリスの解説を読んでもよくわからなかった現象です。

0115 http://v.youku.com/v_show/id_XMjEwMjI0NTA4.html

参考までに、違うマジシャンのオスモシスの演技です。このようにスムーズに演じるのがよいか、まえの演技のようにスムーズにやらないのがよいのか、考えさせられます。

"Card Magic Video Lesson"No.005 をアップロードいたしました！

"Card Magic Video Lesson"No.005 をアップロードいたしました。以下をクリックしてください。"Card Magci Library" 第 10 巻が完成した以降、本格的にスタートするまでは、どなたにでも見られる状態にアップロードいたします。

CMVL No.005

Cardician's Journal

No.198

2011 年 9 月 30 日

″Card Magic Video Lesson″No.006 をアップロードいたしました！

″Card Magic Video Lesson″No.006 をアップロードいたしました。以下をクリックしてください。″Card Magci Library″ 第 10 巻が完成した以降、本格的にスタートするまでは、どなたにでも見られる状態にアップロードいたします。

CMVL No.006

Cardician's Journal

No.199

2011 年 10 月 7 日

″Card Magic Video Lesson″ ダウンロードリンク

0116 http://www.youtube.com/watch?v=_RX2F_bIuwU&feature=relmfu

予言をあとから見せるという変な現象。予言の提示の仕方について考察します。

0117 http://www.youtube.com/watch?v=cwydpFLc_Yo

この演技の中に見られるささやかな傷を指摘し、補正することを考えます。

0118 http://www.youtube.com/watch?v=cs4xUdGZUmk&feature=related

カメラトリックを取り入れると、逆効果になる例として取り上げました。

0119 http://www.youtube.com/watch?v=vIbkJhv8hcc&feature=related

これはおそらく、映像 0117 に使われている手法のもとになったものと思われます。同じ手法を表面の変化に使うか、裏面の変化に使うかの違いです。

0120 http://www.youtube.com/watch?v=c23jG3NgD1c&feature=related

デレク・ディングルの 'DD ダブルリフト' です。この映像では薬指の動きが丸見えですが、薬指の動きが見えず、薬指でダブルプッシュする利点を生かすやり方を説明します。

″Card Magic Video Lesson″No.007 をアップロードいたしました！

″Card Magic Video Lesson″No.007 をアップロードいたしました。以下をクリックしてくださ

い。No.001 から No.010 までは、どなたにでも見られる状態にアップロードいたします。
No.011 以降は、″Card Magic Library 第 8 巻 ″ ご購入の方への提供となります。

CMVL No.007

Cardician's Journal

No.200

2011 年 10 月 14 日

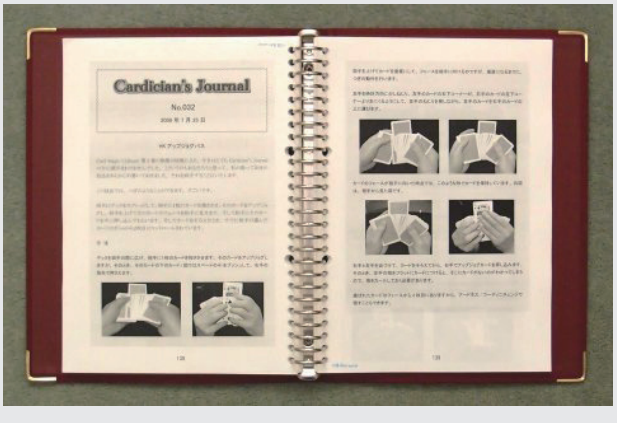
″Cardician's Journal Special ″ 第 1 巻が完成いたしました！

″Cardician's Journal Special″ 第 1 巻が完成いたしました。当初は、″Card Magic Library″ 第 10 巻が完成した時点で提供開始するとお知らせいたしましたが、提供時期、提供方法を変更させていただきます。

″Cardician's Journal Special″ 第 1 巻は、″Card Maigc Library″ 第 8 巻を購入された方へ無償にて提供いたします。第 8 巻を購入された方は、メールにて、件名を「CJS 第 1 巻希望」として、氏名、住所を明記の上、お申し込みください。お申込みがあり次第、メールに添付してお送りいたします。

提供期間：2011 年 10 月 13 日～ 11 月 30 日

″Cardician's Journal Special″ 第 1 巻は、″Cardician's Journal″ No.001 ～ No.050 を pdf ファイルにまとめたものです。したがってページごとにプリントアウトすることができます。B5 版のルーズリーフ用紙に印刷すれば、ホルダーに保管していただけます。198 ページありますから、ほぼ ″Card Magic Library″1 巻分の内容量となっています。



″Cardician's Journal Special″ 第 1 巻追加事項

No.001

劉謙師が使用したデックの構造を説明し、類似の構造のデックを使用した作品、’フライングXマーク’を解説しています。

No.002

この号で説明したことから、″Card Magic Library″について方針変更になったことを説明しています。

No.003

この号に解説した、ポール・ゴードンの’スタッド’や、加藤の’4 つの祭壇’は、数理的トリックを感じさせるものでしたが、演出を加え、現象や方法をパワーアップした作品、’合コントリック’を解説いたしました。

No.004

この号には、’ゴリラインザミドル’を解説いたしましたが、そのトリックにおけるサンドイッチ手法について、重要点を補足いたしました。

No.012

この号に解説された、カール・ファルブズの’フレンドリーゴースト’では、4 枚のカードを選択するとき裏向きでやっていますが、表向きで選択させる方法を採用した作品、’ダブルゴースト’および’ゴーストダンス’を解説いたしました。原案は原理が面白いだけのトリックでしたが、これらの作品によった実演する価値のあるものとなりました。

No.014

この号で解説した’フィンガーセンサー’は、後向きで指でスプレッドの上で止めたあと、前向きになってから指の位置を少しずらす必要がありましたが、その動作が目立たない方法を考えて、’パームセンサー’という作品として解説いたしました。

No.023

この号で解説した、裏表交互状態でリバースファンすると、全部裏向きに見えるとい

うアイデアを利用して考案した作品、’オールフェイス・オールバック’を解説しています。’オールバック’は、両面が裏面になるという現象ですが、この作品では、両面とも裏になったり、両面とも表になったりします。

No.025

この号では、’スプレッドエスティメーション’という技法を解説いたしましたが、その技法を使用した作品、’スプレッド記憶術’を解説いたしました。

No.028

この号では、スタック全体をくずさないフォールスシャフルを話題といたしましたが、そのタイプのフォールスシャフルとして、優秀な技法、’レズバニシャフル’を解説いたました。この技法は優秀でありながら、ほとんど無名でありました。最近のマジックカフェでの議論中に紹介されて、一躍脚光を浴びた技法です。

No.034

この号で解説した’文字対応記憶法’が、理解しにくいものでしたので、よりわかりやすく補足いたしました。

No.035

この号では、’アルティメイトスプリット’を解説いたしましたが、その作品の土台となった、’ファイナルスプリット’をJCS教科書から引用して紹介いたしますが、さらにその作品の改善案も解説いたしました。

No.043

この号では、チャニング・ポロックについて書きましたが、ポロックのマジックについて詳しく知っていただくため、雑誌″マジック″2001年8月号より、’チャニング・ポロック物語’を翻訳してお届けします。ポロックの生い立ちから始まり、鳩出し誕生の経緯、そして他のマジシャンにどのように影響を与えたか、などの逸話が書かれています。

No.046
この号で説明したカール・ファルブズの’Wils Bill’s Game’では、最初にカードを表向きに広げて見せられませんでした。表向きに広げてよく混ざっているのを見せられる改良版、’ワイルドポーカー’を解説いたしました